ISSN 1346-6976

石 川 県 立 看 護 大 学

年 報

第 15 巻

平成26年度

石川県公立大学法人
石川県立看護大学
ISHIKAWA PREFECTURAL NURSING UNIVERSITY

巻頭言

平成 25 年度は文部科学省から発信された大学改革に基づき、主として意思決定の迅速化、的確な意思決定のための組織体制の見直しなどを行いました。これは、いわゆるガバナンス改革と称されるものです。

平成 26 年度はそれと平行して、本学の優先課題として自己点検評価の実質化と充実を挙げ、経年的評価をいつでも誰でも容易に行えるようにするにはどのようなデータを蓄積するかについて検討してまいりました。その大きな柱は、教員の個別評価、総体的な教育評価・研究評価・地域貢献評価、それらを公表する手段の一つとしての年報改革でした。

改革はまだ途上ですが、この年報にはその一部が反映されています。4.4 の委員会活動報告の様式を中期計画に対応できるように改正したことや、6. の教員の業績の項における研究業績の取り上げ方の基準を明確に示したことです。また、附属センターの活動がわかりやすく記録されるように地域ケア総合センターと看護キャリア支援センターの項を改めました。さらに、学外とかかわりながら行っている事業をまとめて、12. には大学として取り組んでいる連携事業をいう項も設けました。

本学は、開学から 15 年近く経過する大学として、開学時からの教員を多数擁しながら基盤を固めてまいりました。しかし、看護系大学である本学は、超高齢社会を迎える日本の保健医療福祉上のニーズの変化に応じた人材輩出を配慮せざるを得ない状況が生まれています。固めてきた基盤を見直す必要性も感じ始めています。教育内容の工夫や変化が必要となり、研究においては一層臨床現場や地域社会への応用を意図した研究の推進が求められています。学生の変化も著しく、現代の学生に適した教授方法を取り入れること、多様な学生の個性を見極めながら個別の支援も加味することが重要です。

このように、多忙な中でも何とか成果を出してきた従来型・教員マイペース型の教育研究に固執できない状況が生まれてしまいました。より手のかかる教育方法や研究内容を、開学以来の本学の理念を変えることなく、容易さをもって遂行できるような教員の質向上が求められている時代を迎えているとも言えます。

このような状況に応じた歩みは年報で表現しにくいところです。しかし、本学の年報には、この 1 年の大学全体の様相、教職員一人ひとりの学内外での役割・活躍や、個人で努力したことの成果などが、世間におもねることなく正直にほぼ網羅的に掲載されています。どうぞご覧いただき、ありのままの本学の姿とその背景にある考え方や気づきをくみ取っていただきたいと思います。

読者の皆様、是非 http://www.ishikawa-nu.ac.jp/にもアクセスしてみて下さい。忌憚のないご意見をうかがえれば幸甚です。

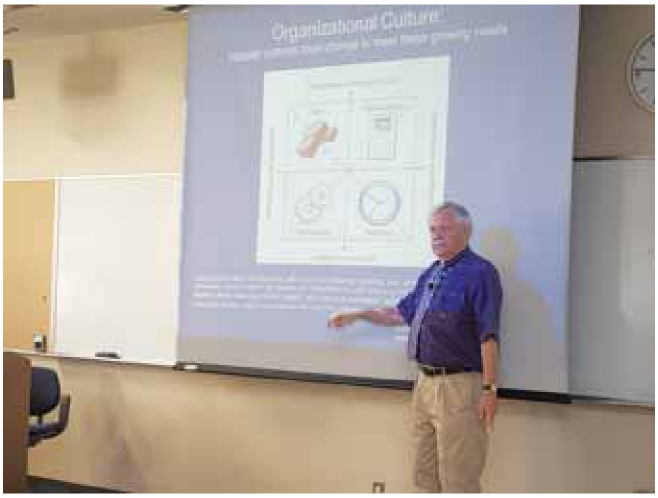
石川県立看護大学　学長　石垣和子

第 15 回入学式
（平成 26 年 4 月 4 日）

夏のオープンキャンパス
（平成 26 年 7 月 19 日）

第９回夏期アメリカ看護研修（平成 26 年８月 26 日～9 月８日）

JICA　日系研修（平成 26 年 7 月 15 日〜8 月 8 日）



米国ワシントン大学との交流事業　公開講演会（平成 26 年 9 月 11 日）
「Team Approaches to Current Challenges in Nursing Care」
ワシントン大学看護学部　ノエル・クリスマン教授

韓国全北大学看護学部訪問（平成 26 年 11 月 17 日　覚書締結）

感染管理認定看護師教育課程の開設
（開校式　平成 26 年 7 月 16 日）

（修了式　平成 27 年 2 月 18 日）

第 11 回卒業式（平成 27 年 3 月 13 日）

目　次

巻頭言

1.　学事 …… 1

1.1　平成26年度学事暦 …… 1

1.2　大学組織図 …… 2

1.2.1　大学組織図 …… 2

1.2.2　委員会構成 …… 3

1.3　オープンキャンパス …… 5

1.4　懇話会 …… 6

2.　教員・職員紹介 …… 8

2.1　教員紹介 …… 8

2.2　特任教員等紹介 …… 12

2.3　教員組織構成 …… 12

2.4　職員紹介 …… 14

3.　中期計画 …… 15

4.　看護学部看護学科 …… 17

4.1　理念・目標 …… 17

4.1.1 教育理念 …… 17

4.1.2 教育目標 …… 17

4.1.3 アドミッション・ポリシー（求める人材） …… 17

4.1.4 カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成・実施方針） …… 18

4.1.5 ディプロマ・ポリシー（学位授与に関する方針） …… 18

4.2　学部学生の入学・在学・卒業の状況 …… 19

4.3　教育・履修体制 …… 22

4.4　委員会活動 …… 23

4.4.1　教務委員会 …… 23

4.4.2　学生委員会 …… 25

4.4.2.1　学生相談専門部会 …… 27

4.4.2.2　進路支援専門部会 …… 27

4.4.3　研究推進委員会 …… 28

4.4.3.1　共同研究審査部会 …… 29

4.4.4　情報システム委員会 …… 30

4.4.5　広報委員会 …… 30

4.4.6 入学試験委員会 …… 32

4.4.6.1　入試実施部会 …… 33

4.4.6.2　入試評価部会 …… 33

4.4.7 自己点検・評価委員会 …… 34

4.4.8 ＦＤ委員会 …… 35

4.4.9 ハラスメント委員会 …… 36

4.4.10 情報セキュリティ委員会 …… 36
4.4.11 コンプライアンス委員会 …… 36
4.4.12 遺伝子組換え実験等安全委員会 …… 37
4.4.13 倫理委員会 …… 38
4.4.14 衛生委員会 …… 38
4.5　平成26年度　卒業研究論文題目一覧 …… 40

5.大学院・看護学研究科 …… 45
5.1 理念・目標 …… 45
5.1.1 博士前期課程（修士） …… 45
5.1.1.1 教育理念 …… 45
5.1.1.2 教育目標 …… 45
5.1.1.3 アドミッション・ポリシー（求める人材） …… 45
5.1.1.4 カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成・実施方針） …… 46
5.1.1.5 ディプロマ・ポリシー（学位授与に関する方針） …… 46
5.1.2 博士後期課程（博士） …… 46
5.1.2.1 教育理念 …… 46
5.1.2.2 教育目標 …… 47
5.1.2.3 アドミッション・ポリシー（求める人材） …… 47
5.1.2.4 カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成・実施方針） …… 47
5.1.2.5 ディプロマ・ポリシー（学位授与に関する方針） …… 47
5.2　大学院生の入学・在学・修了の状況 …… 48
5.3　大学院教務学生委員会 …… 50
5.4　平成26年度　修士論文題目一覧 …… 51
5.5　平成26年度　博士論文題目一覧 …… 51

6.　教員の業績 …… 52
6.1　書籍 …… 52
6.2　学術論文 …… 52
6.3　その他の原稿 …… 55
6.4　学会発表 …… 57
6.5　社会活動・地域貢献 …… 63
6.6　その他（受賞等） …… 77
6.7　研究助成金 …… 78
6.7.1　科学研究費助成金（日本学術振興会） …… 78
6.7.2　学内研究助成費 …… 80
6.7.3　その他助成金等 …… 83

7.　国際交流 …… 85
7.1　国際交流委員会 …… 85
7.2　ワシントン大学との交流 …… 85
7.3　夏季アメリカ看護研修（学部科目「国際看護演習」） …… 87
7.4　韓国全北大学看護学部との覚書（ＭＯＵ）締結 …… 88

8.　大学施設の開放 ··· 90

9.　附属図書館 ··· 91
9.1　図書館運営委員会 ··· 91
9.1.1　石川看護雑誌編集専門部会 ··· 91
9.2　今年度の主な活動状況について ··· 92
9.3　資料整備状況 ··· 93
9.4　利用統計 ··· 94
9.5　利用者サービス ··· 96
9.6　職員研修 ··· 98

10.　附属地域ケア総合センター ··· 99
10.1　地域ケア総合センター運営委員会 ··· 99
10.1.1　人材育成事業 ··· 99
10.1.1.1　主催事業 ··· 99
10.1.1.2　本学教員主催の研究会・事例検討会 ··· 99
10.1.1.3　講師派遣事業 ··· 99
10.1.2　地域連携・貢献事業 ··· 99
10.1.2.1　地域連携事業 ··· 99
10.1.2.2　生涯学習講座 ··· 100
10.1.3　国際貢献事業 ··· 100
10.1.4　かほく市との包括的連携 ··· 100

11.　附属看護キャリア支援センター ··· 101
11.1　看護キャリア支援センター運営委員会 ··· 101
11.2　感染管理認定看護師教育課程 ··· 101
11.2.1　受講生の応募・受講・修了状況 ··· 101
11.2.2　感染管理部会（入試委員会） ··· 101
11.2.3　感染管理教務委員会（教員会） ··· 102

12. 大学として取り組んでいる連携事業 ··· 103
12.1　北陸高度がんプロチーム養成基盤形成プラン ··· 103
12.1.1 がんプロ企画委員会 ··· 103
12.1.1.1　がんプロ運営委員会 ··· 105
12.2 大学間連携共同教育推進事業－ヒューマンヘルスケア人材育成プロジェクトー··· 106
12.3 大学コンソーシアム石川関連事業 ··· 107
12.3.1　いしかわシティカレッジ「地域と災害（基礎および実践)」 ··· 107
12.4　能登キャンパス構想事業 ··· 108

編集後記 ··· 110

1．学事

1.1　平成26年度学事暦

平成26年

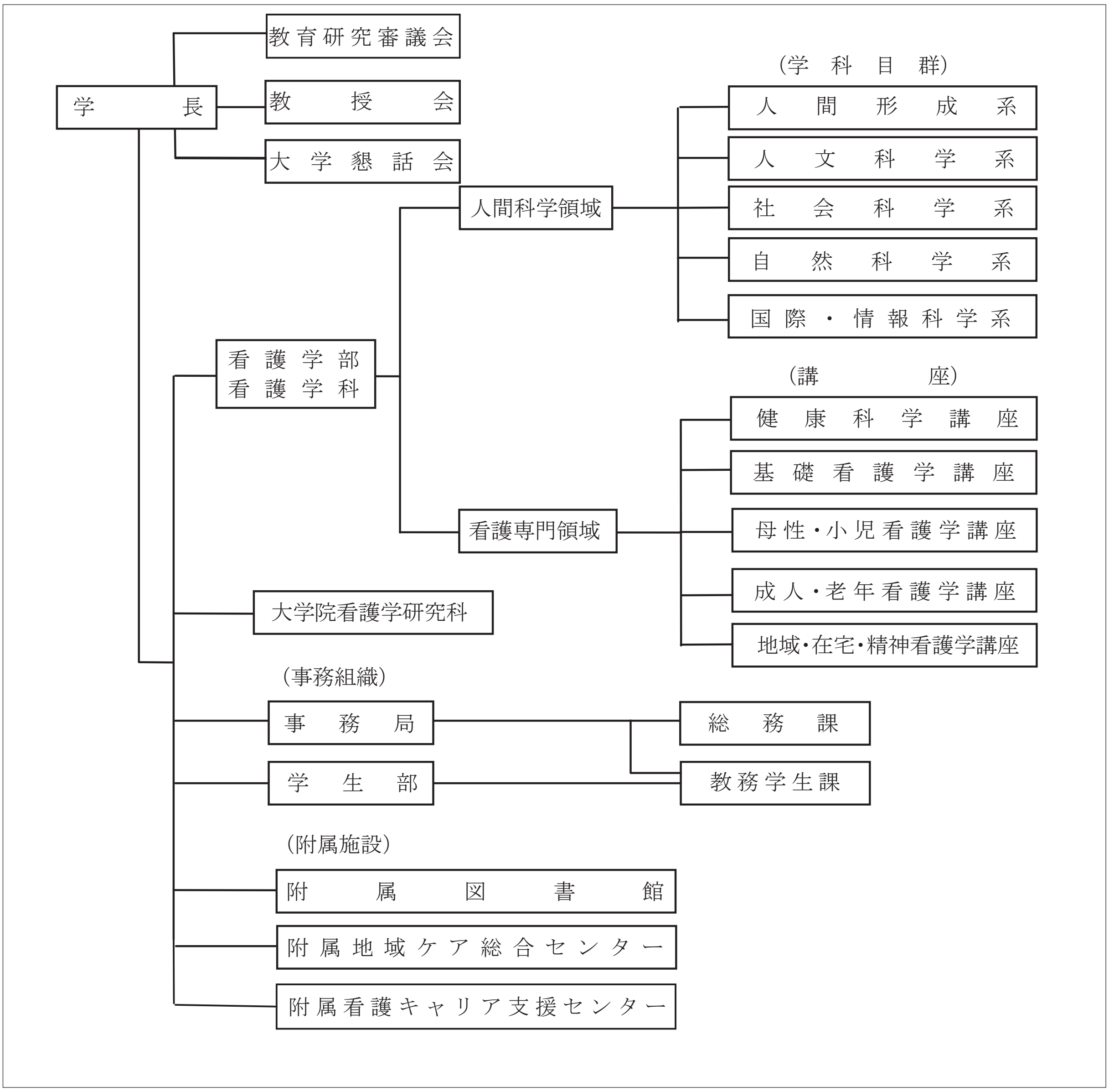
4月 4日（金）	入学式
4月 7日（月）	ガイダンス
	学生健康診断
4月 8日（火）	授業開始
4月 4日（金）～ 4月14日（月）	前期履修登録受付
5月29日（木）	開学記念日・開学記念講演会
7月19日（土）	夏のオープンキャンパス
7月29日（火）～ 8月 8日（金）	前期補講・試験
8月 9日（土）～ 9月30日（火）	夏季休業
9月20日（土）	入学試験（編入学試験）
	入学試験（大学院博士前期課程）
10月 1日（水）	後期授業開始
9月19日（金）～10月 3日（金）	後期履修登録受付
10月25日（土）～10月 26日（日）	大学祭　25日(土) 秋のオープンキャンパス
11月22日（土）	入学試験（推薦入試・社会人入試）
12月23日（火）～ 1月 4日（日）	冬季休業

平成27年

1月17日（土）～ 1月18日（日）	大学入試センター試験
1月31日（土）	入学試験（大学院博士前期課程（第2次募集）・後期課程）
2月10日（火）～ 2月20日（金）	後期補講・試験
2月25日（水）	入学試験（一般入試前期日程）
3月12日（木）	入学試験（一般入試後期日程）
3月13日（金）	卒業式・学位授与式
2月21日（土）～ 3月31日（火）	春季休業

1.2　大学組織図

1.2.1　大学組織図



1.2.2　委員会構成

委員会・部会名	委員長	教員構成	掲載ページ
教務委員会*	学長の指名	小講座から各1名（講師以上）＋看護教授1名（平成26.27年度のみ）	23
学生委員会*	学生部長	大講座から各1名以上（講師以上）＋学年担任	25
学生相談専門部会	学生部長の指名	4名（助教以上）	27
進路支援専門部会	学生部長の指名	看護の大講座から1名以上（講師以上）	27
図書館運営委員会	附属図書館長	大講座から各1名（講師以上）	91
石川看護雑誌編集部会*	図書館長の指名	大講座から各1名（准教授以上）＋図書館長	91
研究推進委員会*	附属図書館長	大講座から各1名（講師以上）＋基礎・小児から2名(助手以上)	28
共同研究審査部会	附属図書館長	6名（准教授以上）	29
情報システム委員会	附属図書館長	大講座から各1名（助手以上）	30
地域ケア総合センター推進協議会	学長	学内5名程度＋外部5名	－
地域ケア総合センター運営委員会*	附属地域ケア総合センター長	非看護系：小講座から1名、看護系：大講座から1～2名（講師以上）	99
看護キャリア支援センター運営委員会*	附属看護キャリア支援センター長	センターの教員3名 その他学長が指名する者5名	101
感染管理教務委員会（教員会）	附属看護キャリア支援センター長	センターの教員3名 学長が指名する本学の教員1名、公益社団法人石川県看護協会の役員1名、その他学長が指名する者2名、医療機関の看護管理者1名、	102
感染管理部会（入試委員会）	附属看護キャリア支援センター長	センターの教員3名 学長が指名する本学の教員1名、教育経験を有する感染管理認定看護師3名、その他学長が指名する者1名	101

＊委員会運営を助ける助手・助教1～2名が学長指名で追加される。

委員会・部会名	委員長	教員構成	掲載ページ
国際交流委員会	学長の指名	大講座から各１名 （講師以上）	85
広報委員会*	学長の指名	役職者+HP への文章登載の役割を担う者	30
入学試験委員会	学長	大講座から各１名 （教授以上）	32
入試実施部会	入試委員長の指名	小講座から各１名 （助手以上）	33
入試評価部会	入試委員長の指名	大講座から各１名 （講師以上）	33
問題編集部会（非公表）	学長の指名	必要数	―
自己点検・評価委員会*	学長	役職者、学長指名３名	34
FD 委員会*	学長の指名	大講座から各１名 （講師以上）	35
ハラスメント委員会	学長	学長５名	36
情報セキュリティ委員会	学長の指名	学長指名	36
コンプライアンス委員会	研究科長	５名（教授以上）	36
遺伝子組換え実験等安全委員会	学長の指名	５名程度	37
大学院教務学生委員会	研究科長	学長指名５名	50
倫理委員会	研究科長	学長指名 6 名程度＋学外 9 名	38
がんプロ企画委員会	学長の指名	学長指名 6 名程度＋研究科長	103
がんプロ運営委員会	がんプロ企画委員長の指名	必要数	105
大学コンソーシアム連絡会議	学長	必要とされる委員長	―
衛生委員会	衛生管理者の資格を有する教員	学長指名＋過半数代表者推薦	38

＊委員会運営を助ける助手・助教 1～2 名が学長指名で追加される。

1.3　オープンキャンパス

1.3.1　夏のオープンキャンパス

１．日　時：平成26年7月19日(土)　10時00分〜14時00分
２．参加者：345名
３．概　要：
　１）大学説明会
　　　・オリエンテーション
　　　・本学の概要説明
　　　・入試説明
　２）模擬授業　　丸岡教授「高齢者の転倒予防は観察から」
　３）保護者セミナー
　　　・カリキュラム、国家試験、進学・就職について
　　　・学費・奨学金、アパート情報について
　４）学生によるキャンパスライフの紹介
　　　・看護学実習、アメリカ看護研修について
　　　・サークル・課外活動について
　５）在学生・教職員による相談・交流コーナー
　６）施設見学・看護学実習体験

1.3.2　秋のオープンキャンパス

１．日　時：平成26年10月25日(土)　9時30分〜12時00分
２．参加者：121名
３．概　要：
　１）大学案内
　　　・学長からのメッセージ
　２）学生によるキャンパスライフの紹介
　３）入試準備セミナー　西村教授、村井教授、丸岡教授
　４）在学生・教職員による相談・交流コーナー

1.4　懇話会

石川県立看護大学懇話会

１．開 催 日 時	平成27年2月17日（火）16時00分～	
２．開 催 場 所	石川県立看護大学管理棟2階小会議室	
３．学外出席者		
（9名）	石川県医師会長	近　藤　邦　夫
	石川県看護協会長	吉　野　幸　枝
	金沢医科大学副院長兼看護部長	才　田　悦　子
	金沢医療センター看護部長	青　木　きみ代
	金沢大学医薬保健研究域保健学系 教授	稲　垣　美智子
	石川県婦人団体協議会長	藤　多　典　子
	会議通訳、翻訳者	早　川　芳　子
	石川県保健所長会長	南　　　陸　男
	かほく市長	油　野　和一郎
学内出席者	学長、研究科長、学生部長、図書館長、看護キャリア支援センター長、地域ケア総合センター長、事務局長、総務課長、教務学生課長	
４．主 な 内 容	⑴看護大学の現況について ⑵学生の進路状況について ⑶学部教育・大学院教育・生涯教育について ⑷地域貢献及び国際貢献について ⑸意見交換	

2　教員・職員紹介

2.1　教員紹介

領域	学科目群又は講座	科目群	職位	氏名
人間科学領域	人間形成系群	健康体力科学	准教授	垣花 渉
	人文科学系群	哲学	教授	浅見 洋
		心理学	教授	武山 雅志
	自然科学系群	人間工学	教授	小林 宏光
	国際・情報科学系群	情報科学	教授	松原 勇
		英語	准教授	加藤 穣
看護専門領域	健康科学講座	機能・病態学	教授	長谷川 昇
			教授	今井 美和
			准教授	中田 隆博
		保健・治療学	教授	多久和 典子
			教授	大木 秀一
	基礎看護学講座	基礎看護学	教授	川島 和代
			教授	丸岡 直子
			講師	中田 弘子
			講師	木森 佳子
			助教	田村 幸恵
			助手	中嶋 知世
			助手	三輪 早苗
	母性・小児看護学講座	母性看護学	教授	吉田 和枝
			准教授	山岸 映子
			講師	米田 昌代
			助教	曽山 小織
		小児看護学	教授	西村 真実子
			講師	金谷 雅代
			助手	千原 裕香

研　　究　　課　　題
参加型健康教育が心身の健康に及ぼす影響、農村コミュニティの活性化に関する研究、ヒト歩行の体力科学的研究
日本思想の研究、医療倫理に関する研究、死生学に関する研究
新日本版MMPIにおける基礎研究、新人看護職者のコミュニケーションに関する研究、被災地学生ボランティア活動に関する研究
心拍変動（Heart rate variability）による自律神経機能評価およびその応用 体幹加速度による歩行対称性の解析
在宅ケア（特に脳卒中既往者）の疫学統計、THP（トータル・ヘルス・プロモーション）の疫学統計、情報処理教育方法の改善研究
医学・看護英語に関する研究、英語圏の医療制度に関する研究、医療倫理に関する研究
機能性食品による更年期症状緩和効果、ロコモティブシンドローム予防のための根拠に基づいた実践、ICTを用いた健康ケアシステムの構築と実践、新しい予防指標物質の探索
若年女性の子宮頸がん予防行動に関する研究
アミノ酸トランスポーターOCT2に関する細胞生物学的解析 免疫組織化学法の改良に関する研究
(1)生理活性脂質メデイエーターの生理学・病態生理学的意義の解明 (2)現代のメディカルプロフェショナル育成：新しい教育メソッドの構築 (3)疾患の病態生理に立脚した生活習慣病の予防指導、分子と細胞の機能理解の看護学への応用
ライフコース行動遺伝疫学研究、多胎児家庭に関する包括的な研究、当事者参加型の地域実践研究
看護理論の実践における検証（優れた実践の理論的検証)、看護技術の開発と実践への適用に関する研究
在宅療養移行支援（退院支援）に関する研究、看護管理に関する研究、転倒リスクマネジメントに関する研究
清潔ケアに関する研究、看護用具のデザイン・開発に関する研究
看護技術に関する基礎研究と開発、創傷アセスメント・リスクアセスメント、予防・創傷治癒促進の技術についての研究
基礎看護教育に関する研究
外国人住民における健康課題の研究、多文化共生のための保健医療サービスの研究
基礎看護教育に関する研究
女性のライフサイクル各期の健康問題とその看護に関する研究、産痛の受容と回避に関する研究、生殖に関する生命倫理の研究
母乳哺育に関する研究、リプロダクティブ・ヘルス/ライツに関する研究、地域における子育て支援に関する研究、国際保健に関する研究
流産・死産・新生児死亡で子どもを亡くした家族へのグリーフケアに関する研究、周産期のケアに関する研究、子育て支援に関する研究
周産期の看護に関する研究、子育て支援に関する研究、生殖補助医療の看護に関する研究
子どもの虐待予防に関する研究、育児不安･育児困難・虐待に悩む母親への支援に関する研究 子育て支援に関する研究
育児不安や育児困難を抱える母親への支援に関する研究 子どもへのデスエデュケーション・グリーフケアに関する研究
子育て支援に関する研究

領域	学科目群又は講座	科　目　群	職　位	氏　　　名
看護専門領域	成人・老年看護学講座	成人看護学	教　授	牧野　智恵
			教　授	村井　嘉子
			准教授	北山　幸枝
			准教授	岩城　直子
			助　教	寺井 梨恵子
			助　教	川端　京子
			助　教	松本　智里
			助　手	大西　陽子
		老年看護学	教　授	高山　成子
			講　師	中道　淳子
			助　教	森田　聖子
			助　教	山田　ルミ
	地域･在宅･精神看護学講座	地域看護学	教　授	石垣　和子
			准教授	阿部 智恵子
			准教授	塚田　久恵
			准教授	織田　初江
			助　教	曽根　志穂
			助　手	金子　紀子
		在宅看護学	教　授	林　　一美
			准教授	彦　　聖美
			助　教	子吉 知恵美
			助　手	井上　智可
		精神看護学	准教授	谷本　千恵
			講　師	川村 みどり
			助　教	大江　真吾
			助　教	清水　暢子
附属看護キャリア支援センター			准教授	石川　倫子

研　　究　　課　　題
がん患者の「生きる意味」への支援、治療中および終末期がん患者への支援方法に関する研究
クリティカルケア看護に関する研究、クリティカルケア看護におけるキュアとケアの融合を基盤とした看護実践に関する研究
創傷の管理および看護技術に関する研究 栄養不良状態下における創傷発生時皮膚の組織学的検討
がん患者の精神心理的ケアに関する研究、在宅緩和ケアに関する研究
転倒リスクマネジメントに関する研究、看護師の臨床判断における視覚情報の取り込みに関する研究
看護継続教育に関する研究、がん患者とその子供への支援プログラムの開発
股関節疾患患者の歩容に関する研究
クリティカルケア看護に関する研究
認知症高齢者の生活行動への看護方法の研究 治療が必要な疾患を有する認知症高齢者の看護（がん、大腿骨頸部骨折、等）
認知症高齢者ケアに関する研究、介護予防に関する研究
高齢糖尿病患者のセルフケア行動の実態と支援に関する研究、認知症高齢者ケアに関する研究
安静を余儀なくされる認知症高齢者への看護に関する研究 糖尿病患者のフットケアに関する研究
保健師活動に関する研究、僻地における看護に関する研究、家族看護に関する研究、異文化看護に関する研究
地域で生活する対象の生活支援に関する研究、子育て支援に関する研究
保健事業の評価に関する研究、保健事業とヘルスリテラシーに関する研究、介護予防に関する研究
(1)地域看護・公衆衛生看護、保健指導能力の育成に関する研究 (2)行動変容、地域ケアシステム、介護予防・地域包括支援に関する研究 (3)保健事業の評価に関する研究
乳幼児をもつ母親の育児支援に関する研究、高齢者の生活機能維持に関する研究、難病疾患の在宅療養支援に関する研究
地域特性を踏まえた子育て支援に関する研究、保健活動に関する研究
慢性疾患をもつ療養者と家族の看護に関する研究、要介護者と家族介護者の在宅ケアに関する研究
根拠に基づいた男性介護者支援の研究、在宅終末期ケアに関する研究
(1)障害児とその保護者への支援方法の構築に関する研究 (2)重症心身障害児のレスパイト施設の看護師の介護者への援助方法に関する研究
精神科訪問看護に関する研究、地域における連携に関する研究
過疎地域の精神障がい者の支援に関する研究、精神科病院におけるインシデントに関する研究
長期入院を経験した精神障害者に関する研究、精神科看護の教育に関する研究
自閉症スペクトラム障害患者・患児への支援に関する研究
精神疾患患者における認知機能障害への介入とその効果測定、保健・医療・福祉の面から精神疾患患者における地域移行支援推進のための研究
看護師のキャリア支援に関する研究、看護教育に関する研究

2.2　特任教員等紹介

職　位	氏　名	担　　当	任　期
特任准教授	浅 見　美千江	附属看護キャリア支援センター	平成 26 年 4 月 1 日～ 平成 27 年 3 月 31 日
特任講師	竹 村　美 和	附属看護キャリア支援センター	平成 26 年 4 月 1 日～ 平成27年3月31日
特任助手	原 子　裕 子	北陸高度がんプロチーム養成基盤形成プラン	平成 26 年 4 月 1 日～ 平成27年3月31日
特任助教	小林　佐知子	老年看護学	平成 26 年 4 月 1 日～ 平成27年3月31日
臨時講師	小清水　明子	基礎看護学	平成 26 年 6 月 17 日～ 平成 27 年 3 月 31 日
臨時助手	本 部　由 梨	小児看護学	平成 26 年 4 月 1 日～ 平成27年3月31日

2.3　教員組織構成（平成27年3月現在）

2.3.1　所属領域・講座と職位構成

単位（人）

領域	講座	計	教員	職位構成				
				教授	准教授	講師	助教	助手
人間科学		6(0)	6(0)	4(0)	2(0)			
看護専門	健康科学	5(2)	5(2)	4(2)	1(0)			
	基礎看護学	7(7)	5(5)	2(2)		2(2)	1(1)	2(2)
	母性・小児看護学	7(7)	6(6)	2(2)	1(1)	2(2)	1(1)	1(1)
	成人・老年看護学	12(12)	11(11)	3(3)	2(2)	1(1)	5(5)	1(1)
	地域・在宅・精神看護学	14(13)	12(11)	2(2)	5(5)	1(1)	4(3)	2(2)
附属看護キャリア支援センター		1 (1)	1 (1)		1(1)			
	計	52(42)	46(36)	17(11)	12(9)	6(6)	11(10)	6(6)

（ ）の数字は内数であり女性の数を示す；教員は教授、准教授、講師、助教を示す

2.3.2　職位別年齢構成

単位（人）

職位	計	20 代	30 代	40 代	50 代	60 代	70代	平均年齢
教　授	17　(11)			1	10	5	1	58.5 歳
准教授	12　(9)		1	5	5	1		51.1 歳
講　師	6　(6)			4	2			47.2 歳
助　教	11　(10)		5	6				39.5 歳
教　員	46　(36)		6	16	17	6	1	50.5 歳
助　手	6　(6)	1	3	2				37.0 歳
計	52　(42)	1	9	18	17	6	1	49.0 歳

( ) の数字は内数であり女性の数を示す；教員は教授、准教授、講師、助教を示す

2.3.3　大学院看護学研究科の研究指導教員・研究指導補助教員

単位（人）

課　　程	計	研究指導教員	研究指導補助教員
博士前期課程	23（17）	16（16）	7（ 1）
博士後期課程	16（16）	9（ 9）	7（ 7）

( ) の数字は内数であり教授の数を示す

2.3.4　博士前期課程の研究指導教員・研究指導補助教員の年齢構成

単位（人）

職位	計	40 代	50 代	60 代	70 代	平均年齢
研究指導教員	16　(11)	1	9	5	1	58.6 歳
研究指導補助教員	7　(4)	3	4			50.9 歳
計	23　(15)	4	13	5	1	56.3 歳

( ) の数字は内数であり女性の数を示す

2.3.5　博士後期課程の研究指導教員・研究指導補助教員の年齢構成

単位（人）

職位	計	40 代	50 代	60 代	70 代	平均年齢
研究指導教員	9　(9)	0	5	3	1	60.7 歳
研究指導補助教員	7　(2)	1	4	2		56.0 歳
計	16　(11)	1	9	5	1	58.6 歳

( ) の数字は内数であり女性の数を示す

2.4　職員紹介（平成27年3月現在）

事務局長	魚　直樹

＜総　務　課＞

総務課長	青山正三
補佐兼総務管理係長	松田敏広
専門員	細川智恵
主任主事	山崎正志
業務主任	七野良春
主事	岩谷　茜
非常勤嘱託	青山　恵
事務員	桑名由佳
事務員	新甫恵子

＜教務学生課＞

教務学生課長	入道勝行
専門員	山岸吉輝
専門員	林　信隆
非常勤嘱託	奥村麻由
事務員	井ノ山寿美
事務員	折戸やよい

＜附属地域ケア総合センター＞

センター長	(兼)長谷川　昇
事務員	岸　恭子
事務員	中嶋　広

＜附属図書館＞

館長	(兼)大木秀一
主幹	山本晃暢
非常勤嘱託(司書)	山田志歩
非常勤嘱託(司書)	東　加奈子

＜附属看護キャリア支援センター＞

センター長	(兼)丸岡直子
非常勤嘱託	片山幸美

３．中期計画

3.1　中期計画における平成 26 年度目標と実績

3.1.1　年次目標の概略（石川県公立大学法人　平成26年度計画案　概要版より）

計画策定の基本的考え方

■平成26年度は、引き続き「学生満足度の高い教育の提供」「地域貢献活動の充実」「学生確保に向けた広報活動の充実」「弾力的・機動的な法人運営」の4つを柱に掲げ、業務に取り組む。
■第1期中期計画（6年間）の第4年目度であり、折り返しにかかる年であることから、確実に中期計画を達成できるよう、現在までの進捗状況を踏まえた取り組みをより具体的に計画に反映させた。
■平成26年度は、この計画を着実に実行していくとともに、高等教育を取り巻く環境変化を自ら分析しながら、不断の対策を講じていく。

看護大

カリキュラム改革による社会人基礎力の養成（No.23-1）

地域へのボランティア活動等を単位化した科目「ヒューマンヘルスケア」の新設などカリキュラムの改革を行い、自学自習、異学年交流をより一層促進する。

学習環境の向上（No.40-1,40-2,41-1,43-2）

○学生が学習に関する相談を行いやすい体制の整備　○学生と学長との懇談会
○学生へのニーズ調査　○優秀な学生への表彰
などを行い、学生の意欲を高めて、学習環境を向上させる。

教員評価（No.36-1）

これまでに、教育活動の維持向上を図るため、教員評価を試行してきており、各教員から提出された目標シートを基に、第一次評価者となる教員が評価をしてきている（一次評価）。今年度は、更に第一次評価者が行った評価の適切性について、学内の教員評価委員会による評価（二次評価）を試行する。

地域貢献活動の強化（No.62-1,64-1）

地域のニーズに応える教育研究を行い、また、学生が地域社会に出てから役立つ学びに力を注ぐべく、大学が全学的に地域貢献活動に取り組むプログラムを検討する（文部科学省「地（知）の拠点整備（COC）事業」へ応募）。
これまでにかほく市や能登町と連携した取り組みを行ってきているが、２６年度は更に宝達志水町との連携を検討する。

感染管理認定看護師教育課程の開設（No.63-1）

前年度設置した看護キャリア支援センターの事業の一環として、北陸初となる感染管理認定看護師教育課程を開設し、現場のリーダーとなる看護職者を育成する。
※　看護キャリア支援センター
看護職のキャリアアップとキャリア維持につながる研修や人材養成を通じ、地域医療の質の向上に資することを目的とする。

両大学共通・法人の運営

国際化の推進（No.160-1）

研究成果の情報発信、海外大学との交流、留学生の受け入れなどを促進するため、両大学ともに英語版ホームページの充実強化を図る。

広報活動の強化（No.161-1）

（１）北陸新幹線開業に向けた取り組み
受験生の更なる取り込みに向け、北陸新幹線沿線各県において、広報活動を実施する。
（２）ＳＮＳの活用
ツイッターやフェイスブックなど学生に汎用的なＳＮＳの活用について検討を行う。

経営の合理化（No.134-1）

旅費の計算事務について、計算事務を簡素化するとともに、業務を法人本部に集約させて、合理化を図る。

危機管理体制の強化（No.187-1）

（１）携帯版大地震対応マニュアルの配布
全学生、全教職員に携帯用のマニュアルを配布する。
（２）危機管理ガイドラインの作成
地震や火災のみならず、大学における危機全般について、その対応を体系的に整理した危機管理ガイドラインを作成する。

3.1.2　平成26年度実績の概略

（石川県公立大学法人　平成26年度実績　概要版より）

石川県立看護大学の教育研究等の質の向上に関する目標

【特筆すべき内容】

1　学部課程の充実　(No.2-1,NO.15-1,23-1,28-1,69-1)

（1）「ヒューマンヘルスケア」科目の開設

サービスラーニング（※）や異学年交流をより一層推進するため、地域のボランティア活動等を単位化した科目「ヒューマンヘルスケア」を開設した。

※地域のニーズを踏まえながら、社会奉仕活動を体験する学習法

（2）フィールド実習の実施

地域で生活する人との関わりを通じて、地域の暮らしや文化等の理解を深めるとともに社会人の基礎力を育成するため、能登町と連携し、民泊を取り入れたフィールド実習を実施した。また、かほく市と連携した健康増進活動を通して、地域住民との交流を図った。

（3）国際交流の推進

国際看護演習（夏期アメリカ研修プラン）に学生21名が参加するとともに、韓国全北大学看護学部と新たに覚書（MOU）を締結した。

2　大学院課程の充実　(No.16-1,17-1)

（1）多角的な授業展開

学生に保健・医療・福祉分野の最新情報や知見を提供するため、ワシントン大学の教授を招聘するなど各専門分野で実績のある外部講師を交え、オムニバス形式の講義（担当教員が毎回、若しくは複数回に一回替わる授業方式）を行い、多角的な授業を展開した。

（2）新たな専門看護師教育課程の適用

専門看護師の実践能力向上に向け、がん・老年・地域看護の３分野において、臨床現場での実習を充実する等、新たな教育課程（２６単位から３８単位に増加）を開始した。

（3）実習施設の拡大

専門看護師教育課程の更なる充実を目指して、北陸3県の看護部長懇談会で各施設における実習受け入れ効果等について意見交換を行うとともに、本大学院修了生のネットワークを活用し、今後の実習施設拡大に努めた。

3　生涯学習支援の推進　(No.63-1)

（1）「感染管理認定看護師教育課程」の開設

看護キャリア支援センター事業の一環として、北陸初となる「感染管理認定看護師教育課程」を開設し、現場のリーダーとなる看護職者を育成した。7ヶ月間にわたる教育課程を順調に進行させ、30名の修了生を輩出した。

（2）看護職の生涯学習支援サービスの実施

訪問看護師に対するトレーニングや、看護実践力向上セミナーとして、各種事例検討会を実施した。また、石川県および富山県からの依頼により、保健師新人研修の講師を派遣した。

項目別評価の状況

項目	Ⅳ	Ⅲ	Ⅱ	Ⅰ	計
教育	7	56	0	0	63
研究	0	11	0	0	11
地域貢献等	1	13	1	0	15
計	8	80	1	0	89

４．看護学部看護学科

4.1　理念・目標

4.1.1　教育理念

人間の生命や生活の質を真に理解できる豊かな人間性とともに、専門的職業人としての基盤を備え、保健・医療・福祉の幅広い領域で、県民の健康と福祉の向上に貢献できる看護職及び看護指導者を育成する。

4.1.2　教育目標

１．豊かな人間性と倫理観を備えた人材の育成

人間の生命、生活を尊重し、人の痛みや苦しみを共に分かち合える温かい心、豊かな人間性と倫理観を備えた人材を育成する。

２．看護学に求められる社会的使命を遂行し得る人材の育成

看護専門職として必要な知識、技術を修得し、人々の健康と生活に関わる諸問題に対して、科学的な根拠に基づく判断力と問題解決能力及び看護学研究に関する思考力と創造性を涵養し、看護学に求められる社会的使命を遂行し得る人材を育成する。

３．調整・管理能力を有する人材の育成

保健・医療・福祉等について総合的視野を持ち、関連分野の人々と連携・協力して行われる看護実践を通して、調整・管理能力を有する人材を育成する。

４．国際社会でも活躍できる人材の育成

国際的な視野から、健康問題や看護問題を思考、判断し、国際社会でも活躍できる人材を育成する。

５．将来の看護リーダーの役割を担う人材の育成

社会状況の変化を踏まえ、看護が担うべき役割を展望し発展させるため、自らの研鑽を重ねながら、その資質向上に努め、看護学の発展に寄与し、将来の看護リーダーとなることができる人材を育成する。

4.1.3　アドミッション・ポリシー（求める人材）

入学者選抜試験として、一般入試（「前期日程」「後期日程」）、推薦入試、社会人入試に加え、3 年次への編入学試験を実施し、以下の資質を有する優秀で意欲ある人材を幅広く求めています。

１．大学で学ぶ上で必要とされる基礎的学力を身につけている人
２．主体的にものごとを考え、行動できる人
３．自らの意見を表現でき、他者と積極的なコミュニケーションができる人
４．看護分野の発展に貢献することを志す人

4.1.4　カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成・実施方針）

教育理念・教育目標を受け、以下のような方針に基づいてカリキュラム（教育課程）を編成している。

1．看護職として必要な豊かな人間性と倫理観を育成するために、人間科学領域の科目と看護専門領域の科目を統合して学べるように、両者の科目を並行して配置する。
2．看護職として必要な知識・技術およびそれらの科学的根拠を学ぶことができるように、看護専門領域の科目を健康・疾病・障害の理解、看護の基本、看護援助の方法、看護の実践、看護の発展の順に配置する。
3．多様な場での多様な対象の健康レベルにあわせた看護実践能力を身に付けるために、人間の成長・発達段階別、健康の維持増進期から終末期にいたる健康段階別、施設内・地域・在宅という看護の提供場所別の看護を段階的に学べるように設定する。
4．個人・家族・組織・地域の健康課題を解決する能力を育むために、大学の位置する石川県、能登地域を題材にして、文化や自然・暮らしを学ぶ科目、地域の保健・医療・福祉を学ぶ科目、地域の課題を解決しながら学ぶ科目を配置する。さらに、他の地域への応用力を養う看護専門領域の実習科目を配置する。
5．複雑な状況に対応する能力と、多職種と連携・協働しながら看護の専門性を発揮できる能力を育むために、統合科目を設定する。
6．将来の多様なキャリア発展の可能性を涵養するために、国際看護、看護マネージメント、政策形成に関連する科目を配置する。
7．生涯学習能力を養うために、自学自習や討論する機会を積極的に取り入れる。

4.1.5　ディプロマ・ポリシー（学位授与に関する方針）

卒業までに所定の単位を修得し、看護の基盤を備え、個人・コミュニティ・社会の健康課題の発見と解決に貢献するために、様々な知識や技術を応用し援助する能力と、社会の要請に応じて新たな知識や技術を探求し創造していく意欲や能力を有する者に、学士（看護学）の学位を授与する。

このような能力を修得するためには、以下の学習成果をあげることが求められる。

1．看護の対象となる人の人権を尊重する姿勢や共感的態度を通して援助関係を形成できる。
2．人の命や暮らしを理解し、健康課題を科学的根拠に基づいて総合的にアセスメントし、課題解決に向けて適切な看護が実践できる。
3．保健・医療・福祉等について総合的視野を持ち、関連分野の人々と連携・協働することが理解できる。
4．看護専門職としての価値観・専門性を生涯にわたり発展させる素地を身につける。

4.2　学部学生の入学・在学・卒業の状況

（1）入学の状況

①入学定員・収容定員

単位（人）

入学定員	３年次編入学定員	収容定員
80	10	340

②試験実施日

	実施日
３年次編入学試験	平成26年 9月20日（土）
推薦入試・社会人入試	平成26年11月22日（土）
一般入試前期日程試験	平成27年 2月25日（水）
一般入試後期日程試験	平成27年 3月12日（木）

③受験状況等

単位（人、倍）

	募集定員 A	志願者数 B	志願倍率 B/A	受験者数 C	受験倍率 C/A	合格者数 D	実質倍率 C/D	入学者数
3年次編入学	10	20	2.0	16	1.6	7	2.3	6 (6)
推薦入試	30	59	2.0	59	2.0	31	1.9	31 (31)
社会人入試	若干名	8	—	8	—	1	8.0	1 (1)
一般入試前期	40	122	3.1	120	3.0	43	2.8	39 (37)
一般入試後期	10	160	16.0	59	5.9	13	4.5	13 (12)

（ ）の数字は内数であり女性の数を示す

（2）在学の状況（平成 27 年 3 月 1 日現在）

単位（人）

学　　年		１年次	２年次	３年次	４年次	計
在学者数	男性	6	3	6 (2)	6 (1)	21 (3)
	女性	76	81	87 (7)	96 (8)	340 (15)
	計	82	84	93 (9)	102 (9)	361 (18)

（ ）の数字は内数であり編入学者の数を示す

（３）卒業の状況

①卒業者数　第 12 期生

単位（人）

区　分	計	入学年度別卒業者数		
		平成22年度以前 入　学　者	平成23年度 入　学　者	平成24年度 編入学者
卒業者数	94（88）	2(1)	83(79)	9(8)

（　）の数字は内数であり女性の数を示す

②卒業後の進路状況　第12期生　（平成27年3月31日現在）

単位（人）

区	分	県内 人数	県内 割合	県外 人数	県外 割合	合計 人数	合計 割合
就　職	看護師	53	56.4%	12	12.8%	65（60）	69.1%
	国公立病院(独立行政法人を含む)	43	45.7%	7	7.4%	50（45）	53.2%
	上記以外の病院	10	10.6%	5	5.3%	15（15）	16.0%
	保健師	7	7.4%	3	3.2%	10（10）	10.6%
	その他	1	1.1%	1	1.1%	2（2）	2.1%
	計	61	64.9%	16	17.0%	77（72）	81.9%
進　学	大学院博士前期課程	2	2.1%	0	0.0%	2（2）	2.1%
	養護教諭特別別科	8	8.5%	2	2.1%	10（10）	10.6%
	その他	4	4.3%	0	0.0%	4（4）	4.3%
	計	14	14.9%	2	2.1%	16（16）	17.0%
	未　定	1	1.1%	0	0.0%	1（0）	1.1%
	合　計	76	80.9%	18	19.1%	94（88）	100.0%

（ ）の数字は内数であり女性の数を示す；割合は、総数94人を100%としたもの

③主な就職先　第12期生　（平成27年3月31日現在）

県　内	県　外
石川県立中央病院	富山大学附属病院
金沢大学附属病院	福井大学医学部附属病院
JCHO 金沢病院	名古屋大学医学部附属病院
金沢医科大学病院	名古屋第一赤十字病院
国立病院機構　金沢医療センター	東京慈恵会医科大学附属病院
金沢赤十字病院	埼玉県立循環器・呼吸器病センター
公立松任石川中央病院	神戸市立医療センター中央市民病院
市立輪島病院	兵庫県立尼崎病院
金沢市立病院	船橋総合病院
国立病院機構　医王病院	北里大学病院
城北病院	愛知県田原町保健師
金沢市保健師	福井県鯖江市保健師
七尾市保健師	長野県長野市保健師　など
加賀市保健師	
津幡町保健師	
石川県予防医学協会　など	

4.3　教育・履修体制

本学の教育は、人間科学領域の5学科目群と看護専門領域の5講座に属する教員が担当します。

領域	学科目群又は講座	科目群	教育内容
人間科学領域	人間形成系群	健康体力科学	自己の健康・体力づくりを生涯にわたり実践していくための理論と方法を修得させるとともに、看護の対象者の健康獲得を目指すための知識と技術について教授する。
	人文科学系群	哲学 心理学	哲学・心理学的な思考を通して、人間の本質と存在の意義について理解を深めるとともに、看護識者として悩める人を理解し援助するための知識と方法、態度について教授する。
	社会科学系群		人々の生活を支える社会のしくみと人間と社会環境との関わりについて理解を深めさせるとともに、社会科学的視点から保健・医療・福祉・看護が抱える諸問題について教授する。
	自然科学系群	人間工学	人々の生活と環境との関わりや人間と環境との共生について理解を深めさせるとともに、人間の日常生活行動や看護現場での諸問題について人間工学的側面から教授する。
	国際・情報科学系群	英語 情報科学	国際的な視野から健康や看護問題を思考、判断し、国際社会でも活躍できる思考力と語学力を教授する。また、高度情報社会に対応できる基礎力と看護情報の統計処理能力を教授する。
看護専門領域	健康科学講座	機能・病態学 保健・治療学	人間の生命現象や身体の構造・機能と心身の健康の保持・増進、疾病・障害の発症と回復のしくみに関する理論と知識、技術を科学的根拠に基づいて系統的に教授する。
	基礎看護学講座	基礎看護学	「看護とはなにか」という看護の概念・本質と看護の基本となる理論と知識・技術、及び看護識者として必要な態度について教授する。
	母性・小児看護学講座	母性看護学 小児看護学	ライフサイクルのうち、妊娠・分娩・出産から思春期にわたる母子とその家族に特徴的な発達課題と健康問題を踏まえ、看護援助に必要な知識や理論と実践の方法について教授する。
	成人・老年看護学講座	成人看護学 老年看護学	ライフサイクルのうち、成人期から老年期にわたる対象に特徴的な発達課題と健康問題を踏まえ、看護援助に必要な知識や理論と実践の方法について教授する。
	地域・在宅・精神看護学講座	地域看護学 在宅看護学 精神看護学	地域で生活する個人・家族・特定集団・地域住民全体を対象とした地域看護の特徴を踏まえ、活動の場（学校、職場、在宅、地域全体）とその対象の特性に応じた看護援助、及びライフサイクル各期のメンタルヘルスの課題や精神的な健康問題をもつ対象への看護援助に必要な知識や理論と実践の方法を教授する。

4.4　委員会活動

4.4.1　教務委員会

委 員 長：村井嘉子　教授

委　　員：川島教授、西村教授、林教授、多久和教授、織田准教授、山岸准教授、北山准教授、垣花准教授、中道講師、川村講師、木森講師、曽山助教、寺井助教、子吉助教、入道教務学生課長

事 務 局：山岸専門員

活動内容：

１．広い視野と人間性を育成するとともに、専門教育の基礎となるような教養教育を実施した。

１）新入生及び２年次生に対して学習ガイダンス等の機会を得て、教養科目・専門科目の関連性について説明し、看護学における学習の意義について説明し理解を深めた。

２）能登地区において地域とそこに住む人々の生活を理解することを目的に民泊を実施した。住民との活動、寝食を共にすることで、目的を達成することができた。一方で、一部の学生は交流センターでの宿泊となり、民家での宿泊方法の課題が生じた。今後、次年度に向けて課題解決策を検討する予定である。

２．１年次必修科目である「フィールド実習」において新たな教育方法を試み検討した。

１）本科目は、県内市町村と連携・協力し、学生の「豊かな人間性と倫理観を備えた人材の育成」を目標にこれまでのサービスラーニングを基盤として、地域の健康課題や地域づくりの課題などをテーマに課題解決型学習に取り組み、また能登地区において学生が民泊を行った。地域の老人会、能登地区キャンパス推進協議会の場においてその学びを成果発表し、これらの経験を後期から新たに開講する「ヒューマンヘルスケア」科目へと発展的な学びへと繋げる予定である。

２）今年度の取り組みにおける課題を明らかにした。その対応策として、次年度より本授業の一部において academic literacy 講義を盛り込む。具体的には「調べる」スキル、「書く」スキル、「自分の意見を述べる」スキルを教授することで、大学生・専門教育の基礎となる能力を定着させ、学習の改善を図る。次年度からの新たな取り組みであることより、教員間の周知、計画的な打ち合わせと連携を図りながら遂行する。

３．プレゼンテーション能力向上に向けての取り組みと評価

１）授業科目「表現学」の履修を促すことにより、昨年度以上の学生が学んだ。フィールド実習報告会、卒業研究発表会、看護学実習におけるカンファレンス等を通して、全ての学生がその学年において自己の学びを複数回において発表する機会を経験した。また、その都度他者の学びを傾聴することで、その能力の向上に努めた。

２）卒業研究指導に対する評価の一環として、指導体制、発表会や会場割り当て、卒業研究全体への取り組み等について、学生及び教員相互を対象に質問紙調査を行った。発表会の座長を学生に経験させる点、主体的な発表会準備等、次年度への課題が明らかになった。

３）次年度より、フィールド実習科目においても「自分の意見を述べる」スキルについて教授

し本能力向上の強化に取り組む。

４．対人関係構築やコミュニケーション能力育成プログラム作成の試み

コミュニケーション能力目標設定プログラムの構築を目指して､その基盤となる調査用紙を完成させた｡本調査によって大学生のコミュニケーションの特徴を掴むことが可能になると考えている。本学学生、および県内他大学、中堅看護師らの協力を得て調査を開始、継続する予定である。

５．模擬患者を活用した教育方法の試み

県内模擬患者の協力により、４回の授業を実施した。学生は、状況のリアル感を得ることが出来ることに加え、看護計画が立案で終わることなく実践を行うことで、看護援助方法に自信を得ること、課題を明らかにすることができた。次年度以降も模擬患者を活用した授業・演習を継続する予定である。

６．サークル活動や災害ボランティア実践活動等においてフィールドワークを行い、異学年交流の促進を図った。

週末や夏季休暇等を活用し、震災ボランティア活動（ふたばサークル）等を行い、大学生が集うフォーラムでその実際について報告した。異学年交流を継続する課題として時間割調整が難しく、今後は昼食時間の活用、放課後、土日の有効活用等の検討が必要である。

７．臨床現場や保健所等の実習指導者の意見を反映させるための実習指導者会議の開催を行い看護学実習指導の在り方、看護現場の実態に即した教育方法の工夫について検討した。

１）昨年に引き続き、市町・保健所・医療機関等の実習指導者との連絡・協働による実習、また現場の看護職の非常勤教員としての活用を行った。

２）大学において実習指導者との連絡会議を開催し、臨床教授等称号付与に対する臨床における認識、ニーズ、課題等について情報収集した。今後、より効果的な称号付与の在り方について検討する予定である。

３）臨床教授等の称号付与に関する資格を見直し、より効果的な称号付与ができるように臨床教授等の称号付与に関する内規を変更した。また、実習施設等の意見も考慮して、大学より称号付与の手続き文書を 2 回／年実施することに決定した。これにより適切な称号付与が可能になると考えられる。

８．英語教育充実への取り組み

英語ｅラーニング教材を活用しアメリカ研修へ参加する学生を対象に､会話トレーニング教材を作成し活用を試みた。また、本教材が全ての学生がいつでも活用できるように整備した。

英語専任教員より、TOEFL や TOEIC 等の英語レベル評価の意味等について教授しており、それに対する学生からの問い合わせが複数件生じており、英語への興味・関心が高まっている。また、これまで殆ど利用されてこなかった CALL システムを利用して中間試験を行い知識の定着に努めている。

9．『リスクマネジメント指針』を作成した。

これまで学内には、事故発生対応マニュアル、感染防止対策・対応に関する要綱、看護学実習に関わるリスクマネジメントマニュアル、看護学実習における学生指導に関わる申し送り事項・コンサルテーションシステム等が存在した。これらを系統的に整理し『リスクマネジメントの指針』として作成し、学内全教員、関係職員へ配布した。有事において紐解くことで、迅速かつ正確な対処ができるように整えた。

10.「ヒューマンヘルスケア」の担当教員の決定、実施要項を作成して、新規科目を後期より開講した。

1）新規科目として全学的にスタートできるように、本科目専用の掲示板の設置、全教員への周知、および学生へのガイダンスを実施した。

2）フィールド実習での学びを踏まえ、更に学年進行と共に本授業は有機的な繋がりによって、看護学の基盤である人間の理解、人々の生活と健康の有り様、生活環境・社会の問題について学びを深める教育に取り組んだ。

4.4.2　学生委員会

委 員 長：牧野智恵　教授（学生部長）

委　　員：中田隆博准教授、阿部准教授、彦准教授、加藤准教授、岩城准教授、中田弘子講師、川村講師、金谷講師、米田講師、子吉助教、金子助手、松本助教、入道教務学生課長

事 務 局：井ノ山事務員

活動内容：

1．自学自習能力と自律的な判断力・行動力の育成にむけて、生涯にわたって自学自習していく能力と看護職者としての自律的な判断力･行動力を育成した。

1）大学行事、自治会、課外活動における学生の自主的運営を推進するために、大学祭の企画・運営を学生の主体性を尊重した。広報活動の遅れなどトラブルもあったが、自主性を重んじた結果、学生が学ぶことも多く、今回の反省を後輩に引き継いでいた。

2）自治会が自主的に学生の要望調査を行い、学長等との懇談会を 2 月に実施し、その内容を、教員及び各学年に周知していた。

3）看護の発展に資する能力の育成として、学会等での卒業研究成果の発表を促進した。本年度は学会発表 5 件と、論文掲載が 2 編（石川看護雑誌）であった。

2．高校教育から大学教育への適応のため、学生が自ら能動的に学ぶことを習慣化する支援

1）異学年交流を推進し、新入生歓迎会、地域連携事業やボランティア活動において、異学年交流を促進した。

2）地域へのボランティア活動を単位化した科目「ヒューマンヘルスケア」の新設などカリキュラムの改革を行い、自学自習、異学年交流を促進した。

3）幅広い教養を深める機会を提供するために、入学式ガイダンス、各学年ガイダンスにおいて石川コンソーシアム活動を紹介し、活動を促した結果、大学コンソーシアム石川「大

学間共同教育推進事業」の本学提供プロジェクト民泊に 33 名が参加した。今後、単位申請に向けて教務委員会と検討する。

3．教育環境の充実、実習環境の充実に向けて臨床教授 18 名、臨床准教授 49 名、臨床講師 54 名を任命し、臨床教授等と本学教員の合同会議を 2015 年 3 月 4 日 13 時に実施した。来年度の実習指導を行う上で臨床側から手術現場の実習の可能性などの提案があり、今後積極的に検討していくこととなった。

4．学生支援の充実

1）相談体制を充実するため、各学生相談窓口の一覧をガイダンス時に別紙で配布すると共に、学生便覧に掲載した。

2）各学生担任は、教員と学生相互のコミュニケーションを深めるとともに、学習支援を強化するために当該学年の授業担当者から選任した。また、各学年クラスアワーにおいて複数担任による相談体制について周知し、担任･副担任間で連携しながら生活面、精神面、学業面等へのサポートに努めた。また、1 学年には入学ガイダンス後、2、3、4 年には新学期当初にクラスアワーを実施し、学生への学習支援および体調不良学生の把握を行った。

3）2 ヶ月に 1 回学生相談部会を開催し、学習支援が必要な学生を確認するとともに必要時相談支援を行っている。特に、進路にとまどいを示している学生には、担任と学生部長が面談し、相談を行った。

4）学生の学習意欲の向上のため、学長表彰を実施した。本年度は、開学記念日に 2 団体（茶道サークル、ボランティアサークルふたば）、卒業式には 4 年生を対象に 5 名を表彰した。

5）大学生活に必要な生活環境を整えるために、保健室を通じた健康管理を実施。年度当初の健康診断、抗体価検査、予防接種の接種勧奨、それらのデータ管理を実施。また、個別保健指導に加え、定期的な保健だよりの発行や掲示板の活用にて保健指導や健康情報を配信し、健康管理・感染症管理に努めた。学校医と連携し、7 月に今年度 1 回目の健康相談会を実施した。随時学生相談を受け、学生の状況把握に努め、学生相談員や担任と連携をとりながら学生支援を行った。来年度に向けて、B 型肝炎ワクチン接種前の検査の実施を検討した。

また、大学における生活環境に関する学生へのニーズ調査を実施し学内に掲示すると共に、2 月 6 日に学生と学長等との懇談会を実施した。

6）学生の経済状況に応じた支援のための授業料減免制度および各種奨学金制度について、入学式のガイダンスおよびホームページにて周知斡旋を行った。また、学生の家庭事情に応じて、随時、授業料減免、奨学金貸与を行った。

7）卒業生・修了生へホームページや卒業生会（さくら会）新聞等で行い、情報提供の強化をはかった。また、卒業生会（さくら会）では同窓会の機関紙「さくら」で、本年度の卒業生、修了生への図書館利用について周知した。

5．地域の保健、医療及び福祉の向上に貢献できる人材を輩出し、地元定着を推進した。

1）県内の保健医療福祉施設や看護系教員からの情報収集を行い、病院説明会就職説明会の情報を学生に提供するなど、県内の病院の紹介に勤めた。

2）卒業後に看護師等として石川県内で一定期間勤務することにより返還が免除される、看

護師等修学資金制度の周知を図った。

6．本学の卒業生・修了生とのネットワークの維持強化を図り、広報活動を積極的に行った。

4.4.2.1　学生相談専門部会

部 会 長：牧野智恵　教授

部 会 員：武山教授、中田弘子講師、米田講師、大江助教、奥村嘱託

事 務 局：入道教務学生課長

活動内容：

1．学習支援として相談体制の強化

近年、大学生活の中で、友人関係、学業等の悩み、さらに障がいを持った学生が増えてきている。学習に関する疑問や悩みを容易に相談できる支援体制を強化した。

1）各学生相談窓口の一覧をガイダンス時に別紙で配布し、また学年担任の存在についてガイダンスで紹介し、学生が相談しやすい体制を整えた。また、各学年クラスアワーにおいて複数担任による相談体制について周知し、担任・副担任間で連携しながら生活面、精神面、学業面等へのサポートに努めた。

2）担任によるクラスアワーを適宜開催するとともに、拡大学生委員会、学生相談部会等で学習支援等が必要な学生を確認し、個別相談を実施した。

1学年には、4月、5月、7月、10月にクラスアワーを実施し、2、3、4年においても新学期当初にクラスアワーを実施し、学生への学習支援および体調不良学生の把握を行った。また、2ヶ月に1回学生相談部会を開催し、学習支援が必要な学生を確認し、必要時相談支援を行っている。特に、心に悩みを抱えている学生や進路にとまどいを示している学生に対しては、担任と学生部長が本人または保護者と相談し面談を行った。

3）発達障がいの学生に対しては、専門家の指導を仰ぎ、個別支援チームによって支援体制を整え支援した。

4.4.2.2　進路支援専門部会

部 会 長：林　一美　教授

部 会 員：川島教授、岩城准教授、織田准教授、北山准教授、中田弘子講師、米田講師

活動内容：

進路支援担当制のもと、7名の進路アドバイザー教員が学生支援を学生個別に行った。4年生全体への情報提供等は4年クラスアワーなどをとおして、適時期におこなった。学生が早期からのキャリア形成を計画できるように、3年生への進路支援ガイダンスや卒業生との進路セミナーを3年クラス担任と連携しながら実施した。医療機関や保健師募集などの求人には情報収集につとめた。その結果、看護師国家試験は97.6%(全国平均95.5%)、保健師は100%(全国99.6%)であった。就職率は国家試験不合格者をのぞくと100%の就職率と目標を達成した。引き続き、学生の個別性に対応したきめ細かい進路支援を継続して行う。

4.4.3　研究推進委員会

委 員 長：大木秀一　教授（附属図書館長）

委　　員：高山教授、小林教授、彦准教授、米田講師、木森講師、千原助手、中嶋助手

事 務 局：山本主幹

活動内容：

１．学内研究助成について

平成 25 年度は広く看護学および看護実践に寄与することを主旨として、平成 26 年度学内研究助成募集要項により研究Ａ(大型研究枠)、研究Ｂ、海外研究発表の 3 枠で募集した。平成 26 年度は研究成果に見合った適切な予算執行計画と研究成果の発表促進を主旨として、平成 27 年度学内研究助成募集要項によりＡ)研究プロジェクト、Ｂ)研究成果公表の 2 枠で募集した。研究費は外部資金から獲得するものという意識を醸成しつつ、機動的かつ適切な研究費の配分に努めた。重点課題（少子高齢化、がん看護、在宅ケア）を設定した。これまでの研究の成果について、自己点検評価を行い、研究の質の向上に努めた。

２．教育・研究推進に係るフォーラム等の開催

平成 25 年度は学内研究集会として研究フォーラムや外部講師を招いての特別講演会などを実施し、その時期やあり方について意見を収集し、充実を図った。平成 26 年度は、学生が学内教員の研究成果を知る機会を増やすよう学内研究助成成果報告会などの行事を開催した。平成 27 次年度は、学内研究集会の時期やあり方について平成 26 年度に実施したアンケート結果を反映させ、教員と学生の積極的な参加をさらに促進する。

以下は平成 26 年度に本委員会が主催となり開催した学内集会である。

１）研究フォーラム

開催日時：平成 26 年 6 月 25 日（水）16:30～18:00

参 加 者：42 名

場　　所：管理棟１階　地域ケア総合センター研修室

内容および講師：

「看護師等の高度な臨床実践能力の評価及び向上に関する研究」

石川倫子准教授（看護キャリア支援センター）

「安全・確実な末梢静脈穿刺技術の向上－目視困難な静脈可視化技術の開発－」

木森佳子講師（基礎看護学）

「アメリカ合衆国の医療における良心的拒否と自己決定」

加藤 穣准教授（人間科学）

「研究活動報告 - 母親への支援と子どもへの支援について - 」

金谷雅代講師（小児看護学）

２）研究サポート集会

対　象　者　：学内教員および院生

１回目開催日時：平成 26 年　8 月 6 日（水）16:00～17:00　参加者：45 名

２回目開催日時：平成 26 年 10 月 8 日（水）16:00～17:35　参加者：35 名

場　　　　所：管理棟１階　地域ケア総合センター研修室

内容および講師：

１回目：石川看護雑誌の投稿について　　　　小林宏光教授（人間科学）

ワシントン大学研修報告　　　　　　　　彦 聖美准教授（在宅看護学）

２回目：科研申請の事務手続きについて　　　松田敏広課長補佐（事務局総務課）

科研費申請の体験談　　　　　　　　　　清水暢子助教（精神看護学）

血管バリア機能を制御する血中脂質メディエーターの機能解析

多久和典子教授（健康科学）

留学の意義－ドイツ研究出張報告－　　浅見 洋教授（人間科学）

３）平成 25 年度学内研究助成成果報告会の開催

20 課題の発表がなされた。

開催日時：平成 26 年 9 月 16 日（火）13:00～15:00　参加者：38 名

平成 26 年 9 月 17 日（水）15:00～17:10　参加者：36 名

場　　所：教育研究棟１階　大講義室

４）石川県立大学との研究交流会の開催

石川県公立大学法人における 2 大学の学術交流を目的とした研究交流会を実施した。

開催日時：平成 26 年 7 月 23 日（水）16:30～18:00　参加者：39 名

場　　所：金沢都ホテル 5 階　兼六･白山の間

演題・講師：

「農村研究から見る石川の強みと展望」

山下良平講師（石川県立大学 環境科学科）

「男性介護者支援に関する包括的研究」

彦 聖美准教授（本学 在宅看護学）

「動物も人も幸せになれる環境をつくる」

小木野 瑞奈助教（石川県立大学 生産科学科）

「長期臥床患者の拘縮手への清潔ケアに関する研究」

中田弘子講師（本学 基礎看護学）

4.4.3.1　共同研究審査部会

部 会 長：大木秀一 教授（附属図書館長）

部 会 員：丸岡教授、吉田教授、長谷川教授、小林教授、彦准教授、加藤准教授

活動内容：

平成 26 年度学内研究助成（2 次募集）申請・海外研究発表旅費に関する助成（2 次募集）申請の審査を行い、採択案を決定し、研究推進委員会に採択案の審議を付託した。教育研究審議会で採択が決定した。平成 27 年度学内研究助成申請の審査を行い、採択案を決定した。研究推進委員会に採択案の審議を付託した。

4.4.4　情報システム委員会

委 員 長：　大木秀一　教授（附属図書館長）
委　　 員：　浅見教授、田村助教、川端助教、大江助教、千原助手、松田課長補佐
活動内容：

本委員会は本学情報システムの管理・運営を担当している。現在、定例の委員会開催は行っておらず、石川県立大学と合同で石川県公立大学法人情報ネットワークシステム保守委託業務の作業実績報告を 2 か月に一回受けている。その際に法人本部・両大学・業者の間で意見交換を行っている。2014 年 12 月にネットワークの機器更新を行った際に、大学における担当委員会の役割を果たした。機器更新に合わせて、研究者 IP アドレス枯渇問題の対処とネットワーク不正機器検知システムの導入を行った。

4.4.5　広報委員会

委 員 長：武山雅志　教授
委　　 員：吉田教授（研究科長）、牧野教授（学生部長）、丸岡教授（看護キャリア支援センター長）、長谷川教授（地域ケア総合センター長）、大木教授（附属図書館長）、高山教授、村井教授、林教授、松原教授、曽根助教、山田助教、清水助教、魚事務局長
事 務 局：岩谷主事、中嶋事務員

活動内容：

１．オープンキャンパス

１）第 15 回　平成 26 年度　オープンキャンパス 2014 の企画立案・準備・実施
　　夏：開催日時　平成 26 年　7 月 19 日（土）10：00～14:00
　　秋：開催日時　平成 26 年 10 月 25 日（日）10：00～12:00
２）第 16 回　平成 27 年度　オープンキャンパスの検討
　　日程　夏　平成 27 年 7 月 18 日（土）、秋　10 月 24 日（土）午前　開催予定

２．キャンパスネット　IPNU（大学新聞）

１）第 26 巻　2014.10 の企画立案・編集・発行
２）第 27 巻　2015. 3 の企画立案・編集・発行

３．ホームページ

１）ホームページの運用
２）新着情報コーナーの検討
３）教員用 HP に関するアンケート調査
４）英文ホームページの修正

４．大学案内（学部・大学院）

１）2014（学部・大学院）の企画立案・編集・発行

２）2015（学部・大学院）の企画立案・編集

５．大学コンソーシアム石川

１）情報発信専門部会　第１回　平成 26 年　4 月 24 日（木）

第２回　平成 26 年 12 月 17 日（水）

２）いしかわの大学フェア 2014　　平成 26 年 5 月 18 日（日）　資料展示

３）県外進学説明会　　長野市　平成 26 年 9 月 4 日

４）出張オープンキャンパス担当講師の調整と依頼 2014 年度、2015 年度

５）石川の大学ガイドブックの編集　2014 年度版、2015 年度版

６．看護への道（石川県健康福祉部医療対策課）等の原稿作成

７．ほっと石川　　「いしかわの大学　～県立大学と県立看護大学～」　取材協力

８．学生広報委員活動のサポート

１）オープンキャンパス

２）ナース・ステーション（医心発行）

３）石川大学のガイドブック

９．海外・県外講師用大学名入りグッズの検討

平成26年度の広報委員会においては従来からの課題であった英文ホームページの修正を行った。英文ホームページについては留学制度開始に向けて必要なページを平成27年度は準備する必要がある。

平成27年度における講座または研究室単位での教員用ホームページの設置の下準備として、教員活動情報の更新状況と設置意向に関するアンケート調査を実施した。また新着情報のより分かりやすい表示にむけてその方法の検討を行った。

本学の活動は学内だけでなく学外でもさまざまなものが実施されている。しかしながらその内容がホームページに充分掲載されているわけではないのが現状である。行われた活動をすみやかにホームページに掲載できるように、全体的なシステムづくりを更に検討していく必要がある。

オープンキャンパスについてはプログラムの検討を行い、よりコンパクトな形で実施した。ただ委員会メンバーの変更に伴い取り組みが遅れたため、高校への周知が遅くなり、参加人数は平成25年度を下回った。そのため平成27年度の日程について平成26年度中に郵送にて案内した。

大学コンソーシアム石川の関連では北陸新幹線開業に併せて初めて県外進学説明会にブースを出展した。県外高校生の受験に参考になるような資料づくりの必要がある。

4.4.6　入学試験委員会

委 員 長：石垣和子　教授（学長）

委　　員：松原教授、今井教授、丸岡教授、西村教授、村井教授、林教授、魚事務局長

事 務 局：林専門員

活動内容：

１．前年度の実情及び問題点・課題

前年度の各入学試験の募集、実施準備、当日運営、合格発表にいたる一連の事務作業は円滑に実施できた。

他方、試験問題の作成において、①平成 23-24 年度入試委員会からの引き継いだ作問プロセスの確認・周知作業の必要性、②入試評価に基づく募集定員、小論文や面接評価の見直しの課題が見出された。また前年度に入試日程の一部見直しを行った結果、今年度は編入学試験と博士前期課程の入試を同日に行うことになったため、スムースな当日運営が実現できるかが課題である。

２．今年度の目標

１）各入学試験の募集、実施準備、当日運営、合格発表にいたる一連の事務作業を円滑に実施する。

２）課題となっている編入学試験の定員見直しを検討する。

３）課題となっている面接試験の採点方法の見直しを行う。

４）作問体制について作問委員に周知し、適切な作問、採点を保証する。

５）その他の入試委員会が担当する作業を確実に行う。課題を発見し、その解決につなげる。

３．今年度の活動内容・その評価・次年度以降に向けた課題

１）各入学試験の募集、実施準備、当日運営、合格発表にいたる一連の事務作業は円滑に実施できた。実施体制において事務職員と教員との協働がスムースに行えた。編入学試験と博士前期課程の入試を同日に行うことにおいても事前準備を整えることができ、当日運営はスムースであった。

２）編入学試験の定員見直しについて、定員を減らす方針を決定し、全学に周知した。その根拠資料作成は次年度の作業として積み残した。

３）面接試験の採点方法の見直しについては、他大学の例を資料化して示し、段階評価の可能性を審議した。その具体化については次年度の検討事項とした。

４）入学試験の作問は、アドミッションポリシーに照らした作問基準に則って行われた。作問体制について、各入試ごとに組織された作問委員長と委員の役割分担、入試委員会側の果たす役割など、表面化した課題を一つ一つ解決した。次年度に向けては、作問体制に関する早目のオリエンテーション実施が適当ではないかということになった。

５）学生募集に関する活動として、高等学校等への入試説明会、模擬授業等を円滑に分担し、可能な限りすべての要望・申し込みに対応できた。なお、北陸新幹線開通を見越した長野県における学生募集に石川コンソーシアムの助成を受けて参加した。

６）大学院学生の募集において、特に博士後期課程の応募者が少ないことから、２次募集が可

能な時点で１回目の試験をすることとし、次年度から博士前期課程の試験日に合せて入学試験を行うことになった。

7）7 月開催のオープンキャンパスに加え、10 月学園祭と同時に行ったオープンキャンパスへの協力を行った。

8）入試情報のホームページ上での公開と管理を行った。

9）直近の卒業学年に関する入試方法と入学者の特徴との関連に関する調査（入試評価部会）結果の報告を受け、この方法で参考になる結果が得られるということがわかったため、さらに別の学年にも広げて入試評価部会で調査を行うことになった。

４．入学試験の実績

平成26年 9月20日(土)	3年次編入学試験
	看護学研究科博士前期課程入学試験
平成26年11月22日(土)	推薦・社会人入学試験
平成27年 1月17日(土)・18日(日)	大学入試センター試験
平成27年 1月31日(土)	看護学研究科博士後期課程入学試験
	看護学研究科博士前期課程（第2次募集）入学試験
平成26年 2月25日(水)	一般選抜前期日程試験
平成26年 3月12日(木)	一般選抜後期日程試験

4.4.6.1　入試実施部会

部 会 長：非公開
委　　員：非公開
活動内容：

１．看護学部入学試験の準備・実施体制およびそれに付随する業務
２．研究科入学試験の準備・実施体制およびそれに付随する業務
３．大学入試センター試験の会場準備・実施体制およびそれに付随する業務

4.4.6.2　入試評価部会

部 会 長：非公開
部 会 員：非公開
活動内容：

以下について検討した。

１．全国の国公立看護系大学、近隣の看護系大学の３年次編入学試験に関すること
２．平成 26 年度からの本学３年次編入学試験科目変更後の状況に関すること
３．本学入学試験の各選抜方法と入学後の修学状況、資格取得状況に関すること
４．本学推薦入学試験入学者の入学後の修学状況、資格取得状況に関すること

4.4.7　自己点検・評価委員会

委 員 長：石垣和子　教授(学長)

委　　員：浅見教授（学長補佐)、小林教授、大木教授(附属図書館長)、
長谷川教授（地域ケア総合センター長)、丸岡教授（看護キャリア支援センター長)、
西村教授、吉田教授（研究科長)、牧野教授(学生部長)、高山教授（学長補佐)、
魚事務局長

委員補助：田村助教、松本助教、森田助教

事 務 局：山崎主任主事

活動内容：

１．前年度の実情及び問題点･課題

前年度の委員会では、自己点検評価を２年ごとに行うことを決定し、そのための蓄積項目を検討したが、決定には至らず、今年度に検討が持ち越された。

前年度の委員会で教員個人評価の目標シートを作って試行した。しかし目標シートの精錬、二次評価の方法等が課題となって残された。

前年度は３部会（教員評価検討専門部会、年報/自己点検評価専門部会、FD/授業評価専門部会）を設けてあったが、今年度に向けては部会相互の連携を密にするため組織改革を行った。すなわち、部会は解散し、FD/授業評価専門部会は独立した委員会として別立てにし、それ以外の検討事項や作業はすべて一括して委員会の所掌とする。そのため、この委員会に求められる作業をどのようにしたら円滑に進められるかが今年度の課題となる。

２．今年度の目標

１）委員会の作業を円滑に進めるための体制を整える。

２）委員一人ひとりの役割認識を確実にし、計画的に作業を進める。

３）教員評価の仕組みづくりを精力的に進める。

４）年報の構成やデータの質を見直し、自己点検につなげられる様な内容を盛り込む。

３．今年度の活動内容･その評価・次年度以降に向けた課題

１）委員会体制について

委員補助として３人を任命し、資料を収集や細かい作業の手伝い等を依頼した。

今年度の委員会の作業を下記の８つに分類し、分担を決めた。

委員補助の存在によって、少ない委員で包括的な視野での審議が可能になり、部会体制で行っていた前年度と比較して、教員評価－年報－領域別の評価（教育･研究･社会貢献など）が連動して考えられるようになった。

平成26-27年度	A 経年評価方法	B 年報作成	C 教員個人評価方法	D 教育評価（全体）方法	E 研究評価(全体)方法	F 社会貢献評価(全体)方法	G 法人評価	H 認証評価
主な目標	IR探求	行程に添った年報の作成	第1段評価（H26）の振り返りと第2段の実施	プロセス評価/アウトカム評価項目の検討	研究業績の量と質評価/研究費獲得評価など	評価方法	中期計画実績、計画	7年ごとの報告書作成（A～Gを活用）
連携する委員会	（教務学生課と連携）	（山崎さんが行程に従ってリードする）	FD委員会	FD委員会 教務委員会	研究推進委員会	地域ケア総合センター運営委員会	教育研究審議会	教育研究審議会
連携する役職	事務局長・学長			研究科長・学生部長	図書館長	センター長(地)(看)	学長補佐	公大協連携研究員（大木）

2）教員評価について

前年度の計画による目標シート、振り返りシートをもとに２次評価を行った結果を受けて、新たな下位項目を委員会にて決定し、それらを１枚に収めたシートを作成した。記入が確実に行えるような記入要領も作成した。決定した細項目は右の表の通りである。また教員評価の目的や対象、方法等を決定した。教員評価内規として形作る作業は次年度に持ち越した。

評価領域	細項目
教育	学部生教育
	大学院生教育
	生涯教育・その他
研究	研究の実施
	研究論文執筆
	研究費獲得
	その他
大学運営	大学全体運営
	委員会運営 大学事業の運営 センター事業の運営
	大学の広報
	その他
	大学全体が行う社会貢献(国際貢献含む)への協力
社会貢献	自己の教育研究領域の社会貢献
	個人に求められる社会貢献
	その他
特別な配慮の必要性 特別な事情等	

3）年報について

年報原稿の募集に当たって、委員会にて個人業績の基準を見直した。その適切性についての評価は次年度の課題とした。また、委員会活動の報告様式を定めるなど、合目的的な報告になるような修正を行った。

4）経年評価のための蓄積データの決定について

前述の８つの作業のうちのA,D,E,Fについては、次年度に持ち越された。

4.4.8　FD委員会

委 員 長：多久和典子　教授
委　　員：武山教授、川島教授、谷本准教授、中道講師、金谷講師、川端助教、小林特任助教
事 務 局：山岸専門員
活動内容：

１．授業評価について

昨年度から現行の授業評価アンケート項目に変更された。本年度は２年目に当たるため、この方式の是非を判断するには材料が少ない。来年度も同じ方式を継続して行い、その上で、改善点の検討を加えていくことが決まった。我が国においても授業評価の結果の公開が求められており、県立大学ではすでに学内で公開されている。本学においても、次年度以降、学内公開に向けて検討することが確認された。

２．新任教職員オリエンテーションについて

26年度はじめに新任教員オリエンテーションを行った。

３．FD研修会について

２月23日に名古屋大学高等教育研究センター 中島　英博先生をお招きして「学生の主体的な学習を促す授業づくり」と題した研修会を初年次学習支援ワーキンググループと共催で開催した。

４．FD委員の学外研修について

大学コンソーシアム石川ほかの研修の機会に参加し、FDについての知見を深めた。

4.4.9　ハラスメント委員会

委 員 長：石垣和子　教授(学長)
委　　員：浅見教授、多久和教授、川島教授、牧野教授、高山教授、魚事務局長
相 談 員：武山教授、中田弘子准教授、米田講師、森田助教
活動内容：
１．前年度の実情及び問題点･課題
　前年度は委員会への訴えがあり、それへの対応を検討して対処したが、問題点･課題の申し送りはなかった。

２．今年度の目標
　ハラスメント案件が発生した場合には適切に対処する。
　ハラスメントを予防するような職場環境を醸成する。

３．今年度の活動内容･その評価・次年度以降に向けた課題
１）ハラスメント報告（平成 26 年 12 月 26 日　教員全体会議）
　教員全体会議（教員 54 名、事務局 3 名参加）にて、ハラスメント相談員に届いている事案の件数を報告し、同時に障害学生修学支援事例集の紹介を行った。
２）ハラスメント委員とハラスメント委員長の打合せ
　教員向け研修会の開催の必要性や委員会開催の必要性についてハラスメント相談員代表と委員会委員長が話し合った結果、前年度発足させた障害学生の支援チームが機能している途中であり、その経過を見定めて、次年度に研修会開催を検討することになった。

4.4.10　情報セキュリティ委員会

委 員 長：小林宏光　教授
委　　員：大木教授、長谷川教授、吉田教授、牧野教授、石川准教授、松田課長補佐
活動内容：
１．2014 年 8 月 6 日（水）に情報セキュリティ研修会を開催した。ウイルス、マルウェア、アドウェアなどの危険性やファイルサーバの効率的利用などについて情報提供した。
２．県立大情報セキュリティ委員会と合同で，これまでの検討事項であった無線ＬＡＮの導入関して，必要な規程の変更等を検討した。

4.4.11　コンプライアンス委員会

委 員 長：吉田和枝　教授（研究科長）
委　　員：魚事務局長、村井教授、長谷川教授、林教授、谷本准教授、垣花准教授
事 務 局：松田課長補佐

活動内容：

1．6月に平成26年度不正防止計画(暫定的H25年度版の時点修正)と、石川県立看護大学における研究者の行動規範と競争的資金等の取り扱い体系図を確認し、ホームページに掲載した。（この 6 月時点では法人で、文部科学省「公的研究費の管理･監査ガイドライン」改正に伴う、「競争的資金等の取扱規程」等の見直しが行われている途中であった。）

2．8月に教員対象の平成26年度研究費不正防止計画に基づく研修会を行い、昨年の研究費執行の調査結果を報告し、「行動規範」などの周知の徹底を図った（54人参加)。

3．法人内部監査部門の研究費等内部監査を受け、「概ね適正に執行・保管・管理されている」という結果報告を確認した。

4．12月に全教員に「公的研究費の不適切な経理に関する調査」を実施し、57名の回答（回収率100%）があった。「行動規範・不正防止計画」は認知率が昨年より増加したが、相談窓口の仕組みの認知は82.5%と低く、研修の継続の必要性が示唆された。

5．3 月の第 2 回委員会では、研究費の不正使用、研究活動における不正行為の防止に関するガイドラインを受けての本学の実施計画の進捗状況が報告された。研究活動における不正行為の防止に関する国の詳細なマニュアルはまだ完全には提示されておらず、今後もその進行をみながら本部からの策定を受けて、本学は速やかにさらなる不正防止対策に努めていく。

4.4.12　遺伝子組換え実験等安全委員会

委 員 長：中田隆博 准教授（平成26年4月～7月）
　　　　　今井美和 教授（平成26年8月～平成27年3月）
委　　員：小林教授、吉田教授、中田准教授、北山准教授
事 務 局：山崎主任主事
活動内容：

平成25年度の課題は、申請者が委員長であったこと、委員会の構成員が学内教員のみであったこと、申請内容が機関届出実験であったためメール会議のみで審査が行われたことである。

学内で検討を進めていく中で、本学と同一法人下にある石川県立大学にも同様の安全委員会があり頻繁に委員会が開催されていることがわかった。そこで、年1回あるかないかの本学委員会に外部委員を迎えるよりもむしろ石川県立大学の委員会で審議してもらった方がよいのではないかという意見もだされたが、両大学の規程の見直し等が必要となり、その調整に時間を要するため今後の検討課題となった。

平成26年度の申請案件3件は機関届出実験であったが、委員会を開催し学内教員で審査を行った。さらに、特別アドバイザーとして学外の有識者にも審査を依頼し、これらの申請案件の妥当性を確認した。

次に、8月より委員長を例年申請する者以外の者に交代し、事務局から事務担当者が加わった。次回申請があった場合は外部委員2名を審査に加わえることとした。申請書については「ベクターマップ」のマーク表示を行った。

4.4.13　倫理委員会

委 員 長：吉田和枝　教授（研究科長）

委　　員：浅見教授、大木教授、村井教授、塚田准教授、加藤准教授、外部委員

事 務 局：山崎主任主事

活動内容：

１．平成26年度は学長が委嘱する学識経験者として9名の外部委員の参加を得て、計11回の委員会を行った（１回の委員会に2名の外部委員が出席）。

２．昨年度に続き卒業研究のみに「付議不要」制度を適用した。6〜9月まで16件の付議不要確認を行った。

３．同意書および倫理申請書について、①記入しやすく、倫理的な配慮が必要とする項目がわかりやすいように、②かつ審査する上で見やすくするという目的で、同意書の雛形、および新しい倫理申請書様式の作成に向けての検討が行われた。

４．3月には研究倫理教育プログラムの開発を行っているCITI Japanプロジェクトが開催した、（文部科学省共催）研究倫理教育責任者・関係者連絡会に委員2名が参加した。

５．3月に倫理審査の理解促進を目的に、倫理研修会を開催した。参加者数は50名であった。研修内容は①同意書雛形の説明、新倫理申請書様式の説明、②4で示した研究倫理教育責任者・関係者連絡会での内容報告とCITI Japanプロジェクトの研究倫理教育プログラムについての説明、③平成26年度の審査された事例（具体的には掲げていない）を紹介し、審査における判定のポイント等や注意点の説明でありその後で質疑応答が行われた。CITI Japan の研究倫理教育プログラムにおいては、現在、試験的にネットでプログラムを行った教員もおり感想が述べられた。27年度からは研究倫理教育を全員が受講できるような本学システムを作っていくことの必要性が話し合われた。

６．平成26年度の申請数（付議不要を含む）は、教員29件、前期課程生10件、後期課程生0件、卒業論文25件、付議不要申請16件で合計77件であった（昨年65）。審査の結果は、承認50%（昨年60%）、条件付き承認41%（昨年34%）、変更の勧告5%（昨年6%）、不承認3%（昨年0%）、非該当2%（昨年0%）であった。

７．現在学生からの申請のみ行っている付議不要の審査について、院生や教員にも拡大することや、簡易審査ないし迅速審査等の名称に変更することについて意見交換し、今後改めて検討することとなった。

4.4.14　衛生委員会

委 員 長：今井美和 教授

委　　員：大木教授、西村教授、川村講師、中嶋助手、魚事務局長、奥村嘱託、茶谷隆 産業医

事 務 局：細川専門員

活動内容：

平成 25 年度の課題は、2 年間「長時間労働」「労働者の精神的健康」に関する実態調査を行い、毎年教職員に実態を報告し、「セルフケア」「ラインによるケア」を促したが、長時間労働による健康障害防止対策や精神的健康の保持増進対策の樹立に至っていないことである。

平成26年度もこれらの実態調査を行い、教職員に報告し、「セルフケア」「ラインによるケア」を促したが、対策樹立には至らなかった。

平成27年12月より労働安全衛生法が改正され、ストレスチェック制度が創設される。これにより職場でのストレスチェックが義務付けられるので、メンタルヘルス不良者への個別対応につながるように検討を行う。

4.5　平成26年度　卒業研究論文題目一覧

領域または科目群	学籍番号	氏　　名	論　　文　　題　　目
人間科学領域（18 人）	1101005	荒間　志織	看護学生の生活と身体状況の関係の調査研究
	1101009	今村　梨恵	地域高齢者の参加型健康教育に関する文献研究
	1101016	片田　彩賀	生活動作が室内 PM2.5 に与える影響
	1101019	川畑　圭介	石川県内における空気中 PM2.5 の地域差
	1101025	木村　綾	訪問看護ステーションのグリーフケアの現状とその課題 －人口減少地域の熟練看護師の語りから－
	1101033	新谷　彩樹	SNS を使った健康教育が壮年期の女性の健康状態に及ぼす影響
	1101039	高橋 万由子	看護学生の短期海外研修の前後での英語学習に関する意識調査 －平成 26 年度石川県立看護大学夏期アメリカ看護研修－
	1101057	東　沙緒里	災害時に養護教諭として果たす心のケアとは
	1101058	東田　有紀	養護教諭が行う保健室へ通う生徒との関係づくりについて
	1101069	宮下 沙也加	定期的な連絡が健康意欲のある人の形態及び健康意識に及ぼす影響
	1101079	米原　有紗	ALS 患者の人工呼吸器装着に関する思い －手記を通して－
	1301102	鎌田　有紀	臨地実習における学生カンファレンスに対する一考察
	1301103	去田　知子	看護師の業務拡大についての文献検討 －ナースプラクティショナーに焦点をあてて－
	1301104	中西　柚佳	男性看護師の働きやすさと職場環境に関する質問紙調査
	1301105	西村　奈実	学部生と編入生が共にグループワークを行う利点と欠点
	0901073	宮森　浩菜	ペットロスにおける飼主の反応と支援の在り方について －手記を通して－
	1001007	井野　志保	七尾市における空気中 PM2.5 の日内変動
	1001061	船津　綾乃	看護学生におけるコーピングの柔軟性と抑うつ傾向との関係性
健康科学領域（15 人）	1101004	荒木　美保	破骨細胞の分化に及ぼすビタミンＤの影響
	1101029	坂谷　亮子	破骨細胞の増殖に及ぼすビタミンＤの影響
	1101035	千田 茉梨乃	不妊治療が妊産褥婦に与える心理的影響と看護職者のケアについて
	1101036	大門 真里那	石川県内女子大学生の子宮頸がん予防に関する知識と意識－HPV ワクチン 3 回接種未完了者について－
	1101037	髙　千尋	看護学生の生活習慣病予防の実態 －学童期から思春期までの食育の効果の検証－

領域または科目群	学籍番号	氏　　名	論　　文　　題　　目
	1101051	中西　愛海	石川県内女子大学生の子宮頸がん予防に関する知識と意識－HPV ワクチン 3 回接種完了者について－
	1101054	橋本　敦子	分化した破骨細胞の形態に及ぼすビタミンＤの影響
	1101059	日高　樹	Phage Display 法によるモノクローナル抗ＧＦＰ－ＧＳＴ抗体の作製
	1101060	平田　理紗	妊娠期からの多胎育児支援における現状と課題に関する文献レビュー
	1101063	堀田　朱里	組換え PNGaseF による脱糖鎖反応の免疫組織化学への応用
	1101066	増川 明日香	若年女性のやせに関する文献レビュー
	1101074	山越　杏奈	石川県内女子大学生の子宮頸がん予防に関する知識と意識－HPV ワクチン未接種者について－
	1101075	山田 悠梨菜	OCT2 の C 末端細胞内領域が細胞表面輸送に与える影響
	1101078	吉岡　真理	看護学生の糖尿病に対する認識と生活習慣との関連性について －自身の行動変容と患者教育の意欲向上へ繋げるための課題－
	1101081	脇本　皐月	学校教育におけるがんの予防教育の現状と展望 －看護学生を対象とした調査から－
看護専門領域 基礎看護学(12 人)	1101003	新井　沙彩	ハンドケアにおける皮膚保護剤が手指衛生と使用感に与える影響
	1101006	粟津　陽絵	看護学生の転倒リスク場面に対する視覚による観察とアセスメント
	1101008	伊藤 明日香	高齢患者の術後初回歩行時における看護師の転倒予防行動
	1101013	奥井　友貴	皮膚保護剤の使用が手指汚染と手指消毒に及ぼす影響
	1101014	折戸　杏美	急性期病棟における認知症高齢者の混乱を和らげるためのケア －ライフヒストリーに焦点をあてて－
	1101017	角　真緒	皮膚保護剤が手指衛生に及ぼす影響
	1101024	北村　晴菜	初めて患者を受け持つ学生の看護過程展開における困難感と対処方法
	1101031	澤　由莉	入院患者の静脈穿刺による皮下出血に伴う症状と思い
	1101062	堀田　紗弓	高齢者の皮膚バリア機能に関する基礎調査 －医療材料による皮膚障害のケアー
	1101064	堀野　未来	地域在住高齢者の認知機能と基本チェックリスト・体力測定の各因子との関連
	1101067	丸山　莉奈	看護現場における看護師長不在時の副看護師長の役割 －患者にとって安全で快適な療養環境の維持に焦点をあてて－
	1101073	谷内　葵	高齢者の口腔内不快感の日内変動と症状

領域または科目群	学籍番号	氏　　名	論　　文　　題　　目
看護専門領域 母性看護学（8人）	1101007	池田　美音	災害が妊産婦や母親に及ぼす影響と必要な看護についての文献検討
	1101021	木田　しおり	遺伝カウンセリングに関する文献的考察
	1101027	近藤　夏美	10代母親のパートナーと家族への支援に関する文献研究
	1101034	鈴木　泉帆	新生児訪問指導事業の現状と今後の課題
	1101046	道谷内　愛	文献検討からみた就労女性の母乳育児継続支援の課題
	1101053	野澤　ゆり乃	妊婦の口腔衛生に関する文献検討
	0501071	山口　さやか	里帰り分娩の夫への影響と支援についての文献検討
	1001004	荒木　玲海	ダウン症児をもつ母親の受容過程と育児支援に関する文献研究
看護専門領域 小児看護学（6人）	1101001	青木　香澄	虐待を受けた子どものケアに関する文献検討
	1101010	上田　優葵乃	NICU 退院に向けて行われていた援助と退院後に母親が感じる不安・困難感に関する文献検討
	1101026	小倉　眞智子	発達障害児をもつ母親の子育ての困難とそれを助長する要因、困難への支援に関する文献研究
	1101028	坂本　希	児童生徒のインターネット依存になりうる要因と行われている予防策に関する文献検討
	1101032	白坂　眞子	児童生徒の自尊感情を高める取り組みに関する文献検討
	1101056	馬場　日菜子	摂食障害児の母親の特徴とその母親への支援に関する文献検討
看護専門領域 成人看護学（10人）	1101018	川嶋　あき	せん妄・不穏に関する研究の文献的考察
	1101022	北　千尭	集中治療室(ICU)で最期を迎える患者の家族に対する看護
	1101038	高桑　希望	手術室看護師と病棟看護師が考える待機家族への看護の違い
	1101041	瀧本　香織	がん患者とその子どもへの支援に関する検討 －アートセラピーと患者同士の対話から－
	1101045	田中　陽子	臨床看護師の身体拘束・抑制に関わる教育の文献的考察
	1101047	徳田　紗也加	病院で終末期を過ごすがん患者が抱く希望とその看護
	1101052	中野　明木	サポートブックを用いた乳がん患者とその子どもへの支援効果 －過去3年間のサポートブックの記述・親子の会話の分析から－
	1101065	本田　沙織	手術前の患者が必要とする情報と術前訪問における手術室看護師の関わり

領域または科目群	学籍番号	氏　　名	論　　文　　題　　目
	1101080	米脇　愛	手術中待機家族に対する術中訪問および看護援助の実態
	1301109	籔下　佳子	外来化学療法を受けるがん患者の在宅療養における困難感
看護専門領域 老年看護学（6 人）	1101042	竹村　亜衣	高齢者の下肢浮腫と皮膚表面温度および自覚症状の実態 －車椅子使用高齢者、独歩高齢者の比較－
	1101043	伊達 ひかり	認知症高齢者の口腔状態・機能の向上を目指した笑いヨガの試み 第 1 報：笑いヨガプログラムの作成及び認知症高齢者の適応方法の検討
	1101070	村谷　真菜	認知症高齢者の口腔状態・機能の向上を目指した笑いヨガの試み 第 2 報：口腔機能面からみた笑いヨガプログラムの効果
	1101072	諸橋　睦	認知症治療病棟における認知症高齢者の転倒について －インシデントレポートを用いての検討－
	1101082	渡辺　一美	車椅子で生活する高齢者の下肢浮腫と下肢冷感の研究
	1301107	藤野間　剛	認知症高齢者の口腔状態・機能の向上を目指した笑いヨガの試み 第 3 報：心理的効果および認知機能に対する効果について
看護専門領域 地域看護学（8 人）	1101012	岡本　修子	基本チェックリストによる集団特性の把握と一次予防への活用の可能性
	1101015	加賀 麻衣子	能登半島 A 市の壮年期国保被保険者における特定健診未受診者の受診意思とその背景要因の検
	1101030	佐々木　愛	若年層の男性におけるメタボリックシンドロームの予防対策の現状と課題 －職場での取り組みに注目して－
	1101040	高村　彩那	特定健診未受診者の未受診理由と受診率向上のための対策についての文献検討
	1101049	長田 まりか	女性がん検診の受診行動に影響する要因と対策別効果に関する文献研究
	1101061	藤澤　梢	能登半島 A 市の壮年期国保被保険者における胃がん検診未受診者の背景要因の検討
	1301101	奥本　朱理	一人暮らし高齢者のインフルエンザ予防行動に関する研究 －健康に生活し続けるための支援に向けて－
	1301106	野村　佳世	高齢者の口腔保健活動に影響を及ぼす因子についての文献検討
看護専門領域 在宅看護学（6 人）	1101002	安宅 ふらの	介護を担う男性の栄養状態と必要な支援
	1101020	川畑 乃梨子	封入体筋炎患者の配偶者の思いと生活の変化
	1101044	田中 あゆみ	災害時の避難行動における要援護者の困難感
	1101055	橋本　祥一	石川県がん安心生活サポートハウスにおける学生参加の効果と課題
	1101071	森本 いずみ	防災訓練における災害時要援護者支援に関する一考察 ～要援護者支援を行う住民への聞き取り調査から～
	1101076	山本　洋子	介護支援専門員が捉える男性介護者の特徴と支援 －富山県・福井県内の介護支援専門員に対する調査からの分析－

領域または科目群	学籍番号	氏　　名	論　　文　　題　　目
看護専門領域 精神看護学（5人）	1101011	遠藤　晴佳	養護教諭が児童の悩みに対して行う活動
	1101050	中藤　雅人	精神科急性期病棟でのアドヒアランスの視点による服薬支援について
	1101068	宮坂　優佳	精神障害者の就労継続に関する企業の支援の実態
	1301108	二木　悠衣	不登校児童生徒への養護教諭の支援に関する文献レビュー　－保健室登校から教室復帰に向けて－
	1001072	村上　素平	精神科病棟入院中のアスペルガー症候群患者に対する看護師の有効な援助法について

５．大学院・看護学研究科

5.1　理念・目標

5.1.1　博士前期課程（修士）

5.1.1.1　教育理念

「人間の生命や生活の質を真に理解できる豊かな人間性とともに、専門的職業人としての基盤を備え、保健・医療・福祉の幅広い領域で、県民の健康と福祉の向上に貢献できる看護職及び看護指導者を育成する」という本学の教育理念を受け継ぎ、深化・発展させる。看護を取り巻く状況が高度化・複雑化・専門化する中にあって、より質の高い効果的な看護を構築・提供するために、学際的で深い科学的知識と高度の研究能力を有して看護学教育・研究・実践に携わることのできる教育者・研究者・高度専門職業人を育成し、看護学の一層の確立と看護実践の発展に努める。

5.1.1.2　教育目標

１．看護教育を支える教育・研究職の育成

本課程では、学部で蓄積された看護学に関する成果を、さらに深化・発展させることによって時代と地域の要請に応えるため、看護学分野における学術上の先端的役割を担うとともに、知識の体系化と看護技術の開発を積極的に推進し、看護学の学問体系の構築に貢献する教育・研究職の人材を育成する。

２．高度な専門的知識・技術・実践能力を備えた看護職者の育成

実践現場において当面する種々の問題について、体系的、継続的に研究を行い、合理的に問題解決できる人材や、看護職に対する指導・相談、関係する職種間の総合的調整能力、ケアの環境条件を積極的に改革していく役割を担う人材の養成が求められている。そうした要請に応えるため、専門看護師（CNS:Certified Nurse Specialist）の養成を図り、もって地域の看護の発展に一層寄与できる高度専門職業人を育成する。

３．生涯にわたって研鑽できる看護職の知的交流の場づくり

日々進歩・発展する医療技術と看護環境の変化に機敏に対応し、看護の知識と技術の向上を図るため、看護の実践現場と教育・研究の場の交流を活発にし、地域が要望する質の高い看護サービスの提供を図っていく。そのためには、学部の社会人入学に加えて、卒業後の継続教育、適宜適切な社会人の再教育の場を提供する必要がある。本課程は、このような向上心旺盛な学部卒業生や社会人の受け皿としての機能を持ち、看護現場のより一層の質の向上のために寄与することを目指す。

5.1.1.3　アドミッション・ポリシー（求める人材）

入学者選抜試験を実施し、以下の資質を有する優秀で意欲ある人材を幅広く求めています。

１．幅広い基礎学力を有し、かつ希望する専攻分野の基礎知識を有する人

２．看護の専門的知識・実践力と研究能力を自ら発展させる意志を有する人
３．人間や社会に対して広く興味を持ち、豊かな人間性と高い倫理観を有する人
４．看護学を通じて地域社会および国際社会に貢献する意志を有する人

5.1.1.4　カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成・実施方針）

博士前期課程では、学際的で深い科学的知識と高い研究能力を有し看護学の研究や教育、実践に携わることのできる研究者・教育者・高度看護実践者を育成するために、研究コースと専門看護師コースを設け、次のような教育課程を編成している。

１．広い視野で看護を学ぶための学際的な科目から構成されている「共通科目Ａ」「共通科目Ｂ」各研究教育分野におけるより深い専門性を学ぶ「看護専門科目」を置いている。
「共通科目Ａ」は研究コース・専門看護師コースのどちらの学生でも履修できるように配置している。
２．論文作成にあたっては、中間報告会などにより研究プロセスを段階的に学んでいくことができるように、全学的な指導体制をとっている。
３．専門看護師コースでは、特定分野におけるケアとキュアを融合した看護実践力、保健医療福祉チーム内の調整力などの育成をめざし、看護実践力の高い専門看護師とタイアップして日本看護系大学協議会で認定された専門看護師教育を展開している。
４．国際的な視野をもち、より効果的な看護を探求し提供していくために、海外の招聘教員による国際看護を学ぶ科目を置いている。

5.1.1.5　ディプロマ・ポリシー（学位授与に関する方針）

所定の単位を修得し、学際的で深い科学的知識と高い研究能力・実践能力を有する者に修士(看護学)の学位を授与する。そのためには、以下の学習成果をあげることが求められる。

１．各分野における修士論文の作成を通して、体系的な研究方法を身に付ける。
２．専門看護師コースの修了者は、特定の看護分野における高度な知識と技術を身に付ける。
さらに、総合的な判断力をもって組織的に問題解決をはかる能力を身に付ける。

5.1.2　博士後期課程（博士）

5.1.2.1　教育理念

「人間の生命や生活の質を真に理解できる豊かな人間性とともに、専門的職業人としての基盤を備え、保健・医療・福祉の幅広い領域で、県民の健康と福祉の向上に貢献できる看護職及び看護指導者を育成する」という本学の教育理念を受け継ぎ、深化・発展させる。看護を取り巻く状況が高度化・複雑化・専門化する中にあって、より質の高い効果的な看護を構築・提供するために、学際的で深い科学的知識と高度の研究能力を有して看護学教育・研究・実践に携わることのできる教育者・研究者・高度専門職業人を育成し、看護学の一層の確立と看護実践の発展に努める。

5.1.2.2　教育目標

1．看護学や看護実践の発展に寄与する教育者・研究者の育成

看護・保健・医療・福祉を取り巻く環境の変化や地域の要請に対応することができる高度で専門的な知識・技術と、総合的判断力、リーダーシップを備えた看護職を養成する。また、これまで蓄積された経験知や実践知に基づいてより効果的な看護ケアプログラムを開発していくとともに、健康に関する人々の反応や看護援助にまつわる専門的知識を系統的に理解し、諸科学の知見と関わらせながら看護学をさらに体系化し、かつ現代社会の変化や趨勢に照らして看護が果たすべき役割を発展的、科学的、体系的かつ原理的に探求していくことができる教育者・研究者を育成する。

2．科学的な理解に基づいて看護をデザインできる研究者の育成

地域社会並びにそこで生活するあらゆる健康レベルの人々やその家族に対して総合的なヘルスケアをデザインするために、高度な理論・方法など学際的な知識体系を修得・活用して新しい看護実践方法、環境、用具等の開発を行なう。さらに、それらの実践の場における有用性の検証を図り、実践に活かせるエビデンスを明らかにできる研究者を育成する。

3．対象の特性を踏まえた看護を実践できる研究者の育成

効果的な看護ケアプログラムの開発、あるいは対象者個々の個別性を踏まえ、その人たちが帰属する地域の文化的特性を踏まえた看護援助の開発、エビデンスに基づいた看護援助法の確立をめざした高度の研究を継続的に推進していくことのできる研究者を育成する。

5.1.2.3　アドミッション・ポリシー（求める人材）

入学者選抜試験を実施し、以下の資質を有する優秀で意欲ある人材を幅広く求めています。

1．幅広い基礎学力を有し、かつ希望する専攻分野の基礎知識を有する人
2．看護の専門的知識・実践力と研究能力を自ら発展させる意志を有する人
3．人間や社会に対して広く興味を持ち、豊かな人間性と高い倫理観を有する人
4．看護学を通じて地域社会および国際社会に貢献する意志を有する人

5.1.2.4　カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成・実施方針）

博士後期課程では、看護学や看護実践の発展に寄与する研究者・教育者を育成するために、教育課程においては次のような点を重視している。

1．広い視野で看護をとらえ、看護プログラムなどをデザインし発展させる能力、看護実践のもととなる原理を解明する能力を身につけるために、組織的な研究指導をする。
2．学位論文の審査にあたっては、他の大学院等の教員を審査委員に加える等、論文の質の向上と客観性の確保に努める。

5.1.2.5　ディプロマ・ポリシー（学位授与に関する方針）

所定の単位を修得し、学位論文において新しい知見を産出して、看護学や看護実践の発展に寄与する研究能力を有する者に博士(看護学)の学位を授与する。

5.2　大学院生の入学・在学・修了の状況

１．入学の状況

１）入学定員・収容定員

単位（人）

課　　程	入学定員	収容定員
博士前期課程	10	20
博士後期課程	3	9

２）試験実施日

	実施日
博士前期課程入学試験	平成26年 9月20日（土）
博士前期課程入学試験（第2次募集）	平成27年 1月31日（土）
博士後期課程入学試験	平成27年 1月31日（土）

３）受験状況等

単位（人、倍）

	募集定員 A	志願者数 B	志願倍率 B/A	受験者数 C	受験倍率 C/A	合格者数 D	実質倍率 C/D	入学者数
博士前期課程	10	7	0.7	7	0.7	7	1.0	7（7）
博士前期課程2次	若干名	3	－	3	－	3	1.0	3（3）
博士後期課程	3	2	0.7	2	0.7	1	2.0	0（0）

（ ）の数字は内数であり女性の数を示す

２．在学の状況（平成 27 年 3 月 1 日現在）

単位（人）

課　　程	1 年次	2 年次	計
博士前期課程	10（10）	16（12）	26（22）

課　　程	1 年次	2 年次	3 年次	計
博士後期課程	4（4）	3（3）	8（7）	15(14)

（ ）の数字は内数であり女性の数を示す

３．修了の状況

１）修了者数と修了後の進路状況　（平成27年3月31日現在）

単位（人）

課　　程	修了者数	修了後の進路
博士前期課程第 10 期生	9（6）	医療機関、教育機関
博士後期課程第 10 期生	3（3）	教育機関

（ ）の数字は内数であり女性の数を示す

2）修了後の進路状況　第10期生　（平成27年3月31日現在）

（1）博士前期課程

単位（人）

区分		県内 人数	県外 人数	合計 人数
就職	医療機関	4	0	4(2)
	研究機関	0	0	0(0)
	教育機関	4	0	4(4)
	保健・福祉機関	1	0	1(0)
合計		9	0	9(6)

（ ）の数字は内数であり女性の数を示す

単位（人）

区分		県内 人数	県外 人数	合計 人数
進学	大学院博士後期課程	0	1	1(0)
	その他	0	0	0(0)
合計		0	1	1(0)

（ ）の数字は内数であり女性の数を示す

（2）博士後期課程

単位（人）

区分		県内 人数	県外 人数	合計 人数
就職	医療機関	0	0	0(0)
	研究機関	0	0	0(0)
	教育機関	2	1	3(3)
	保健・福祉機関	0	0	0(0)
計		2	1	3(3)

（ ）の数字は内数であり女性の数を示す

5.3　大学院教務学生委員会

委 員 長：吉田和枝　教授(研究科長)

委　　員：丸岡教授、大木教授、牧野教授、西村教授、小林教授

事 務 局：入道教務学生課長、井ノ山事務員

活動内容：

1. 大学院教務に関する以下の事項について審議・実施し、必要事項は研究科委員会に提出し、承認を得て教務を行った。

１）新入生および在校生へのガイダンス

２）修士論文・博士論文に関し、修士（9 名）の中間評価委員・博士論文（4 名）の予備審査委員決定、修士中間報告会（9 名発表. 参加者 69 名）、修士論文発表会（9 名発表. 参加者 81 名）、博士中間報告会実施（3 名発表. 64 名参加）を行った。

３）既修得単位、14 条学生、長期履修生、科目等履修生、研究生、休学・復学の認定

４）前期・後期成績判定、学位授与・修了判定を行った。

５）非常勤講師、院内講義担当者の、実習施設に関する事項の申請を受けて検討した。

６）時間割の作成、大学院便覧の作成を実施した。

２．9 月 6～20 日ワシントン大学のノエル・クリスマン教授を招聘し大学院講義を行った。

３．「院生との懇談会（9 月、2 月）」開催、院生のニードの把握に努め、連絡徹底、必要物品購入、早期の時間割作成など対応をした。また、大学院生の個別の連絡先表の作成することの許可を学生から得た。

４．専門看護師の受験・実習場所拡大を目的に、昨年に続き 3 回目の「北陸３県看護部長との懇談会」を実施し、16 名の看護部長の参加のもとに意見交換をした。

５．小児の専門看護師 38 単位カリキュラム申請が承認され平成 27 年度から実施となった。

６．北陸がんプロインテンシブコースＡの講義で３Ｐ科目の聴講も可能となった。ただし３Ｐ科目については現在のところ、聴講のみで単位取得はない。

７．大学院のあり方検討 WG、学長の発案を受けて、大学院での英語看護論文購読の新規開設科目について委員会で話し合われた。その後、研究科委員会での議論では拙速とのことで再履修単位の確認をまずは学生が自己責任の下で確実に行うこと、教員はシラバスや単位の説明などを初期にきちんと学生に説明することなど、履修漏れ予防を徹底することが再確認された。

5.4　平成26年度　修士論文題目一覧

分　　野	氏　　名	論　　文　　題　　目	担当教員
コミュニティケア	井上　智可	訪問看護師の精神科医師と連携するための看護実践	林　一美
コミュニティケア	角地　孝洋	中堅期保健師の職業的アイデンティティに影響する要因	石垣　和子
コミュニティケア	金子　紀子	幼児を育てる母親の近所とのつながりと育児ストレス、育児マスタリー	石垣　和子
成人看護学	南堀　直之	安静降圧療法を受ける急性大動脈解離患者に対する看護実践の構造	村井　嘉子
成人看護学	原子　裕子	抗ＥＧＦＲ抗体薬投与中の患者への看護師によるスキンケア指導の効果 －セツキシマブ投与中のがん患者を対象に－	牧野　智恵
地域・精神・保健学	中嶋　知世	石川県の外国人住民における健康課題の実践調査	大木　秀一
看護管理学	辻　清美	終末期がん患者の退院支援に対する看護師の姿勢と行動 －緩和ケア病棟の看護師に焦点をあてて－	丸岡　直子
看護管理学	松井　康一	医療安全管理者の業務遂行上の負担感と影響要因 －医療安全に関する職員研修に焦点をあてて－	丸岡　直子
老年看護学	磯　光江	血液透析を受ける認知症高齢者に対する看護師の経験の質的研究	高山　成子

5.5　平成26年度　博士論文題目一覧

氏　　名	論　　文　　題　　目	担当教員
岩城　直子	外来で放射線療法を受けるがん患者への精神心理的援助 －ＰＩＬテストを手がかりとした対話による看護介入の効果－	牧野　智恵
永谷　幸子	Increasing cerebral oxyhemoglobin by ankle exercise: An attempt preventing symptoms of orthostatic hypotension （足関節運動による脳内酸素化ヘモグロビンの増加：起立性低血圧を予防するための試み)	丸岡　直子
林　静子	看護師の視覚を用いた観察に基づく臨床判断の構造	丸岡　直子

６．教員の業績

6.１　書　　籍

6.1.1　書 籍（著 書）

石垣和子　(分担執筆)：　成人が身を置く文化を尊重する．林直子，鈴木久美他２名(編著)：成人看護学概論　改定第２版．南江堂，東京，2014.11

今井美和　(分担執筆)：　8．健康と生活　がん．日本生理人類学会（編〕,勝浦哲夫（編集委員長）：人間科学の百科事典．丸善出版株式会社，東京，2015.1

加藤穣　(単著):English Fundamentals for Nursing Students．三恵社，愛知，2015.3

川島和代　(分担執筆)：　基礎知識編、実践編．介護職員関係要請研修テキスト作成委員会編集：医療的ケア　介護職員による喀痰吸引・経管栄養．長寿社会開発センター，東京，2014.11

小林宏光　(分担執筆)：　サブリミナル効果．日本生理人類学会(編)：人間科学の百科事典．丸善出版，東京，2015.1

小林宏光　(分担執筆)：　成長・発達．日本生理人類学会(編)：人間科学の百科事典．丸善出版，東京，2015.1

小林宏光　(分担執筆)：　心拍変動．日本生理人類学会(編)：人間科学の百科事典．丸善出版，東京，2015.1

草野洋介，小林宏光　(編集)：　第８章 健康と生活．日本生理人類学会(編)：人間科学の百科事典．丸善出版，東京，2015.1

長谷川昇　(分担執筆)：　イラスト解剖生理学実験．東京教学社，東京，2014.9

牧野智恵　(分担執筆)：死が近づいた人のセルフマネジメント支援．安酸史子（編著）：ナーシング・グラフィカ　成人看護学(3)　「セルフマネジメント」．メディカ出版，東京，227-240，2015.1

6.1.2　書籍（翻訳）

今井美和　(分担翻訳)：　第 18 章　女性生殖器系．河原栄，中谷行雄（監訳）：ルービン カラー基本病理学 第５版．西村書店，東京，2015.3

6.2　学術論文

6.2.1　査 読 有

浅見洋：　ドイツ語圏における魂のケア(Seelsorge)の展開とその現状．比較思想（別冊），41，46-49，2015.3

浅見洋：　医療における Seelsorge（魂のケア）について．北陸宗教文化，28，1-15，2015.3

藤田智恵，中村順子，佐藤亜希子，浅見洋：　阿仁地域における住民の死生観と在宅終末期医療に関する調査（２報）．秋田大学大学院医学系研究科保健学専攻紀要，23(1)，61-69，2015.3

岩田尚子，伊藤隆子，石垣和子：　在宅療養移行期に在宅療養生活に対して独居高齢者が抱く心配とその変化．千葉看護雑誌，20(2)，21-29，2015.1

井上智可，舟田眞美，松原勇，林一美：　石川県の訪問看護ステーションにおける精神科訪問看護に関する実態調査．石川看護雑誌，12，65-73，2015.3

大江真人，長谷川雅美，長山豊，大江真吾，他８名：　精神科病棟に勤務する看護師が身体合併症を持つ患者のケア場面で感じる困難感．看護実践学会誌，27，1-8，2014.9

大木秀一，彦聖美：　ユニバーサルデザインと公衆衛生学的アプローチの類似性．石川看護雑誌，12，1-12，2015.3

垣花渉：　住民と看護学生の社会的ネットワークを活かした「健康長寿のむら」づくり．地域活性研究，6，41-50，2015.3

YuL., KatoY., et al.:　A questionnaire study on attitudes toward birth and child-rearing of university students in Japan, China, and South Korea. Acta Medica Okayama ，68(4)，207-218，2014.9

Kimori K.:　Improvement of a prototype device using near-infrared light to visualize invisible veins for peripheral intravenous cannulation in healthy subjects. Journal of the Tsuruma Health Science Society，38(1)，11-19，2014

小林宏光:　生理特性のバリエーションの構造.日本生理人類学会誌,19(4),277-282,2014.12

Kobayashi H., Kakihana W., Kimura T.:　Combined effects of age and gender on gait symmetry and regularity assessed by autocorrelation of trunk acceleration.. Journal of Neuroengeering and Rehabilitation, 11，109，2014

Nagaya S., Kobayashi H., Fujimoto E. :　Assessment of blood pressure for determining the time to perform first postural change in patients after cardiac surgery in the intensive care unit. . Journal of Nursing and Care, 3，177-182，2014.8

曽根志穂，武山雅志，金谷雅代，石垣和子：　被災地ボランティア活動が看護学生の自己イメージと社会人基礎力,自己効力感に与える影響と学生の思い.石川看護雑誌,12,115-126,2015.3

加藤康子，高山成子，沼本教子：　レビー小体型認知症の高齢者が語る生活上の困難な体験と思い．日本看護研究学会雑誌，37(5)，23-33，2015.3

久米真代，高山成子，小川育恵，他２名：　緩和ケア病棟でがん終末期の認知症の高齢者を看護する看護師の困難感．　石川看護雑誌，12，45-52，2015.3

Aki S., Yoshioka K., Okamoto Y., Takuwa N., Takuwa Y. :　Phosphatidylinositol 3-kinase class II α-isoform PI3K-C2α is required for transforming growth factor β-induced Smad signaling in endothelial cells. . Journal of Biological Chemistry, 290(10), 6086-6105, 2015.1

宮本礼子，小林千恵美，武山雅志：　グループプロフィール化の試みと問題点．　MMPI研究・臨床情報交換誌，23，23-24，2015.3

小林千恵美，宮本礼子，武山雅志：　気分障害３群のグループプロフィールの特徴と変化．MMPI研究・臨床情報交換誌，23，25-32，2015.

谷本千恵，石井了恵，坂上章，角田雅彦：　過疎地域における精神障がい者の地域生活支援の現状と課題．日本ルーラルナーシング学会誌，9，27-36，2014.4

谷本千恵：　看護系大学における精神看護学教育の内容と課題．石川看護雑誌，12，85-92，2015.3

寺井梨恵子，丸岡直子，田甫久美子，小林宏光，林静子：　転倒リスク場面における看護師の視覚情報に基づくアセスメント．医療の質・安全学会誌，10(1)，3-10，2015.1

中嶋知世，大木秀一：　外国人住民の健康課題の文献レビュー．石川看護雑誌，12，93-104，2015.3

子吉知恵美：　重症心身障害児のレスパイトケアに関わる保護者の援助ニーズ．小児保健研究，74(2)，297-302，2014.3

長谷川昇，垣花渉，中田隆博，望月美也子：　具体的な運動介入を含まない健康支援クラウドサービスを用いた介入による生活習慣病予備軍の体脂肪量減少効果．情報コミュニケーション学会誌，10(2)，32-37，2015.2

Hasegawa N., Kakihana W., Hanaoka M., Nakai S., Mochizuki M.: Effect of a weekly 35-min 4.4 Mets exercise ("Choi-tore") on body composition and bone mineral density of assembly line women in the electronic industry of Japan. Health Care, 2(4)，74-77，2014

Mei L., Mochizuki M., Hasegawa N.: Pycnogenol ameliorates depression-like behavior in repeated corticosterone-induced depression mice model. BioMed Research International, 2014.5

Yamada N., Hasegawa N.: Inhibitory effect of wheat gluten peptic hydrolyzate on body fat accumulation in zucker fa/fa rats fed a high-caloric diet. Health Care, 3(1)，17-20，2015.2

林一美：　在宅で認知症配偶者介護を行う後期高齢男性の介護継続の特徴．第45回(平成26年度）日本看護学会論文集　在宅看護，40-43，2015

彦聖美，大木秀一：　改正育児・介護休業法の整備と実績調査ー男性の仕事と介護の両立支援の検討ー．石川看護雑誌，12，25-33，2015.3

加藤亜妃子，牧野智恵，大森佳子，岩城直子，谷優美子：　テレビ会議システムを活用したがん看護事例検討会の効果および問題点．石川看護雑誌，11，2015.3

平優子，牧野智恵，澤木英子，他4名：　胃がん患者と家族の調理実習を取り入れたがんサロンの実際. palliative Care Resserch，10（1），926-930，2015.3

Makino T.: Logotherapy of a mother with an unconscious son. 日本ロゴセラピスト協会論集(英語版ホームページ), http://www.geocities.jp/japan_logo_semi/e_logo_html/A_logo/makino_paper.html

松本智里，泉キヨ子，平松知子，正源寺美穂：　女性人工股関節全置換術患者が主観的に評価する歩容とその影響要因．日本看護科学学会誌，34(1)，19-26，2014

丸岡直子，田村幸恵，田甫久美子，他5名：　パートナーシップ・ナーシング・システムの導入効果と定着への課題．石川看護雑誌，12，75-83，2015.3

林静子，丸岡直子，寺井梨恵子：　病室観察時における看護師の眼球運動の傾向．石川看護雑誌，12，13-23，2015.3

鈴木みずえ，丸岡直子，加藤真由美，他10名：　臨床判断プロセスを基盤とした認知症高齢者の転倒予防看護質指標の有用性．老年看護学，19(1)，43-52，2014.11

藤田三恵，丸岡直子，川島和代，村井嘉子，他4名：　卒業前看護学生を対象とした多重課題演習の実態とプログラム評価．日本看護学教育学会誌，24（3），51-61，2015.3

Nagaya S., Hayashi H., Fujimoto E., Maruoka N., Kobayashi H. : Passive ankle movement increases cerebral blood oxygenation in the elderly: an experimental study. BMC Nursing, 14(3), 2015.3

米田昌代，吉田和枝，曽山小織，島田啓子： 周産期のグリーフケアに取り組む看護者の原動力．石川看護雑誌，12，35-44，2015.3

栗津文葉，米田昌代，曽山小織： 出生前診断において胎児異常を告げられた女性の心理に関する文献的考察．石川看護雑誌，12，105-114，2015.3

6.2.2 査 読 無

浅見洋： ゼールゾルゲとスピリチュアルケアの間．宗教研究，88(4)，393-394，2015.3

伊藤智子，加藤真紀，阿川啓子，諸岡了介，浅見洋： 「周囲に迷惑をかけない死」を理想の死とする人の終末期療養ニーズ―島根県の中山間地域での調査から―．保健の科学，56(9)，637-644，2014.9

井上智可，清水暢子，舟田眞美，林一美： 英国調査 その１ 英国の在宅介護者支援．石川看護雑誌，12，127-133，2015.3

大木秀一： 多胎児を産み育てる家族の課題とその支援．月刊 母子保健，670号，4-5，2015.2

清水暢子，井上智可，舟田眞美，林一美： 英国調査 その2 英国の認知症初期集中支援チーム「メモリーサビス」．石川看護雑誌，12，135-141，2015.3

武山雅志： 「MMPI を臨床で活用するために －グループプロフィール化の試み－」を企画して．MMPI 研究・臨床情報交換誌，23，22，2015.3

丸岡直子： 患者や家族の意向に沿った退院支援－不安や葛藤を受け止める－．看護主任業務，24(2)，19-23，2014.11

6.3 その他の原稿

浅見洋：おふみさんに続け！女性哲学者の初穂・高橋ふみの生涯と思想（後篇）．石川 自治と教育，679，36-50，2014.4

浅見洋：ルーラルにおける終末期療養場所のニーズとその背景ー石川・秋田・島根の中山間地での意識調査の結果ー．日本ルーラルナーシング学会誌，9，70-72，2014.4

浅見洋：ライプツィヒだより㊤ 石川の思想家身近に感じる．北國新聞（朝刊）7.17，2014.7

浅見洋：ライプツィヒだより㊥ 四項の教師たちの足跡辿る．北國新聞（朝刊）8.7，2014.8

浅見洋：ライプツィヒだより㊦ 音楽の祭典 金沢思い出す．北國新聞（朝刊）8.25，2014.8

Abe C, Wakabayashi Y.：Changes in childcare services accompanying municipal mergers ：A case study of Kahoku city in Ishikawa prefecture，Geographical Reports of Tokyo Metropolitan University，50，89-96，2015

石垣和子： ［進言］これからの時代の老後．時事通信社 厚生福祉 第 6091・合併号，2014

大木秀一： ICOMBO（国際多胎支援組織協議会）総会への出席報告．JAMBA メールマガジン，44，2014

大木秀一： 多胎児家庭の育児支援に役立つ図と表 2015（平成 27）年作成版．1-21，2015

大木秀一： The 3rd World Congress on Twin Pregnancy & The 15th Congress of the International Society of Twin Studies（ISTS）に参加して．石川看護雑誌，12，145-147，2015.3

垣花渉，水本菜々，北澤礼衣，笹谷彩夏，他 7 名： 限界集落発「生活ケアモデル」の創造―「コミュニティカフェ」を通じた互恵的協働社会の実現―．平成 26 年度地域課題研究ゼミナール支援事業成果報告集，20－23，2015.2

垣花渉，大野里彩絵，三賀亮典，南祐花，他 11 名： コミュニティ形成を通じた荘年・老年期の生活習慣病の予防．平成 26 年度地域課題研究ゼミナール支援事業成果報告集，16－19，2015.2

熊澤栄二，山岸雅子，垣花渉，舟田勤，他２名： 高齢者の QOL 増進を目指した実践的研究ー新たな社会的ネットワークの構築を目指してー．第 19 回（平成 26 年度）「北陸地域の活性化」に関する研究助成事業報告書，2015.3

Kato Y.：Azumi Tsuge, Seishoku gijutsu: Funin chiryo¯to saisei iryo¯ wa shakai ni nani o motarasu ka (Reproductive Technology: What Is the Impact of Fertility Treatment and Regenerative Medicine on Society?) (Book review). East Asian Science, Technology and Society: An International Journal, 9，1-4，2014

有馬斉，加藤穣，他： 医療現場における異文化コミュニケーションの問題」（ワークショップの概要）．『医学哲学・医学倫理』日本医学哲学・倫理学会，32，71-75，2014

川島和代，石垣和子，林一美，鈴木祐恵，他 2 名：石川県訪問看護推進の方略探索に関する調査研究．地域ケア総合センター事業報告書，11，31-44，2015.3.

川島和代，浅見洋，吉田和枝，垣花渉，他 4 名： 平成 26 年度大学間連携共同教育推進事業ヒューマンヘルスケア人材育成プロジェクト．平成 26 年度大学間連携共同教育推進事業事業報告書（別冊），4-7，2015.3.

川端京子： 市民公開講座「がん体験者とその家族への支援」に参加して．平成 26 年度北陸高度がんプロチーム養成基盤形成プラン事業報告書，41，2015.3

川端京子： 第 29 回日本がん看護学会学術集会に参加して．平成 26 年度北陸高度がんプロチーム養成基盤形成プラン事業報告書，112，2015.3

武山雅志，曽根志穂，金谷雅代，石垣和子： 石川県における女性の視点を盛り込んだ防災への取組の現状と課題．平成 26 年度いしかわ女性基金調査研究事業報告書，2015.2

寺井梨恵子： 看護実践セミナー「リンパ浮腫ケアの症状マネージメントを学ぶ」を開催して．平成 26 年度北陸高度がんプロチーム形成プラン事業報告書，27-29，2015.3

西村真実子： パート 2 こんなときどうしたらいいの 0～5 歳ママへ「いらいらして子どもにあたってしまう」「ママ友とうまくやっていきたいけど…どうつきあったらいい」「パパに関わってもらう妙案を考えよう」．いしかわ子育て応援ブック（石川県健康福祉部少子化対策監室発行），21～23，2014

牧野智恵：「北陸がんプロチーム養成基盤形成プランの概要と本学におけるがん看護専門師養成の取り組み．平成 26 年度　北陸高度がんプロチーム養成基盤形成プラン事業報告，3-4，2015.3

牧野智恵： インテンシブコースについてー「インテンシブＡ」「地域がん看護師養成コース」「地域がん看護活性化コース」についてー．平成 26 年度　北陸高度がんプロチーム養成基盤形成プラン事業報告，8-10，2015.3

牧野智恵： おわりに. 平成 26 年度 北陸高度がんプロチーム養成基盤形成プラン事業報告, 85, 2015. 3

松本智里： 平成 26 年度 がん看護事例検討会に参加して. 平成 26 年度北陸高度がんプロチーム養成基盤形成プラン事業報告書, 13, 2015. 3

6.4 学会発表

浅見洋： ゼールゾルゲとスピリチュアルケアの間, 第 73 回日本宗教学会学術大会, 京都, 2014. 9

浅見洋： ドイツ語圏における魂のケア（Seelsorge）の展開とその現状, 第 21 回北陸宗教文化学会, 金沢, 2014. 10

浅見洋： 欧州における「良い死」の多元性とその文化的・宗教的背景ワークショップ, 第 33 回医学哲学倫理学会, 東京, 2014. 11

浅見洋, 伊達聖伸, 福島智子： ホスピス・緩和ケアの世俗化と医療化 ―ドイツ、フランス、イタリアの場合, 科研「世俗化する欧州社会における看取りの思想的な拠り所の究明」公開シンポジウム, 東京, 2015. 3

大永慶子, 橋直美, 浅見洋： 精神病院で最期を迎える精神疾病患者への看取りケアについて, 第 45 回日本看護学会―精神看護―学術集会, 長野, 2014. 10, 第 45 回日本看護学会―精神看護―学術集会抄録集, 92, 2014

阿部智恵子, 若林芳樹： 石川県かほく市における子育て支援センターの利用実態と課題, 2014 年日本地理学会春季学術大会, 東京, 2014. 3, 日本地理学会発表要旨集, No. 85, 242, 2014

阿部智恵子, 若林芳樹： 市町村合併にともなう保育サービスの変化―石川県かほく市を事例に―, 2014 年日本地理学会秋季学術大会, 富山, 2014. 9, 日本地理学会発表要旨集, No. 86, 97, 2014

阿部智恵子, 若林芳樹： 市町村合併にともなう保育サービスの変化―石川県の事例―, 日本都市学会第６１回大会, 京都, 2014. 10, 日本都市学会第 61 回大会報告要旨集, 22, 2014

伊藤隆子, 雨宮有子, 辻村真由子, 島村敦子, 亀井緑, 吉田千文, 石垣和子： ケアマネジャーの経験するモラルディストレス, 千葉看護学会第20回学術集会, 千葉, 2014. 9

野口美和子, 大湾明美, 石垣和子, 山崎不二子, 北村久美子, 春山早苗： 島しょ看護学の教育内容の体系化, 日本ルーラルナーシング学会第9回学術集会, 盛岡, 2014. 10, 日本ルーラルナーシング学会第9回学術集会抄録集, 2014

井上智可, 林一美： A県における訪問看護ステーションの精神科訪問看護に関する実態調査, 第 19 回日本在宅ケア学会学術集会, 福岡, 2014. 11, 第 19 回日本在宅ケア学会学術集会講演集, 159, 2014

岩城直子, 牧野智恵, 小竹佳津子, 江川真紀子, 酒井裕美： 放射線療法中のがん患者への PIL テストを用いた看護介入の効果の検討, 第 29 回日本がん看護学会学術集会, 横浜, 2014. 2, 第 29 回日本がん看護学会学術集会講演集, 19, 131, 2015

大木秀一，彦聖美： 妊娠の方法別にみた多胎出生の動向（1977-2012年）および単一胚移植の効果， 第73回日本公衆衛生学会， 宇都宮， 2014.11， 日本公衆衛生学会誌，第73回日本公衆衛生学会総会抄録集， 61(10)， 399， 2014

大木秀一： 双子研究最近の話題から　全国データを基にした多胎家庭における虐待死事例の特徴，第73回日本公衆衛生学会自由集会　第23回多胎児を産み育てる家庭への保健サービスのあり方を考える集会， 宇都宮， 2014.11

大木秀一，山岸和美，青木三枝子，他5名： 多胎家庭における虐待防止に向けたプログラムの作成と普及・啓発実践活動， 第42回北陸公衆衛生学会， 福井， 2014.11， 北陸公衆衛生学会誌，41， 36， 2014

Ooki S. ： Fatal child maltreatment associated with multiple births in Japan: Nationwide data between July 2003 and March 2012， The 15th Congress of the International Society Twin Studies (ISTS) and The 3nd World Congress on Twin Pregnancy， Budapest, Hungary， 2014.11， Twin Research and Human Genetics， 17(5)， 469， 2014

垣花渉： コミュニティ形成をとおした「健康長寿のむら」づくり， 地域活性学会第６回研究大会， 網走， 2014.7，1-4， 2014

Kato Y.: Ethical, legal and social implications (ELSI) of the use of communication robots in care settings, The 15th Asian Bioethics Conference (ABC 15)， Kumamoto， 2014.11.7， The Book of Abstracts -The 15th Asian Bioethics Conference (ABC 15), 75，2014

大北全俊，遠矢和希，加藤穣，他： 倫理/ethicsに求められてきたものー海外でのHIV/AIDSに関する倫理的議論の歴史的調査より，第 28 回日本エイズ学会学術集会・総会，大阪，2014.12.5， 第 28 回日本エイズ学会学術集会・総会抄録集，16(4)，586(378)，2014

Agawa K., Kaneko N., Ishigaki K.: Beliefs of home visiting nurses who care for mothers of children with high medical dependency. 35th International Association for Human Caring Conference, Kyoto, 2014.5, 35th International Association for Human Caring onference Program Book， 65，2014

卜部文乃，川島和代，森岡港，木森佳子： 高齢者の筋力低下に着目した転倒アセスメントスコアと転倒予防対策の実際， 日本看護技術学会第 13 回学術集会，京都，2014.11，日本看護技術学会第 13 回学術集会講演抄録集， 77，2014

川島和代： 看護実践力を育む！事例検討を素材にした看護研究を通して（シンポジスト），日本看護研究学会第 28 回近畿・北陸地方会， 金沢， 2015.3，日本看護研究学会第 28 回近畿・北陸地方会（抄録修），17，2015

川端京子： 看護師の実践知に関する研究ー看護師のライフヒストリーからの考察， 日本看護学教育学会第 24 回学術集会，千葉，2014.8，日本看護学教育学会第 24 回学術集会講演集，24，135，2014

Kimori K.: Development of peripheral intravenous visualization device for safety and correctly venipuncture support， Proceedings of Life Engineering Symposium 2014， 金沢， 2014.9， ライフエンジニアリング部門シンポジウム2014　論文集，5， 2014

木森佳子，須釜淳子，浦美奈子，細川久美子：入院高齢者の目視困難な末梢静脈の血管径、深さ、皮膚色、及び動脈の深さ， 第2回看護理工学会学術集会，大阪，2014.10，第2回看護理工学会学術集会概要集，63，2014

小林宏光：生理特性のバリエーションの構造（シンポジウム：生体機能のバリエーション），日本生理人類学会 70 回大会，福岡，2014.10，日本生理人類学会誌，19(2)，42-43，2014

曽根志穂，石垣和子：看護学生が被災地学生ボランティア活動で感じたことー学年と活動経験に焦点を当ててー，第73回日本公衆衛生学会，栃木，2014.11，日本公衛誌，第73回日本公衆衛生学会総会抄録集，61(10)，549，2014

Soyama S., Yoneda M., Yoshida K：Interaction between medical workers and pregnant women in prenatal checkup，ICM 30th Triennial congress，Prague，2014.6，ICM 30th Triennial congress abstract book on CD，683，2014

久保田真美，加藤泰子，高山成子，久米真代，小河育恵：在宅療養生活を送るがん終末期の認知症高齢者を支える家族介護者の体験，第 19 回日本老年看護学会，名古屋，2014.6，日本老年看護学会、第 19 回日本老年看護学抄録集，2014

Okamoto Y., Hong C., Yoshioka K., Takuwa N., Shibamoto T., Takuwa Y.：Sphingosine-1-phosphate receptor-2 (S1P2) negatively regulates eNOS and protects against acute vascular barrier disruption. The 18th International Vascular Biology Meeting 2014，Kyoto，2014.4，Proceedings of the 18th International Vascular Biology Meeting 2014 (IVBM2014)，18，34，2014

Takuwa Y., Okamoto Y., Yoshioka K., Takuwa N.：Distinct role of S1P2 in the functional regulation of vascular endothelium and smooth muscle.（Invitation lecture），The 18th International Vascular Biology Meeting 2014，kyoto，2014.4，Proceedings of the 18th International Vascular Biology Meeting 2014 (IVBM2014)，18，11，2014.4

安藝翔，吉岡和晃，岡本安雄，多久和典子，多久和 陽：クラスIIα型PI3K-C2αはALK5 内在化及び足場タンパクSARA のエンドソームへの動員を制御しTGF 1-Smad2/3 を介した血管新生を調節する，第56回 日本脂質生化学会，大阪，2014.6，第56回日本脂質成化学会講演要旨集，56，84-85，2014

安藝翔，吉岡和晃，多久和典子，岡本安雄，多久和陽：クラスII 型PI3 キナーゼ-C2α による TGFβ 血管内皮作用の調節機構，第61回中部日本生理学会，名古屋，2014.11，第61回中部日本生理学会抄録集，61，22，2014

Okamoto Y., Cui H., Yoshioka K., Takuwa N., Aki S., Zhao J-J., Pham HQ., Azadul KS, Koizumi S., Takuwa Y.：Sphingosine 1-phosphate receptor-2 plays a protective role against lipopolysaccharide (LPS)-induced acute lung injury，第92回日本生理学会大会，Kobe，2015.3，Journal of Physiological Sciences，65 Suppl.1，S307，2015

竹村美和，川合香苗：回復期リハビリテーション病棟における薬剤耐性菌の検出状況と手指衛生実施状況，第 3 回日本感染管理ネットワーク学術集会，名古屋，2014.5，第 3 回日本感染管理ネットワーク学術集会抄録集，2014

武山雅志，小林千恵美，宮本礼子，他 2 名：MMPI を臨床で活用するためにーグループプロフィール化の試みー，日本心理臨床学会第 33 回大会，横浜，2014.8，日本心理臨床学会第 33 回大会発表論文集，632，2014

谷本千恵，石井了恵，坂上章，角田雅彦，Noel J.Chrisman：過疎地域の精神障がい者の地域生活支援の現状と課題ー保健医療福祉専門職へのインタビュー調査よりー，日本ルーラルナーシング学会第 9 回学術集会，岩手，2014.10，日本ルーラルナーシング学会第 9 回学術集会抄録集，29，2014

Tanimoto C., Yayama S., Endo Y., Makimoto K, Noel J. Chrisman： Suicide in psychiatric hospital in-patients. A review of the literature, The 18th EAFONS (East Asian Forum of Nursing Scholars), Taipei, 2015. 2, The 18th EAFONS (East Asian Forum of Nursing Scholars)poster abstract book, 542, 2015

矢山壮、谷本千恵、梶原友美、他７名： 精神科病院のインシデントレポートにみられた患者によるスタッフへの暴力と患者への暴力の比較，第 34 回日本看護科学学会，名古屋，2014. 11，第 34 回日本看護科学学会抄録集，497，2014

Yayama S.,Tanimoto C.,Kajiwara T., Matoba K., Shunji S.,Inoue M., Endo Y.,Yamakawa M., Makimoto K.： Analysis of pica behavior incident reports in a Japanese psychiatric hospital, The 18th EAFONS (East Asian Forum of Nursing Scholars), Taipei, 2015. 2, The 18th EAFONS (East Asian Forum of Nursing Scholars)poster abstract book, 536, 2015

寺井梨恵子，丸岡直子，林静子： 転倒リスク場面における視覚情報の取り込みの特徴ー新人看護師と熟練看護師の比較ー，第 34 回日本看護科学学会学術集会，名古屋，2014. 11，第 34 回日本看護科学学会学術集会講演集，326，2014

畠野智江，中嶋知世，川島和代： 男性高齢者のサロン参加を促進する要因に関する研究， 第 21 回日本未病システム学会，大阪，2014. 11，第 21 回日本未病システム学会学術総会抄録集，145，2014

Nakata T., Matsui T., Kobayashi K., Kobayashi Y., Anzai N.： Organic Cation Transporter 2 (SLC22A2), A low-affinity and high-capacity choline transporter, is preferentially enriched on synaptic vesicles in cholinergic neurons., The 37th Annual Meeting of the Japan Neuroscience Society, Yokohama, 2014. 9

Hongo Y., Matsui T., Nakata T., Furukawa T., Ono T., Kaida K., Miyahira Y., Kobayashi Y.： Morphological analysis of spinal cholinergic interneuron, partition cells., The 37th Annual Meeting of the Japan Neuroscience Society, Yokomana, 2014. 9

松井利康，中田隆博，安西尚彦，小林　靖： マウス脳における有機カチオントランスポーターOCT2の局在解析，第157回日本獣医学会学術集会，札幌，2014. 9

横山智子，中田弘子： 微酸性電解水を用いた清拭の衛生効果， 看護実践学会， 石川， 2014. 9, 第8回看護実践学会学術学会，8，28-29，2014

成田みぎわ，西村真実子： 乳幼児ふれあい体験型プログラム「赤ちゃん登校日」授業に参加協力する母親へのエンパワーメント効果の検討(第3報)－不適切対応リスクを抱える母親を中心に―， 第24回日本精神保健看護学会学術集会， 横浜， 2014. 6. 21~6. 22， 第24回日本精神保健看護学会学術集会抄録集，2014

Neyoshi C., Tamura S.： The types of tailored support public health nurses can provide to the parents of children with autism spectrum disorder, depending on the levels of parental acceptance of that disorder , The 35th International Association for Human Caring Conference , Kyoto, 2014, International Journal for Human Caring, 18(3), 2014

Hasegawa N.,Kawasaki Y., Demura H., Mochizuki M., Anzai M.： Effect of rice-shaped food (Mannan Hikari) on prevention and improvement of metabolic syndromes in the Noto district of Ishikawa prefecture in Japan. International Conference on food for health in Niigata, Niigata, 2014.10

望月美也子，長谷川昇，垣花渉，中田隆博： 健康支援クラウドサービスを用いた生活習慣病予備軍の体脂肪減少効果の検討， 日本薬学会第 135 年会， 神戸， 2015.3

林一美，井上智可： 在宅終末期高齢者の主介護者に関わるケアマネージャのケアマネジメントの判断の特徴， 第19回日本在宅ケア学会学術集会， 東京， 2014.11， 第19回日本在宅ケア学会学術集会講演集，171，2014

林一美：在宅終末期要介護者の看取り介護を行う家族に対するケアマネージャの介護者支援，第4回日本在宅看護学会学術集会，東京，2014.11， 日本在宅看護学会学術集会プログラム･抄録集，Vol.3,No.1，84，2014

林一美： 在宅で認知症配偶者介護を行う後期高齢男性の介護継続の特徴， 第45回日本看護学会－在宅看護－学術集会， 山形， 2014.10， 第45回日本看護学会－在宅看護－学術集会抄録集，106，2014

本庄幸代，林一美： 在宅における「新たんの吸引法」に関する援助ーカニューレ内部吸引チューブ閉塞の改善に向けての看護実践ー， 第 45 回日本看護学会－在宅看護－学術集会，山形，2014.10，第 45 回日本看護学会－在宅看護－学術集会抄録集，180，2014

彦聖美，大木秀一： 北陸3県における高齢期の妻や親を介護する男性介護者の介護状況， 第73回日本公衆衛生学会， 栃木， 2014.11， 日本公衛誌、第73回日本公衆衛生学会総会抄録集，61(10)，475，2014

彦聖美，鈴木祐恵，宮下陽江： 「食」に対する支援を通した男性介護者と地域住民との交流の促進， 第19回日本在宅ケア学会学術集会，福岡，2014.11，第19回日本在宅ケア学会学術集会講演集，73，2014

Makino T., Matsumoto Y.: The effect of support for breast cancer of patient and children by using "support book", 18th International Conference on Cancer Nursing, Panama, 2014.9

松本智里，正源寺美穂，泉キヨ子，高田大輔，平松知子： 一急性期病院の転倒報告からみた複数回転倒の転倒状況と薬剤使用状況， 日本老年看護学会第19回学術集会， 名古屋， 2014.6， 日本老年看護学会第19回学術集会抄録集，174，2014

松本智里，正源寺美穂，平松知子，高田大輔，泉キヨ子： A県の緩和ケア病棟における転倒－２つの病院を比較してー，第34回日本看護科学学会学術集会，名古屋，2014.11， 第34回日本看護科学学会学術集会講演集，602，2014

Shogenji M., Matsumoto C., Izumi K., Takada D., Hiramatsu T.: Identifying Fall Risks by Comparing Day and Night, Incontinence, and Sleep Problems, 35th International Association for Human Caring Conference, Kyoto, 2014.5, 35th International Association for Human Caring onference Program Book，47，2014

正源寺美穂，北村和子，山口比登美，湯野智香子，松本智里、他3名： 高齢患者の転倒リスク軽減にむけた夜間の排泄と睡眠状態の解析（第1報）夜間頻尿のため転倒リスクのある高齢患者1事例への試み，第27回日本老年泌尿器科学会，山形，2014.6，第27回日本老年泌尿器科学会抄録集，116，2014

正源寺美穂，松本智里，泉キヨ子，高田大輔，平松知子： 一般病棟、回復期リハビリテーション病棟、緩和ケア病棟における転倒状況と転倒者の排泄状況，第34回日本看護科学学会学術集会，名古屋， 2014.11， 第34回日本看護科学学会学術集会講演集，601， 2014

正源寺美穂，松本智里，泉キヨ子，高田大輔，平松知子： 回復期リハビリテーション病棟におけ

る転倒状況と転倒者の排泄状況－異なる2つの病院を比較して－，　一般社団法人日本看護研究学会　第28回近畿・北陸地方会学術集会， 石川， 2015.3， 一般社団法人日本看護研究学会　第28回近畿・北陸地方会学術集会 抄録集，26，　2015

丸岡直子，田村幸恵，橘幸子，他4名： パートナーシップ・ナーシング・システム（PNS）導入・定着の促進要因と課題，第18回日本看護管理学会学術集会，松山，2014.8，第18回日本看護管理学会学術集会抄録集，275，2014

越中のり子，丸岡直子： 看護実践において看護師が求める看護師長の役割，第18回日本看護管理学会学術集会，松山，2014.8，第18回日本看護管理学会学術集会抄録集，282，2014

藤田恵子，丸岡直子： 中堅看護師の看護実践の向上に繋がる自己学習の仕組み，第18回日本看護管理学会学術集会， 松山， 2014.8， 第18回日本看護管理学会学術集会抄録集，283，2014

澤味小百合，丸岡直子，林静子： 新人看護師の看護師としてやっていけそうという感覚，日本看護学教育学会誌， 千葉，2014.8，日本看護学教育学会第24回学術集会，24，222，2014

表井直美,松田一美,村井嘉子: 高次脳機能障害患者の家族が患者を受け止めるまでのプロセス, 第41回日本脳神経看護研究学会， 東京， 2014， 第41回日本脳神経看護研究学会,37(1)， 52, 2014

斉藤みゆき，川岸良子，鈴木紀子，山内朱美，村井嘉子： 手術室器械出し看護師の看護実践の特徴－人工膝関節置換術を通して－，第45回看護学会学術集会　急性期看護， 神戸， 2014.10, 第45回看護学会学術集会抄録集　急性期看護，411， 2014

森田聖子，中道淳子： 認知症をもつ高齢糖尿病患者のセルフケアの認識に関する研究， 日本看護研究学会　第28回近畿・北陸地方会学術集会，金沢，2015.3，日本看護研究学会第28回近畿・北陸地方会学術集会抄録集，22，2015

中村美穂，落合庸子，久米真代，森田聖子，川端祥子，小林宏光，高山成子： 認知症高齢者の大腿骨転子部骨折術後移動時の強度疼痛の評価における唾液アミラーゼ活性値測定法の有効性の検討，第 19 回日本老年看護学会，名古屋，2014.6，日本老年看護学会　第 19 回日本老年看護学抄録集，2014

磯光江，森田聖子，久米真代，高山成子： 血液透析を受ける認知症高齢者に対する看護経験，第 17 回日本腎不全看護学会学術集会・総会， 千葉，2014.11，第 17 回日本腎不全看護学会学術集会抄録集，2014

Yoshida K.， Yoneda M.， Soyama S. ： KazueY.,： The current and future challenges of post-dischage grief support in Japanese Obstetrics Departments and NICUs for mothers and families following perinatal death， ICM 30th Triennial congress June 2014 In Prague， Prague， 2014.6， ICM 30th Triennial congress Abstract Book on CD ， 695， 2014

吉田和枝： 未婚男女の妊娠･出産に関する意識調査，第 29 回日本助産学会，東京，2015.3，第 29 回日本助産学会学術集会抄録集，2015

高畠周，吉田和枝： 配偶者間におけるドメスティック・バイオレンスについての文献検討－妊娠期に焦点をあてて－，第 29 回日本助産学会，東京，2015.3，第 29 回日本助産学会学術集会抄録集，2015

Yoneda, M. ， Yoshida, K. ， Simada K. ： The current and future challenges of post-discharge grief support in Japanese health centers for mothers and families following perinatal death， ICM 30th

Triennial Congress，Prague，2014.6，ICM 30th Triennial Congress Abstract Book on CD， 656，2014

紺谷実生，米田昌代： 出生前診断受検の意思決定を支える医療者の関わりに関する文献的考察， 一般社団法人日本助産学会第 4 回(第 29 回)学術集会，東京，2015.3，日本助産学会誌（一般社団法人日本助産学会第 4 回(第 29 回)学術集会集録），28(3)， 509， 2015

6.5 社会活動・地域貢献

浅見洋： 平成26年度 感染管理看護師認定教育課程 「生命倫理学」 講師． 看護キャリア支援センター， 石川県立看護大学， 2014.10

浅見洋：介護老人保健施設有緑の荘 創立20周年記念式典 記念講演会「地域で看取るために」．医療法人社団同朋会， 能登ロイヤルホテル， 2014.4

浅見洋： 石川県民大学 西田幾多郎講座 「女性哲学者の初穂・高橋ふみ－知識的に磨かれること－」． 石川県西田幾多郎記念哲学館， 石川県西田幾多郎記念哲学館， 2014.4

浅見洋： DeJaK-友の会講演会「終の棲家を選ぶ時代」． DeJaK-友の会， Nachbarschaftshaus am Lietzensee（ベルリン），2014.8

浅見洋： 平成26年度第108期 金沢市高砂大学校 「鈴木大拙と西田幾多郎」講座 「第1回：鈴木大拙とは誰か」9.16 「第2回：参禅への道」9.17 「第3回：悲しみから人生の教えを学ぶ」9.19． 金沢市高砂大学校， 金沢中央公民館彦三館， 2014.9

浅見洋： 平成26年度石川県看護協会研修「看護職における倫理」講師． 石川県看護協会， 石川県地場産業振興センター， 2014.9

浅見洋： 石川県民大学 西田幾多郎講座 「西田幾多郎の生涯－晩年の思索と内憂外患－」． 石川県西田幾多郎記念哲学館， 石川県西田幾多郎記念哲学館， 2014.10

浅見洋： 北國新聞文化センター 金沢検定講座（中級）講師「偉人と教育」． 北國新聞文化センター， 北國新聞文化センター， 2014.10

浅見洋： 金沢星稜大学 基礎ゼミナール講師「西田幾多郎の生涯－生い立ちと少青年時代－」．金沢星稜大学， 金沢星稜大学， 2014.10

浅見洋： 公立松任石川中央病院職員研修会 講師「倫理原則の臨床現場での使い方」． 公立松任中央病院， 公立松任中央病院， 2014.11

浅見洋： 神戸学院大学社会人キャリアアップ講座「現代における看取りの現状－日本とドイツにおける調査より－」． 神戸学院大学有瀬キャンパス， 神戸学院大学有瀬キャンパス， 2014.12

浅見洋： 野々市寿大学 「生死を見つめる心－西田幾多郎の生き方を通して」． 野々市市中央公民館， 野々市市中央公民館， 2014.12

浅見洋： 神戸学院大学社会人キャリアアップ講座「看取りにおける宗教者の役割を考える－ビハーラ実践を手がかりに－」． 神戸学院大学有瀬キャンパス， 神戸学院大学有瀬キャンパス，2015.1

浅見洋： 医療安全研修会「医療安全と感染対策における倫理について」． 石川県立中央病院，2015.2

浅見洋： 西田哲学会 理事

浅見洋： 日本宗教学会 理事 学会賞選考委員

浅見洋： 比較思想学会　評議員　北陸支部会長
浅見洋： 北陸宗教文化学会　会長　編集委員
浅見洋： 日本医学哲学・倫理学会　運営委員
浅見洋： 石川県西田幾多郎記念哲学館　運営委員（会長）
浅見洋： かほく市総合計画審議会委員
浅見洋： 公益信託能登町エンデェバーファンド21　運営委員
浅見洋： 西田幾多郎博士頌徳会　理事
浅見洋： 北國新聞主催「新聞を読んで感想文コンクール」審査員
浅見洋： ライプツィヒ大学東アジア研究所日本学客員教授　ライプツィヒ大学　2014.6～9
浅見美千江： NPOいしかわ在宅支援ねっと　理事
阿部智恵子： ＪＩＣＡ　日系研修パラグアイ・高齢者福祉におけるケアシステムと人材育成. 石川県立看護大学・羽咋市社会福祉協議会， 県立看護大学地域ケア研修室， 2014.8
石垣和子： The Universality of Human Caring from a Trans-Cultural Perspective （Keynote Speech）. 第35回国際ヒューマンケアリング学会，京都国際会館，2014.5.25
石垣和子、原田菜穂子、岩崎弥生： Human caring in Disaster Nursing (Three-Way Discussion). 第35回国際ヒューマンケアリング学会，京都国際会館，2014.5.24
石垣和子： 石川県医療審議会　委員
石垣和子： 石川県医療計画推進委員
石垣和子： 大学コンソーシアム石川　理事
石垣和子： 石川県ユニセフ協会　評議員
石垣和子： NPO法人　地域保健研究会　理事
石垣和子： NPO法人　いしかわ在宅支援ねっと　理事
石垣和子： かほく市介護保険運営協議会　委員
石垣和子： 沖縄県立看護大学　外部評価委員
石垣和子： 日本家族看護学会　理事長
石垣和子： 日本ルーラルナーシング学会　副理事長
石垣和子： 日本老年看護学会　監事
石垣和子： 日本在宅ケア学会　評議員
石垣和子： 文化看護学会　理事
石垣和子： 日本地域看護学会　評議員
石垣和子： 第6回文化看護学会学術集　会長
石垣和子： アジアの高齢化と看護･介護　Aging Asia and Sanitation，ワンアジア財団提供講義での招聘講義，ダルマプルサダ大学，ジャカルタ　インドネシア
石垣和子： 岩手県立大学看護学部活動評価，岩手県立大学
石川倫子： 広島県専任教員継続研修講師（看護学教育評価）． 公益社団法人　広島県看護協会，広島県看護協会会館， 2014.7
石川倫子： 看護教員看護教育学研修講師（看護学教育評価）． 愛知県，愛知県看護研修センター， 2014.7～8
石川倫子： 熟達教員ブラッシュアップ研修講師（看護学教育評価）． 公益社団法人　東京都看護協会， 東京都ナースプラザ， 2014.8

石川倫子： 教務主任養成講習会講師（看護学教育評価）． 公益社団法人　東京慈恵会， 東京慈恵医科大学， 2014.9～11

石川倫子： 看護教員研修講師（学校経営）　． 独立行政法人　国立病院機構　中国・四国グループ， 独立行政法人　国立病院機構　中国・四国グループ， 2014.12

石川倫子： 静岡県専任教員養成講習会講師（看護学教育評価）． 公益社団法人　静岡県看護協会， 常葉大学， 2014.12

石川倫子： 国立病院附属看護学校副学校長・教育主事協議会特別講義講師「パフォーマンス評価におけるルーブリック」． 国立病院附属看護学校副学校長・教育主事協議会， 独立行政法人国立病院機構九州医療センター附属福岡看護助産学校， 2015.3

石川倫子： 日本看護学校協議会東海北陸ブロック研修会講師「パフォーマンス評価の実際」． 日本看護学校協議会東海北陸ブロック， 金沢医療技術専門学校， 2015.3

井上智可： JICA日系研修事業． 地域ケア総合センター，石川県立看護大学，2014.7

今井美和： 「がんを知ろう」、スーパーサイエンスハイスクール． 七尾高等学校SSH推進室， 石川県立七尾高等学校， 2014.6

今井美和： 「石川県内女子大学生の子宮頸がん予防に関する知識と意識」子宮頸がん予防のための市民公開シンポジウム． 日本臨床細胞学会石川県支部主催／石川県後援， 金沢大学附属病院4階「宝ホール」，2014.9

今井美和： 日本病理学会学術評議員

岩城直子： 日本がん看護学会　代議員

岩城直子： 日本がん看護学会　査読委員

大江真吾： 看護研究指導．石川県立高松病院，2014.7～2015.1

大木秀一： ピアサポーター養成講座「多胎の基礎知識」講師． NPO 法人いしかわ多胎ネット， 金沢市教育プラザ富樫， 2014.5

大木秀一： ピアサポーター養成講座「多胎の基礎知識」講師． NPO 法人いしかわ多胎ネット， 石川県庁， 2014.7

大木秀一： コーディネーター養成講座　多胎支援研修会「多胎家庭でなぜ虐待が起こるのか」講師． NPO 法人ぎふ多胎ネット， ハートフルスクエア G， 2014.8

大木秀一： 金沢大学公衆衛生学研究会「双生児研究の可能性」講師． 金沢大学公衆衛生学研究会， 金沢大学， 2014.10

大木秀一： 「看護研究（量的研究）」講師．吉林大学看護学院，吉林大学看護学院（長春市），2014.10

大木秀一： 日本公衆衛生学会　査読委員

大木秀一： 日本小児保健学会　査読委員

大木秀一： 日本民族衛生学会　査読委員・評議員

大木秀一： 日本双生児研究学会　幹事

大木秀一： The Journal of Obstetrics and Gynaecology Research, Reviewer

大木秀一： Journal of Epidemiology, Reviewer

大木秀一： 日本衛生学会　双生児医学連携研究会　世話人

大木秀一： NPO 法人　日本多胎支援協会　理事

大木秀一： NPO 法人　いしかわ多胎ネット　副理事

大木秀一： 東京大学教育学部附属中等教育学校　双生児特別検査委員
大木秀一： 石川県公害審査会委員
大木秀一： 「小児看護学方法論Ⅱ（小児疾患）」講義． 金沢医療技術専門学校， 2014.5
大木秀一： 「公衆衛生学」講義． 東邦大学， 2014.6
大西陽子： 第３回日本放射線看護学会学術集会企画・実行委員
織田初江： 石川県の新任保健師研修会講師．石川県，看護大，2014.1
織田初江： 富山県の新任保健師研修会講師．富山県，農協会館，2014.9
織田初江： 富山県のキャリアアップ支援研修会講師．富山県，農協会館，2014.1～2014.12
織田初江： 宝達志水町介護認定審査委員
織田初江： 加賀市健康福祉審議会健康分科会委員
織田初江： 津幡町健康づくり推進協議会委員
織田初江： かほく市地域包括支援センター運営協議会委員
織田初江： かほく市健康づくり推進協議会委員
垣花渉： H26年度第1回石川県食品技術研究者ネットワークオープンセミナー 講師． 石川県食品技術研究者ネットワーク， 石川県立看護大学， 2014.5
垣花渉： シティーカレッジ授業「石川の市町のうち、かほく市・七尾市」 授業コーディネーター． 大学コンソーシアム石川， 石川県政記念しいのき迎賓館， 2014.5
垣花渉： 石川県地域スポーツ指導者養成講習会「中高齢者の体力とスポーツ指導」 講師． 石川県教育委員会スポーツ健康課， いしかわ総合スポーツセンター， 2014.6
垣花渉： 津幡町中条地区認知症安心ネットワーク推進委員会「高齢者の健康づくり」 講師． 津幡町地域包括支援センター， 津幡町条南コミュニティプラザ， 2014.7,10,12
垣花渉： ５年生保健体育　講師． 白山市立北陽小学校， 白山市立北陽小学校， 2014.9
垣花渉： 平成26年度地域ケア総合センター事業「棚田が織りなす食・緑・健康の郷づくり」
垣花渉： 平成26年度地域ケア総合センター事業「いきいき美人大学校」
垣花渉： 日本体力医学会　学会評議員
垣花渉： 石川県大学健康教育研究会　委員
垣花渉： NPO法人クラブパレット　アドバイザー
垣花渉： 石川県広域スポーツ支援センター「クラブネットいしかわ」運営委員会　委員
垣花渉： かほく市観光物産協会　理事
垣花渉： 羽咋市国民健康保険運営協議会　委員
加藤穣： 釧路国際生命倫理サマースクール　講師．釧路市観光国際交流センター，2014.8.14
Kato Y.： Global Public Helath　査読担当
加藤譲： 生命倫理学入門（リレー講義）．岡山大学教養科目，2014.7.10
加藤穣： 生命科学と倫理（J）． 立命館大学法学部， 2014.9.26-2015.3.31
加藤穣： 生命科学と倫理（L）． 立命館大学文学部， 2014.9.26-2015.3.31
金谷雅代： 「特別支援学校で医療的ケアを受ける子どもたちの医療的理解」講師． 石川県立いしかわ特別支援学校，2014.8
金谷雅代： 道徳公開授業におけるゲストティーチャー．かほく市立外日角小学校， 2014.10
金谷雅代： 家庭教育講演会「子どもの生活習慣～子どもたちの生活をどのように支え、見守るか～」． かほく市教育委員会生涯学習課， かほく市七塚生涯学習センター， 2014.11

金谷雅代： 医療的ケアに関する研修の講師と医療的ケア実践場面の観察・助言．石川県立錦城特別支援学校， 2015.1

金谷雅代： 「小児保健コンサルテーション」講義．石川県立保育専門学園， 2014.4～7

金谷雅代： 看護研究指導・講評．浅ノ川総合病院， 2014． 5.17、7.26、9.6、11.15

川島和代： 石川県における喀痰吸引等研修事業共通科目「人間と社会」講師．石川県社会福祉協議会 福祉総合研修センター，石川県地場産業センター，2014.5

川島和代： 穴水医療塾「高齢者（認知症高齢者）の在宅看護 ～ナイチンゲールからの学び～」講師．公立穴水総合病院，キャッスル真名井，2014.7

川島和代： 石川県における喀痰吸引等研修事業共通科目「人間と社会」講師．石川県社会福祉協議会 福祉総合研修センター，石川県地場産業センター，2014.9

川島和代： 石川県介護福祉士会 ファーストステップ「介護職員の健康・ストレスの管理」講師．石川県介護福祉士会，石川県社会福祉協議会 福祉総合センター 別館，2014.12

川島和代： 石川県社会福祉協議会 認知症高齢者施設開設者研修「認知症の基本的理解とケアのあり方」講師． 石川県社会福祉協議会 福祉総合研修センター，石川県社会福祉協議会 福祉総合センター 別館，2015.1

川島和代： 福井県看護協会看護基礎教育協議会 研修「模擬患者（SP）を取り入れた学内演習の工夫」講師．福井県看護協会，福井県看護協会，2014.12

川島和代： 院内研修「ナイチンゲール看護論」講師． 愛知県春日井市民病院看護部，春日井市民病院，2014.4

川島和代： 院内研修「看護過程展開能力を高めるⅠ」講師．愛知県春日井市民病院看護部，春日井市民病院，2014.5

川島和代： 院内研修「看護過程展開能力を高めるⅡ」講師．愛知県春日井市民病院看護部，春日井市民病院，2014.7

川島和代： 院内研修「看護の質評価」講師．愛知県春日井市民病院看護部，春日井市民病院，2014.11

川島和代： 大学コンソーシアム石川 出張オープンキャンパス「看護に必要なスキル」 講師．大学コンソーシアム石川，石川県立西高等学校，2014.11

川島和代： 大学コンソーシアム石川 出張オープンキャンパス「看護に必要なスキル」 講師．大学コンソーシアム石川，富山県立呉羽高等学校，2014.11

川島和代： 大学間連携共同教育推進事業「学都いしかわ課題解決型グローカル人材育成市システムの構築」 地域連携委員

川島和代： 能登キャンパス構想推進協議会 幹事

川島和代： かほく市地域ケア推進会議 委員

川島和代： 津幡町認知症安心ネットワーク推進委員会 委員

川島和代： 内灘町認知症見守り訓練委員会 委員

川島和代： 看護科学研究学会 理事

川島和代： 看護実践学会 理事

川島和代： 老人看護研究会 理事

川島和代： 日本看護科学学会 評議員

川島和代： 日本看護未病システム学会 評議員

川島和代： 日本老年看護学会　評議員

川島和代： 日本看護研究学会近畿・北陸地方会世話人

川島和代： 看護実践学会　査読委員

川島和代： NPO トトロの家　理事

川島和代： NPO まちかど倶楽部たかまつ　理事

川島和代： 石川県介護支援専門員協会　河北支部　運営支援

川島和代: 石川県介護支援専門員協会　学術大会　研究講評．石川県介護支援専門員協会，石川県地場産業センター，2014.9

川端京子： 第 3 回日本放射線看護学会学術集会　企画・実行委員

川村みどり： 進学相談会．　メディアック，石川県立音楽堂，2014.5

川村みどり： かほく市介護認定審査会　委員

川村みどり： 看護研究指導・講評．　公立宇出津総合病院，公立宇出津総合病院，2014.6～2015.2

北山幸枝： 日本褥瘡学会　評議員

北山幸枝： 国際リンパ浮腫フレームワーク・ジャパン研究協議会　第 4 回学術集会　実行委員

木森佳子： 看護理工学会　査読委員

木森佳子： 看護研究指導・講評．公立能登総合病院，　2014.6.27、2015.2.7

小林宏光： 人間工学から見た看護デザイン．　石川県立看護大学，　石川県立看護大学，　2014.9

小林宏光： 夏季セミナー講演： 集団の特性と個体の特性．　日本生理人類学会，　関西セミナーハウス 修学院きらら山荘，　2014.9

小林宏光： Journal of Physiological Anthropology，編集委員

小林宏光： 日本生理人類学会 理事

小林宏光： International Journal of Biometeorology 査読担当

小林宏光： 日本生理人類学会誌　査読担当

小林宏光： Journal of Physiological Anthropology　査読担当

小林宏光： 「研究方法」講義．金沢医療技術専門学校，2014.8

清水暢子： 看護研究指導．石川県立高松病院，2014.7～2015.1

曽根志穂： かほく市介護認定審査会　委員

曽山小織： 北国健康生きがい支援事業　平成 26 年度第 1 回 石川県立看護大学プログラム 一人で悩まないで　子育て支援者とママのために　第 2 部体験セッション Nobody’s Perfect　完璧な親なんかいないプログラム ファシリテーター．　石川県立看護大学、北国新聞社，　北国新聞会館，　2014.10.3

曽山小織: 石川県立看護大学附属地域ケア総合センター　子育てドロップ･イン･サロン　NP 親育ち・子育ちを考える会　運営．　石川県立看護大学附属地域ケア総合センター，　聞善寺，　2014.11

曽山小織： 「統計学」講義．高岡市立看護専門学校，　2014.4-2014.9

曽山小織： 看護研究指導・講評．珠洲市総合病院，　2014.6.28、10.18、2015.3.14

高山成子: 講義　兵庫県看護協会認定看護師（認知症看護）援助方法論Ⅲケアマネジメント、認知症看護と倫理．　兵庫県看護協会，　兵庫県看護協会研修室，　2014.8

高山成子：講義　日本看護協会認定看護師(認知症看護)(援助方法論Ⅲケアマネジメント)．日本看護協会，　清瀬看護研修センター，　2014.7

高山成子：講義「認知症 BPSD に対する看護について」．　高松病院，　高松病院，　2014.1

高山成子：「認知症高齢者の入浴困難・徘徊・収集行動に対する援助法を学ぶ」講義．　福井県介護教育研修，　福井県健やかシルバー病院，　2014.7-8

高山成子：かほく市民大学校女性教養コース「女性ホルモンと骨粗鬆症(silent desease)」．かほく市，　七塚障害学習センター２階，　2014.7

高山成子：日本看護研究学会 評議員　編集委員

高山成子：日本看護科学学会　査読委員

高山成子：石川県後期高齢者医療懇話会　副座長

高山成子：日本老年看護学会　評議員　査読委員

高山成子：島根大学「高齢者システム在宅論」講義．　島根大学 2014.11

多久和典子：福島県立医科大学　医学研究セミナー　講師　「スフィンゴシン-１-リン酸(S1P)情報伝達系の病態における役割」．福島県立医科大学，福島県立医科大学，2014.4

多久和典子：日本生理学会　副理事長、編集・広報委員長、日本生理学雑誌編集長

多久和典子：日本生化学会北陸支部会　幹事

竹村美和：感染管理ベストプラクティス研究会　アドバイザー．　感染管理ベストプラクティス研究会，　京都，　2014.9，2015.1

竹村美和：日本環境感染学会　評議員

武山雅志：白山市保育士研修１講師　保護者の話の聴き方．　白山市社会福祉協議会，　白山市ふれあい福祉センター，　2014.5

武山雅志：お話し相手ボランティア養成講座講師、お話を聴くことの基本について．　かほく市社会福祉協議会，　かほく市七塚健康福祉センター，　2014.9

武山雅志：石川県警察学校専科講師、犯罪被害者への相談のあり方．　石川県警察本部，石川県警察学校，　2014.10

武山雅志：心の教室相談員研修会講師、子どもの心の問題と学校．かほく市教育センター，宇ノ気生涯学習センター，　2014.10

武山雅志：傾聴ボランティア講座講師、お話を聴くことの基本について．　穴水町社会福祉協議会，　穴水町保健センター，　2014.10

武山雅志：石川県看護協会認定看護管理者セカンドレベル研修講師、人的資源活用論　ーストレスマネジメント・タイムマネジメントー．　石川県看護協会，　石川県看護協会研修センター，　2014.11

武山雅志：フォーラム「若者が考える災害に強い地域社会とは」講師．　北陸学院大学，　北陸学院大学国際交流研修センター，　2014.11

武山雅志：「女性なんでも相談室」相談員研修会講師、性犯罪被害者の相談を受ける．　石川県女性センター，　石川県女性センター，　2015.1

武山雅志：輪島市推進員総合育成講座講師、傾聴するということ．　輪島市，　門前保健センター，　2015.1

武山雅志：石川県精神保健福祉協会　理事

武山雅志：石川県精神保健福祉協会　会報編集委員

武山雅志： 石川県臨床心理士会　会長

武山雅志： （財）いしかわ女性基金　運営委員

武山雅志： （公）金沢こころの電話　相談役

武山雅志： （公）石川被害者サポートセンター　副理事長

武山雅志： 石川県警察被害少年カウンセリングアドバイザー

武山雅志： 金沢市保健審議会　委員

武山雅志： かほく市不登校問題対策運営協議会　委員

武山雅志： かほく市地域交通会議　委員

武山雅志： 学生等災害ボランティアリーダー育成事業研究会　委員

武山雅志： 日本心理臨床学会　代議員

武山雅志： 日本心理臨床学会　査読委員

武山雅志: 地域と災害（基礎）. 大学コンソーシアム石川，しいのき迎賓館，2014.4～2014.9

武山雅志: 地域と災害（実践）. 大学コンソーシアム石川，しいのき迎賓館，2014.4～2014.9

谷本千恵： かほく市障害者福祉計画策定委員会　委員

谷本千恵： かほく市地域自立支援協議会　委員

谷本千恵： 看護研究指導．山中温泉医療センター，2014.8.18、11.13、2.19

谷本千恵： 看護研究指導．県立高松病院，2014.7～2015.3

千原裕香： 北國生きがい支援事業　Nobody's Perfect 体験セッション．　石川県立看護大学　北國新聞社，　北國新聞会館，　2014.1

塚田久恵： 平成 26 年度都道府県介護予防担当者・アドバイザー合同会議，石川県地域密着アドバイザー．　厚生労働省，　①国際ファッションセンタービル(東京都）②大手町ファーストスクエアカンファレンス Room(東京都），　①2014.4　②2015.3

塚田久恵： 平成 26 年度地域づくりによる介護予防推進支援モデル事業アドバイザー合同会議(第 1 回，第 2 回，第 3 回），石川県地域密着アドバイザー．　厚生労働省，　①国際ファッションセンタービル(東京都）②フクラシア品川（東京都）③京急第二ビルコンベンションルーム（東京都），　①2014.4②2014.5③2014.10

塚田久恵: 平成 26 年度地域づくりによる介護予防推進支援モデル事業担当者会議（第 1 回，第 2 回），石川県地域密着アドバイザー．　石川県庁健康福祉部長寿社会課，　石川県庁行政庁舎，　①2014.5②2014,7

塚田久恵： 平成 26 年度第 2 回介護予防事業担当者研修会兼第 3 回地域づくりによる介護予防推進支援モデル事業研修，石川県地域密着アドバイザー．　石川県庁健康福祉部長寿社会課，　かほく市高松産業文化センター，　2014.11

塚田久恵： 平成 26 年度第 4 回地域づくりによる介護予防推進支援モデル事業担当者会議兼第 3 回介護予防担当者研修会，石川県地域密着アドバイザー．　石川県庁健康福祉部長寿社会課，　石川県庁行政庁舎，　2015.2

塚田久恵： JICA 研修　パラグアイ日系研修　講師等．　JICA 北陸支部・石川県立看護大学，石川県立看護大学，　2014.8

塚田久恵： 日本公衆衛生看護学会　査読委員

塚田久恵： 北陸公衆衛生学会　査読委員

塚田久恵：「地域づくりによる介護予防推進支援モデル事業」都道府県密着アドバイザー委嘱（厚生労働省）

中嶋知世：第30回日本国際保健医療学会学術大会　準備委員会　準備委員

中田弘子：平成26年度石川県立看護大学附属地域ケア総合センター事業　看護実践力向上セミナー 第1・2回ジェネラリストのための事例検討 講師・チューター．看護科学研究学会北陸研修会いしかわ学習会，石川県立看護大学附属地域ケア総合センター，2014.7、11

中田弘子：平成26年度金沢学習会 チューター．　看護科学研究学会北陸研修会，独立行政法人 地域医療機能推進機構 金沢病院，　2014.6、2015.3

中田弘子：平成26年度石川県立看護大学附属地域ケア総合センター事業 第1・2回 て・あーて「手を用いた看護の力」講師．　石川県立看護大学附属地域ケア総合センター，　石川県立看護大学，　2014.8、9

中田弘子：独立行政法人 地域医療機能推進機構 金沢病院 平成26年度院内研修 講師．　地域医療機能推進機構 金沢病院，　2014.7

中田弘子：公立羽咋病院 平成 26 年度看護部研修 事例検討会 講師．　公立羽咋病院，2014.10、12　　2015.3

中田弘子：石川県腎不全看護研究会 平成26年度事例検討会 チューター．　石川県腎不全看護研究会，　石川県立看護大学，　2015.2

中田弘子：福井県立大学看護科学研究学会北陸研修会Cコース研修会 チューター．　看護科学研究学会北陸研修会，　福井県立大学，　2015.

中田弘子：平成26年度かほく市食育推進連絡会　委員

中田弘子：独立行政法人 地域医療機能推進機構 金沢病院 看護研究指導および看護研究発表会講評　講師．　地域医療機能推進機構 金沢病院，　2014.10、11、12、2015.2

中田弘子：平成26年度出張オープンキャンパス・模擬授業 小松明峰高校 講師．大学コンソーシアム石川，　小松明峰高校，　2014.10

中道淳子：講演会「認知症予防のできるまちづくり」講師．　かほく市社会福祉協議会　身体障害者部会，　かほく市七塚健康福祉センター，　2014.6.10

中道淳子：NPO法人トトロの家　研修　「認知症の理解とコミュニケーションスキル」講師．NPO法人トトロの家，　NPOトトロの家　居宅介護事業所，　2014.6.24

中道淳子：津幡町介護予防メイト養成講座「高齢者の身体的特徴」講師．　津幡町地域包括支援センター，　津幡町役場，　2014.7.30

中道淳子：津幡町介護予防メイト養成講座「回想法」講師．　津幡町地域包括支援センター，津幡町役場，　2014.9.24

中道淳子：内灘町認知症高齢者見守り訓練　第1～3回勉強会　講師．　内灘町地域包括支援センター，　内灘町役場，　2014.8.6　2014.8.21　2014.9.10

中道淳子：内灘町認知症高齢者見守り訓練　実施　内灘町認知症高齢者見守り訓練報告会．内灘町地域包括支援センター，　向陽台公民館，　2014.10.1　2015.2.24

中道淳子：地域見守りあいさつ運動報告会（鶴が丘西）．　内灘町地域包括支援センター，　鶴が丘西公民館，　2015.2.23

中道淳子：地域見守りあいさつ運動発足会（旭ヶ丘）．内灘町地域包括支援センター，旭ヶ丘公民館，　2015.3.6

中道淳子： 看護実践学会　査読委員
中道淳子： 日本認知症予防学会　評議員
西村真実子： 平成 26 年度児童福祉司養成研修「児童虐待援助論」講師． 石川県健康福祉部少子化対策監室， 石川県庁行政庁舎， 2014.8
西村真実子： 北陸三県人権問題研究会石川大会「子どもの人権～虐待問題～」講師． 石川県人権擁護委員連合会， ANA・ホリディイン金沢スカイ 8 階「トップオブカナザワ」，2014.10.
西村真実子： 金沢市子ども・子育て市民フォーラム みんなで考えよう！これからの子育て支援「これからの子育てとその支援」講師． 金沢市子ども福祉課， 金沢市教育プラザ富樫， 2014.10
西村真実子： 北国新聞生きがい支援事業 2014 年度第 1 回石川県立看護大学プログラム「一人で悩まないで～子育て支援者とママのために～」講師． 石川県立看護大学、 北国新聞社， 北国新聞 20 階ホール， 2014.10.
西村真実子： 「子育てルームめばえの機能評価と分析結果」講師． 金沢市駅西福祉健康センター， 金沢市駅西福祉健康センター， 2014.12
西村真実子： 子育てどろっぷ・いん・さろんの開催(どろっぷ・いん・るーむ＆親育ち子育ちを考える会･全 5 回)．石川県立看護大学附属地域ケア総合センター， 聞善寺(金沢市)，2014.7～12(5 日間)
西村真実子： ①親へのグループ支援事業ワーキンググループの助言者　②モデル市町(白山市)でのプログラム運営・ファシリテーター　③研修会「グループ支援の効果と運営の実際―NP の手法を用いたグループ支援―」講師． 石川県健康福祉部少子化対策監室・いしかわ子育て支援財団･白山市， ①②健康センター松任　③石川県地場産業振興センター， ①2014.12.1　②2014.2(3 回)　③2014.3
西村真実子： 子育てどろっぷ・いん・さろん「親育ち子育ちを考える会」同窓会セッションファシリテーター． 石川県立看護大学附属地域ケア総合センター， 北陸スウェーデンハウス(金沢市)， 2015.3
西村真実子，米田昌代： 親育ち支援プログラム　ノーバディズパーフェクト（完璧な親なんていない！）ファシリテーター(全 6 回)． 小松市， 小松市すこやかセンター， 2014.8～2014.9
西村真実子，米田昌代： 親育ち支援プログラム　ノーバディズパーフェクト（完璧な親なんていない！）再会プログラムファシリテーター.小松市,小松市すこやかセンター，2014.12
西村真実子： 日本看護科学学会和文誌　編集委員
西村真実子： 日本小児看護学会誌　査読委員
西村真実子： 日本看護科学学会　社員(近畿)
西村真実子： 日本小児保健学会　代議員
西村真実子： 看護実践学会　理事
西村真実子： 石川県小児保健協会　役員
西村真実子： 石川県要保護児童対策協議会専門家チーム 委員
西村真実子： 石川県奨学生選考審査会 委員
西村真実子： 親子交流授業プログラム検討委員(公益財団法人いしかわ子育て支援財団、)

西村真実子： かほく市子ども・子育て会議　委員・会長
西村真実子： 金沢市子ども・子育て審議会 委員、次期かなざわ子育て夢プラン策定ワーキングチーム メンバー(副会長)
西村真実子： 北陸小児糖尿病サマーキャンプ運営委員会　委員
西村真実子： 老人保健施設「なでしこの丘」まちの保健室事業実行委員会　委員
西村真実子： 七尾児童相談所虐待進行会議
西村真実子： NPO法人子どもの虐待防止ネットワーク石川　 副代表　相談員
子吉知恵美： 金沢高校出張オープンキャンパス「お宅で行う看護」. 大学コンソーシアム石川, 金沢高校, 2014.9
子吉知恵美： JICA　日系研修　演習. 地域・在宅・精神看護学実習室, 2014.7
子吉知恵美： 看護研究指導. 流杉病院, 2014.4～7
長谷川昇： かほく市民大学校「生活習慣を見直し健康に暮らそう！」. かほく市教育委員会, 七塚生涯学習センター, 2014.5.28
長谷川昇： 「ぽかぽか薬膳」提案（平成27年3月31日までラブロ恋路で提供）. 能登キャンパス構想推進協議会
長谷川昇： 健康応援倶楽部. 地域ケア総合センター
長谷川昇： ロコモ予防と住民支援. 能登町との共同
長谷川昇： Health Care, Editor-in-Chief
長谷川昇： かほく市施設指定管理者審議会　委員
長谷川昇： かほく市ケーブルテレビ放送番組審議会　委員
長谷川昇： Journal of Ethnopharmacology 査読担当
長谷川昇： 石川県食品技術研究者ネットワーク　幹事
長谷川昇： 生理学・生理学実習, 愛知医療学院短期大学2014.4-2015.1
林一美： 介護職員等によるたんの吸引等の実施のための研修　講師. 石川県, 石川県立看護大学, 2014.8.23、9.5、12.20、2015.1.13
林一美, 木下幸子： 訪問看護技術の基本手技. 石川県立大学附属地域ケア総合センター事業, 石川県立看護大学, 2014.8.14
林一美： 津幡町介護認定審査会　委員
林一美： かほく市地域密着型サービス運営協議会　委員長
林一美： かほく高松訪問看護ステーション　運営委員
林一美： 羽咋市国民健康保険運営協議会　委員
林一美： 石川県国民健康保険団体連合会介護サービス　苦情処理委員
林一美： 石川県防災会議専門員会　委員
林一美： 日本災害看護学会　評議員
林一美： 看護研究指導, かほく中央訪問看護ステーション, 2014.3～10
彦聖美： 平成25年度石川県実習指導者講習会「在宅看護論」講師. 石川県看護協会, 石川県看護協会, 2014.8
彦聖美： 白山市認知症家族の会レインボーつどい講演会「介護者の健康　免疫力とストレス対処能力を高めよう！」. 白山市認知症家族の会, 白山市福祉ふれあいセンター, 2014.5
彦聖美： JICA研修　パラグアイ日系研修講師. JICA北陸支部・石川県立看護大学・羽咋市社会福

祉協議会，石川県立看護大学，2014.8

彦聖美： 第8回看護実践学会学術集会シンポジウムコーディネーター，「チームで支える患者の暮らし」．看護実践学会，石川県白山市クレイン，2014.9

彦聖美： 平成25年度石川県認定看護管理者制度教育ファーストレベル教育課程　「看護情報論」講師．石川県看護協会，石川県看護協会，2014.11

彦聖美： 男性介護者のための料理教室「楽ちん・美味しい・幸せご飯作りの開催・コーディネーター（羽咋市）． 羽咋市社会福祉協議会，石川県羽咋市千里浜公民館，2014.8.2、10.11，11.1

彦聖美： 男性介護者のための料理教室「楽ちん・美味しい・幸せご飯作りの開催・コーディネーター（中能登町）．中能登町地域包括支援センター，石川県中能登町保健センターすくすく，2014.10.28，11.25、12.16

彦聖美： 石川県がん安心生活サポートハウスはなうめ講師「ドイツのホスピスとボランティア活動から学ぶパートナーシップを基盤とした支援」．石川県がん安心生活サポートハウスはなうめ，ホテル金沢，2014.12

彦聖美： 羽咋市「食の交流会」の開催・コーディネーター． 羽咋市社会福祉協議会，石川県羽咋市健やかセンター，2015.2

彦聖美： かほく市介護認定審査会審査員

彦聖美： NPO法人　いしかわ在宅支援ねっと理事

彦聖美： 金沢市協働をすすめる市民団体登録任意団体　百万石介護メンズ倶楽部（男性介護者の会）事務局

彦聖美： 白山市認知症家族の会レインボー　相談役

彦聖美： 「公衆衛生学」講義，国際医療福祉専門学校七尾校

彦聖美： 「健康支援と看護」講義，金沢医療技術専門学校

彦聖美： 看護研究指導・発表会講評，公立つるぎ病院

彦聖美： 看護研究指導・発表会講評，医療法人社団和楽仁芳珠記念病院

牧野智恵： 苦悩する人間の「意味」を軸にしたﾛｺﾞｾﾗﾋﾟｰを知る知る．福井心の電話，ユーアイふくい，2015.2

牧野智恵： 平成 26 年度公開講座「学都石川の才知」講演、終末期における『生きる意味』～V.E.フランクルの思想を手がかりに～． 一社）大学コンソーシアム石川， しいのき迎賓館， 2014.7

牧野智恵： 岩手県立大学看護学研究科ＦＤ研修　講演、「がん看護専門看護師教育課程 38 単位の取り組み」． 岩手県立大学看護学部，岩手県立大学看護学部，2014.8

牧野智恵： 平成 26 年度看護師資質向上研修「がん看護」特別講演、「がん患者の心のケアについて」． 金沢大学付属病院，金沢大学付属病院 2014.1

牧野智恵： 平成 26 年度　北陸高度がんプロチーム養成基盤形成プラン　公開講座、「がん体験者とその家族への支援」座長．平成 26 年度　北陸高度がんプロチーム養成基盤形成プラン　公開講座，ホテル金沢，2014.6

牧野智恵： 平成 26 年度　北陸高度がんプロチーム養成基盤形成プラン　公開講座「がん患者の就労・雇用支援を考えよう」座長．平成 26 年度　北陸高度がんプロチーム養成基盤形成プラン　公開講座，金沢都ホテル，2014.12

牧野智恵： 平成 26 年度　北陸高度がんプロチーム養成基盤形成プラン　「がん看護における臨床倫理事例検討会」アドバイザー．平成 26 年度　北陸高度がんプロチーム養成基盤形成プラン公開講座，ホテル金沢，2014.10.4

牧野智恵： 石川県看護師養成所連絡会 委員

牧野智恵： 北陸高度がんプロチーム養成基盤形成プラン　運営協議会委員

牧野智恵： 第 27 回 JAPAN　TENT　開催委員会役員

牧野智恵： 日本がん看護学会学術　査読委員

牧野智恵： 日本がん看護学会代議員

牧野智恵： 日本 IPR 研究会運営委員

牧野智恵： 日本ロゴセラピー協会　運営委員

牧野智恵： 生と死を見つめて　講義　「死に行く人の看取り」．金沢大学医薬保健研究域保健学系，金沢大学，　2014.6

松本智里： 一般社団法人日本看護研究学会　第 28 回近畿・北陸地方会学術集会　実行委員

松本智里： 看護研究指導金沢大学附属病院，2014.6.9、8.13、9.9

丸岡直子： 石川県看護協会認定看護管理者教育制度運営委員

丸岡直子： 日本看護学教育学会　評議員

丸岡直子： 日本看護研究学会　査読委員

丸岡直子： 看護実践学会専任査読委員・査読担当

丸岡直子： 認定薬剤師研修制度委員会　委員

丸岡直子： 石川県立中央病院地域医療支援委員会　委員

丸岡直子： 日本看護学会（看護管理）準備委員長

丸岡直子： 福井大学講師（認定看護師教育課程：リーダーシップ担当）．福井大学，福井大学医学部看護学科，2014.6.12-13

丸岡直子： 石川県看護協会認定看護管理者制度ファーストレベル教育課程講師（看護サービス提供論-問題解決思考）．石川県看護協会，石川県看護研修センター，2014.10.8

丸岡直子： 石川県看護協会認定看護管理者制度セカンドレベル教育課程講師（看護の質評価）．石川県看護協会，石川県看護研修センター，2014.10.12

丸岡直子： 金沢大学大学院医薬保健学講師（看護管理特論）．　金沢大学，金沢大学つるまキャンパス，2014.10.9、10.14

丸岡直子： 石川県立看護大学附属看護キャリア支援センター（認定看護師教育課程：リーダシップ，看護管理担当）．　石川県立看護大学，石川県立看護大学，2014.7.22、7.28、7.29、8.6、8.8

三輪早苗： JICA 日系研修・カントリーレポート作成における助言指導．　石川県立看護大学附属地域ケア総合センター，　石川県立看護大学，　2014.7

三輪早苗： 公開研究会「死生観とケア」（全 2 回）．　石川県立看護大学附属地域ケア総合センター，　石川県立看護大学，　2014.4、11

村井嘉子： 第 3 回日本放射線看護学会学術集会企画実行委員．　大阪市立大学大学院，　大阪市中央公会堂，　2014.9.5～6

村井嘉子： 日本クリティカルケアケア看護学会　専任査読委員

村井嘉子： 日本クリティカルケアケア看護学会　評議委員

村井嘉子： 日本救急看護学会　評議委員

村井嘉子： 能美市立病院看護研究指導．　能美市立病院，能美市立病院 2014.6、10、3

森田聖子： 看護実践学会　査読委員

森田聖子： 看護研究指導・講評．　公立能登総合病院，2014.6.27、2015.2.7

森田聖子： 看護研究指導・講評．　河北中央病院，2014.6.6、12.10

山岸映子： 性教育講座「性と生」　講師．　石川県立翠星高等学校，　石川県立翠星高等学校，2014.11.18

山岸映子： 第30回日本国際保健医療学会学術大会　準備委員

吉田和枝： 模擬授業「母性看護　性と生について考えよう」石川県立小松高校．　大学コンソーシアム石川，　石川県立小松高校，　2014.11

吉田和枝，米田昌代，曽山小織： 石川県立看護大学附属地域ケア総合センター事業　祖父母の楽しい上手な孫育て教室．　石川県立看護大学附属地域ケア総合センター，　石川県女性センター，　2014.8

吉田和枝： 石川県子育て・女性健康支援センター相談事業　相談員．石川助産師会，本学吉田研究室，　2014.4～2015.3

米田昌代，東雅代： 北国健康生きがい支援事業　平成26年度第1回 石川県立看護大学プログラム　一人で悩まないで　子育て支援者とママのために　第 2 部体験セッション Nobody’s Perfect　完璧な親なんかいないプログラム ファシリテーター．　石川県立看護大学，北国新聞社，　北国新聞20階ホール，　2014.9

米田昌代，東雅代： 石川県立看護大学附属地域ケア総合センター 子育てどろっぷ・イン・さろん　NP 親育ち・子育ちを考える会ファシリテーター(全 5 回)．　石川県立看護大学，聞善寺，　2014.8～2014.12

米田昌代: 平成26年度親へのグループ支援事業　プレママ広場　ファシリテーター(全3回)．子育て支援財団　石川県健康福祉部，　健康センター松任，　2015.2

米田昌代： 平成26年度親へのグループ支援事業　ワーキンググループへの参加　グループ支援に関する研修会の講師．子育て支援財団　石川県健康福祉部，石川県地場産業振興センター，　2015.3

米田昌代： 石川県立看護大学附属地域ケア総合センター 子育てどろっぷ・イン・さろん同窓会セッションファシリテーター．　石川県立看護大学，　北陸スウェーデンハウス　金沢モデルハウス，　2015.3

米田昌代，吉田和枝，曽山小織： 石川県立看護大学附属地域ケア総合センター人材育成事業ペリネイタル・グリーフケア検討会（第11回　第12回）運営．石川県立看護大学，石川県立看護大学　石川県立中央病院　健康教育館，　2014.7 、2015.2

米田昌代： 石川県立看護大学附属地域ケア総合センター社会連携・貢献事業　あかちゃんをお空へみ送った方の自助グループに対するサポート活動．　石川県立看護大学，　津幡町町議室、生涯学習センター等　メール相談，　2014.4～ 2015.3

米田昌代： 日本看護研究学会　査読委員

米田昌代： 日本看護研究学会学術集会　座長

米田昌代： 日本助産学会査読担当

米田昌代： 日本ヒューマンケア心理学会査読担当

米田昌代： SIDS 家族の会　医学アドバイザー
米田昌代： 石川県看護協会　助産師出向支援モデル事業協議会委員

6.6　その他（受賞等）

浅見　洋： 新聞掲載，　読売新聞　ひと模様「死と癒やし　探究続く」，2015.3
垣花涉： 受賞，　平成26年度大学・地域連携まちづくり支援プロジェクト推進事業　最優秀賞，2015.2
垣花涉： 新聞掲載，　北國新聞，　2014.5
垣花涉： 新聞掲載，　北國新聞，北陸中日新聞，　2014.7
垣花涉： 新聞掲載，　北國新聞，　2014.8
垣花涉： 新聞掲載，　北國新聞，　2014.8
垣花涉： 新聞掲載，　北國新聞，　2014.12
垣花涉： テレビ出演，　NHK金沢「かがのとイブニング」，　2014.8
垣花涉： テレビ出演，　北陸朝日放送「スーパーJチャンネル」，　2014.12
垣花涉： テレビ出演，　金沢ケーブルテレビ「まちスタ530」，　2015.3
垣花涉： テレビ出演，　かほく市ケーブルテレビ「健康カフェをつくろう」，　2015.3
木森佳子： 学位論文，Improvement of a prototype device using near-infrared light to visualize invisible veins for peripheral intravenous cannulation in healthy subjects，2014.8
小林宏光： 資格，アメニティプランナー生理人類士１級，2014.6
中嶋知世：学位論文，石川県の外国人住民における健康課題の実態調査，2015.3
長谷川昇： 新聞掲載，　北国新聞 能登の薬膳で女性誘客，　2014.12
長谷川昇： 新聞掲載，　北国新聞　「ぽかぽか薬膳」提供へ，　2015.1

6.7　研究助成金

6.7.1　科学研究費助成金（日本学術振興会）

１．　本学教員が研究代表者のもの　〔科学研究費助成事業データベースからの抜粋〕

（１）基盤（Ｂ）

研究代表者	研究分担者	研究期間	研究課題名
浅見　洋	諸岡了介、伊藤智子 中村順子	H23～H27	ルーラルにおける住民の死生観と終末期療養ニーズの変容に関する総合的研究
大木　秀一		H24～H26	双生児家系世代間長期縦断データによる成人期以降発症疾患のライフコース遺伝疫学研究

（２）基盤（Ｃ）

研究代表者	研究分担者	研究期間	研究課題名
今井　美和	吉田和枝、河原栄	H25～H28	女子高校生の子宮頸がん予防行動推進プロジェクト
岩城　直子	牧野智恵	H24～H26	放射線療法中のがん患者へのＰＩＬテストを用いた看護介入プログラムの効果
川島　和代	林一美、橋本智江 木森佳子、中田弘子	H25～H27	看護と介護のより良い連携に向けた教育デザイン-感染防御策に焦点を当てて-
清水　暢子	平井一芳　梅村朋弘 谷本千恵　安倍　博	H26～H28	軽度認知症者への前頭葉機能活性効果の検討～マルチタスクトレーニングによる効果～
高山　成子	大津美香、渡辺陽子 森田聖子	H26～H28	血液透析を受ける認知症高齢者の主観的経験-標準的看護方法構築に向けて-
多久和　典子		H26～H28	慢性炎症と臓器線維化に関わるスフィンゴ脂質シグナリングの解明と新規治療戦略
中田　弘子	川島和代、小林宏光 田村幸恵、中嶋知世	H24～H26	電解微酸性水による拘縮手の手浴が皮膚上有機物に及ぼす影響
彦　聖美	大木秀一、鈴木祐恵	H25～H27	高齢期の妻や親を介護する男性介護者に対する地域特性に基づく支援のあり方
牧野　智恵	北本福美、川端京子	H24～H27	がん患者とその子供への支援プログラムの開発－芸術療法とＰＩＬテストの導入の試み

丸岡　直子	林一美、武山雅志 石川倫子、田村幸恵、 中嶋知世　他２名	H26～H29	外来-病棟一元化による看護師の患者・家族包括的在宅移行支援力育成プログラムの開発
村井　嘉子	北山幸枝	H25～H27	急性大動脈解離患者のキュアとケアの融合を基盤とする看護実践の構造

（３）挑戦的萌芽

研究代表者	研究分担者	研究期間	研究課題名
浅見　洋	志村恵、谷山洋三 彦聖美	H26～H28	ドイツ語圏の医療・福祉におけるゼーゾルゲの展開とその現在
石垣　和子	塚田久恵、織田初江、 浅見洋　　他３名	H25～H26	地域性に根ざした地域保健活動の探索に関する研究
大木　秀一		H26～H27	多胎児に対する低出生体重児の概念の妥当性に関する実証研究
金谷　雅代	西村真実子	H24～H26	子どもに寄り添うデスエデュケーションの検討
木森　佳子	須釜淳子、中山和也 宮地利明	H25～H26	近赤外光を用いた末梢静脈可視化システムにおける基礎研究
武山　雅志	岩脇陽子、丸岡直子 塩谷亨	H26～H28	看護学生のコミュニケーション・スキルの特徴と変化
山岸　映子		H24～H26	過疎地域における里帰り分娩に対するソーシャルサポートに関する研究
吉田　和枝	米田昌代、曽山小織 長谷川昇	H26～H27	化粧行動と保健行動の関連性とヘルスプロモーションに向けての研究
米田　昌代		H26～H28	周産期の死を経験した母親・家族を社会全体で支えるシステムの実現可能性の検討

（４）若手（Ｂ）

研究代表者	研究期間	研究課題名
金子　紀子	H26～H27	ソーシャルキャピタルの地域特性を踏まえた子育て支援の検討
曽根　志穂	H24～H26	神経難病患者と介護サービス事業者への保健師による在宅療養支援方法の検討

２．他の研究機関に本学教員が分担者として参加しているもの

（１）基盤（Ｂ）

研究代表者	研究分担者	研究期間	研究課題名
竹ノ内　裕文	浜渦辰二、浅見洋 他４名	H24～H26	世俗化する欧州社会における看取りの思想的な拠り所の究明
風間　富栄	佐藤泰司、中田隆博	H25～H29	発達中の脳における麻酔薬の神経毒性に関する包括的研究
鈴木　みずえ	丸岡直子、寺井梨恵子、他 10 名	H26～H29	認知症高齢者の転倒予防看護質指標による看護課移入プログラムと実践継続システムの開発

（２）基盤（Ｃ）

研究代表者	研究分担者	研究期間	研究課題名
野口　美和子	大湾明美、石垣和子、他３名	H24～H26	島しょ看護学教育内容の体系化に関する研究
伊藤　隆子	吉田千文、石垣和子、他５名	H24～H26	ケアマネジャーの経験するモラルディストレスの解明と支援プログラムの開発
永谷　幸子	小林宏光、藤本悦子 林久恵	H22～H26	起立を支える援助プログラムの確立－下腿周囲径に着目して
有田　広美	小林宏光、藤本悦子	H25～H27	心臓手術を受けた高齢患者の睡眠障害を改善する研究

6.7.2　学内研究助成費

本学専任教員が行う「学術研究」（研究者の自由な発想に基づく研究）を発展させることを目的とする。

・研究Ａ（限度額 350 万円まで）

研究代表者	共同研究者	課題名
清水　暢子 （精神看護学）	平井一芳、堀敦志、下川幸蔵、大江真吾、安部博	統合失調症の社会復帰を目指した介入プログラムの効果－ビデオゲーム（Wii sports）による介入が前頭葉機能へ及ぼす影響

・研究 B（限度額 100 万円まで）

研究代表者	共同研究者	課題名
浅見　洋 （人間科学）	彦聖美、浅見美千江 大永恵子、越間幸子 丹保まり子、清水えり子 相原翔子	団塊世代が自宅で親を看取った経験 －ルーラルエリアでの聞き取り調査を通して－
石川　倫子 （附属看護キャリア支援センター）	丸岡直子、浅見美千江 竹村美和、下嶋恵美子	看護師の患者･家族に対する在宅移行支援における臨床判断の構造
井上　智可 （在宅看護学）	林一美	精神疾患を有する人の療養生活を支援するための訪問看護師と精神科医師との連携のプロセスと影響要因　－訪問看護ステーションに焦点を当てて－
大木　秀一 （健康科学）	彦聖美	国内での生殖補助医療の動向と中長期発育予後に関する疫学研究
垣花　渉 （人間科学）	長谷川昇、奥田睦子 徳本真理	農村コミュニティを基盤とした健康づくりの実践研究
加藤　穣 （人間科学）		ケアにおけるコミュニケーションロボットの応用に伴う倫理的・法的・社会的課題
川島　和代 （基礎看護学）	小林宏光、笠井恭子	高齢者の睡眠状態の良否に関連する要因分析 －施設入居高齢者を対象とした長期追跡調査から－
曽根　志穂 （地域看護学）	武山雅志、金谷雅代 石垣和子	東日本大震災被災地の住民ニーズに基づく学生ボランティア活動の効果
曽山　小織 （母性看護学）	吉田和枝、米田昌代	生殖補助医療の選択に関わる社会的決定要因に着目した研究:子どもがいる夫婦といない夫婦の生殖補助医療に対する意識調査
高山　成子 （老年看護学）	大津美香、渡辺陽子 久米真代、山田ルミ 小林佐知子	前頭側頭葉認知症、レビー小体型認知症の BPSD 比較-入浴困難、徘徊、収集行動-
多久和　典子 （健康科学）	岡本安雄	血中脂質メディエーターによるがんの制御
谷本　千恵 （精神看護学）	角田雅彦、石井了恵 坂上章	過疎地域における精神障がい者の地域生活支援システムの開発に向けての基礎的研究
塚田　久恵 （地域看護学）		半島で暮らす人々のヘルスリテラシーの特徴と保健行動改善に向けての探索的研究

中嶋　知世 （基礎看護学）	大木秀一	石川県に住む外国人の実態調査 －健康問題を中心とした量的な現状把握―
中田　隆博 （健康科学）	小林靖、松井利康 本郷悠	神経電導路解析のためのアデノウィルスベクターの改良
中道　淳子 （老年看護学）	森田聖子、小林宏光 清水暢子	地域在住高齢者に対する笑いヨガプログラムの試み
長谷川　昇 （健康科学）	河崎恭子、小原麻紀 望月美也子、森　亮太 星野恵美	地域連携型ロコモティブシンドローム予防事業の推進
彦　聖美 （在宅看護学）	大木秀一、鈴木祐恵 宮下陽江	男性介護者に対する料理教室を通じた地域との交流促進と栄養評価
牧野　智恵 （成人看護学）	原子裕子、北山幸枝 我妻孝則	EGFR 阻害薬導入がん患者の、皮膚障害を予防するためのスキンケア指導の試み
丸岡　直子 （基礎看護学）	松井康一、武山雅志 石川倫子	医療安全管理者が職員研修の企画･実施において感じる負担感とその影響要因
山岸　映子 （母性看護学）		母乳育児にやさしい地域支援システムに関する研究

6.7.3　その他助成金等

1．本学教員が研究代表者のもの

研究代表者	研究分担者	研究期間	研究課題名	資金制度・研究費名
浅見　洋		H26	ドイツ語圏の医療・福祉におけるゼーゾルゲの展開とその現在	平和中島財団　外国人研究者等招致助成金
石垣　和子	大木秀一 川島和代 他８名	H26	北陸地域に特徴的な高齢者の生活実態把握のためのアンケート調査項目開発基礎調査	科学技術振興機構（JST）に採択された「ICT を活用した健やかな高齢社会の共創－地域特性を生かした北陸モデルの構築－」（代表：北陸先端科学技術大学院大学　小阪道隆）より再委託
垣花　渉		H26	限界集落発「生活ケアモデル」の創造―「コミュニティカフェ」を通じた互恵的協働社会の実現―	平成 26 年度大学・地域連携まちづくり支援プロジェクト推進事業 （大学コンソーシアム石川）
垣花　渉		H26	コミュニティ形成を通じた荘年・老年期の生活習慣病の予防	平成 26 年度地域課題研究ゼミナール支援事業 （大学コンソーシアム石川）
小林　宏光		H26～H30	脳・内分泌・自律神経・免疫活動を用いた評価法の開発	戦略的イノベーション創造プログラム ホメオスタシス維持機能をもつ農林水産物・食品中の機能性成分多視点評価システムの開発と作用機序の解明
清水　暢子	平井一芳 他３名	H26～H27	統合失調症患者の社会復帰を目指した介入プログラムの効果	公益財団法人テルモ科学技術振興財団一般研究開発助成金Ⅱ
武山　雅志	曽根志穂 金谷雅代 石垣和子	H26	石川県における女性の視点を盛り込んだ防災への取組の現状と課題	いしかわ女性基金調査研究事業
長谷川　昇	河崎恭子 出村光里	H25～H26	科学的根拠に基づいたロコモティブシンドローム予防と住民支援に関する研究	大同生命厚生事業団

彦　聖美	大木秀一 鈴木祐恵	H26	男性介護者と地域住民グループとの交流によるパートナーシップの発展とその効果に関する研究－「食の交流会」を通して	北陸公衆衛生学会研究助成金
丸岡　直子	浅見美千江 林一美 石川倫子 他	H26	在宅療養移行（退院支援）研究会	平成26年度 石川県高度・専門医療人材養成支援事業

２．他の研究機関に本学教員が分担者として参加しているもの

研究代表者	研究分担者	研究期間	研究課題名	資金制度・研究費名
熊澤　栄二	山岸雅子 垣花渉 舟田勉 他２名	H25～H27	新・買い物弱者支援システム：安心ネットワークの可能性調査・研究	第18回「北陸地域の活性化」に関する研究助成事業（一般社団法人　北陸地域づくり協会）

７．国際交流

7.1　国際交流委員会

委 員 長：西村真実子　教授
委　　員：多久和教授、垣花准教授、岩城准教授、塚田准教授、木森講師
事 務 局：岸事務員
活動内容：

１．学生の夏期アメリカ看護研修(国際看護演習)

本学では、国際的に活躍できる人材の育成をめざし、夏期アメリカ看護研修(国際看護演習、2単位・45時間)が行われている。参加経費は学生の自費によることから、より多くの学生が参加できるように、研修プランの策定にあたっては、平成25年度に引き続き26年度も業者にプロポーザル方式でプランを提案させ、経費負担の抑制を図った。その結果、参加経費が373,000円(諸経費含む)となり、21名と例年より多くの学生が参加した。また、英語教員作成の夏期アメリカ看護研修参加者用のe-learning教材を提供する等､事前学習を充実させた。今後は、研修プログラムをより一層充実させるために、業者によるプロポーザル方式の方法を継続するとともに、参加学生や引率教員等を対象としたプログラムの評価方法を検討し、評価結果を基にした改善に取り組む必要がある。

２．国際交流意識の向上をめざした取り組み

学生および教職員の国際交流意識の向上をめざし、次の3点に取り組んだ。一つは、英語のe-learning教材「eNetLibe」を活用しやすいように、本学ホームページにバナーを新たに設置し、学生の自学自習の機会の増加を図った。二つ目は、本学の国際交流活動を広く周知するために学内の2か所に国際交流の掲示板を設け、ワシントン大学や韓国の全北大学との学術交流に関する協定書や、夏期アメリカ看護研修やJICAからの委託研修(パラグアイ等)、ワシントン大学等各大学との交流写真を掲示した。三つ目は、26年度後期から開始された、教員の英語力向上のためのセミナーの運営を行い、より効果的な運営のあり方を検討した。次年度は、これらの継続とともに、e-learning教材の学生への周知を図り、自学自習を促進する。また、国際交流の機会の紹介やTOFELやTOEICへの挑戦の勧め等、国際交流への関心をより一層高めていく必要がある。

7.2　ワシントン大学との交流

7.2.1　はじめに

本学は、2003年にワシントン大学との学術協定を初めて結び、さらに、新たに2012年覚書（MOU：Memorandum of Understanding）を交わし、両大学の交流を深めてきた。隔年ごとにワシントン大学への教員派遣と本学への招聘教授による大学院生への国際看護特論の講義を実施している。平成26年度は、Noel J.Chrisman（ノエル・J・クリスマン）教授を招聘し「CBPR：(Community-Based Participatory Research)」をテーマに大学院国際看護特論を開講した。

Noel J.Chrisman 教授に関しては 3 度目の招聘となった。平成 26 年度の国際看護特論はワシントン大学への Visiting Scholar として研修を行った経験のある大木教授（科目責任者）および平成 25 年度に同じく Noel J.Chrisman 教授のもとで研修を行った彦准教授らが中心となり授業展開を行った。国際看護特論のほかに、Noel J.Chrisman 教授の公開講座および教員向け講義も併せて行われた。

7.2.2　招聘教員の紹介

Dr. Noel J.Chrisman は米国ワシントン大学看護学部の教授。博士（人類学）。
米国では、公衆衛生上の今日的課題である健康格差問題の是正に向けて、連邦政府が支持する大規模な取組が行われているが、その一つである Community-Based Participatory Research（CBPR）の第一人者である。

7.2.3　国際看護特論

7.2.3.1　概要

講義期間：平成 26 年 9 月 9 日～9 月 19 日
履 修 者：大学院博士前期課程　10 名　全員単位認定基準を満たした。
講義場所：教育研究棟 3 階会議室
担当教員：大木秀一教授（科目担当責任者）、彦聖美准教授、加藤穣准教授（サポート）

7.2.3.2　講義内容

国際看護特論は、大学院博士前期課程の選択科目である。前半 7 回の授業で科目担当責任者および平成 26 年度の派遣教員によるオリエンテーションと事前準備学習を行った。後半 7 回を招聘教員が担当した。CBPR を理解するにあたり、上記の前半と後半の授業を通じて学習することが重要であることを学生に周知し、実施された。

講義のほかに、毎回 1～2 名の大学院生が修士論文の計画や研究方法論について直接招聘教員とディスカッションをできるようにオフィスアワーを設けた。これにより、大学院生はより深く研究について学修するすることができた。

7.2.4　一般公開講義および教員対象講義

7.2.4.1　一般公開講義

講義日時：平成 26 年 9 月 11 日 13：00～16：00　大講義室（準備等担当リーダー小林教授）
講義演題：「Team Approaches to Current Challenges in Nursing Care」
参 加 者：38 名（学内 32 名、学外 6 名）

「とてもよかった」と「よかった」が 23 人であった。参加者が少なかったのが問題点として挙げられた。周知は行ったが、直前の学内向け一斉メールはなかったことなどがあり、今後、周知についてはさらに検討すべきである。（過去 3 回の招聘教授であり、すでに過去に当教授の講義に参加した人は見合わせた可能性も若干考えられた）。

7.2.4.2 教員対象講義

講義日時：平成 26 年 9 月 17 日 10:00〜12:00 大講義室（準備等担当教員リーダー西村教授）

講義演題：「The community Health Nursing Program at the University of Washington」

参 加 者：44 名(本学教員 39 名、院生 2 名、研究員 1 名、金沢大学教員 2 名)

地域に出向き貢献し、それが教育・研究にも発展するという趣旨の活動に参考となる意見などがあり、好評であった。

【今後に向けての主な注意点・検討事項等】

1. 平成 26 年度は、他の科目（CNS 関係）の授業の開始となった年度であり様々な事情で、CNS 授業が 8-9 月に散在していたために招聘期間の設定が困難であった。また勤労院生にとって勤務の休みを集中してとれないなどがあり、国際看護特論の出席に影響した。今後、招聘年度（国際看護特論を開講する年度）は、他の科目授業を 8 月上旬くらいには終了するように計画すべきと考えられる。
2. 招聘期間における各関係者の役割等についての事前打ち合わせの必要性や連携の点での組織体系についての反省点があった。招聘教授とかかわる関係者事務、教員そろっての事前打ち合わせを充実させ、相互のコミュニケーションの円滑に一層努力すべきである。
3. 公開講座は外部参加者が非常に少人数であったので今後周知の方法を考慮していく必要がある。
4. 英語教員が準備段階からプログラム全般にわたりサポートに当たった。今後、国際看護特論の授業担当教員に関する検討の意見がでた。
5. 招聘教員にかかる事務関係の仕事に関しては、徹底して事務担当者が直接行うのが合理的である。翻訳会社等へ依頼をするならば、それは必要経費となる。
6. 今後、様々な教授を招聘し、様々な看護分野での交流が深められるように選定方法を考慮する必要がある。
7. UW との交流を行う前提にツールとしての語学力が重要であるが、今後 5 年後くらいを見据えて、本学教員、学生の語学力を UP するため目標、方策が必要とされる。

   今後も本学は一層の両大学間の学術交流を活発化させて行く方向にある。

7.3 夏季アメリカ看護研修（学部科目「国際看護演習」）

2014 年 8 月 26 日〜9 月 8 日の 2 週間にわたり、夏期アメリカ看護研修がワシントン州シアトルで行われ、学生 21 名（3 年 15 名、2 年 6 名）が参加した。

研修内容

1．講義

テーマ：「アメリカのナース（NS）の役割・教育・保健医療システムについて」

講　師：ワシントン大学看護学部准教授　上月頼子先生

内　容：①アメリカの保健医療システム

②アメリカの NS が働いている場（病院・クリニックやそれ以外の場）

③NS が提供しているサービス／メディカルスタッフの中での役割分担（Dr、SW、PT、OT、ST、NS のそれぞれの役割）、日本の NS との違い
④看護教育制度（NP 等の APN の紹介、ライセンスを得るための教育、権限・責務など）
⑤労働条件、処遇、NS を志望する若者の割合など

２．英会話クラス
日常英会話
看護英語

３．保健医療・福祉施設の見学
① University of Washington
② University of Washington Medical Center
③ University of Washington School of Nursing
④ Seattle Children's Hospital
⑤ Swedish Hospital
⑥ Keiro Nursing Home
⑦ Nikkei Manor

7.4　韓国全北大学看護学部との覚書（ＭＯＵ）締結

１．経緯

本学では、文部科学省の「大学間連携共同教育推進事業」として平成 24 年度に採択された『学都いしかわ・課題解決型グローカル人材育成システムの構築』の一プロジェクトとして、「ヒューマンヘルスケア人材育成プロジェクト」事業に主体的に取り組んできた。

同事業において、学生の韓国派遣研修を実施することを企画し、韓国での研修受入先を模索していたところ、石川県の友好交流地域である韓国全羅北道から国立全北大学の紹介を受けた。その後、同大学看護学部との間で研修事業の調整を進める中で、先方より本学との覚書締結の打診があり、平成 26 年 11 月 17 日付けで締結を行った。

２．覚書の内容

両大学間で学術・教育面での交流及び協力を推進する。具体的には、以下のことなどについて交流を発展させるよう互いに努力する。

・教職員及び研究者の交流
・学生の交流
・学術的資料、出版物及び情報等の交換
・共同研究プロジェクトの実施
・学術会議の企画

３．今後の本学の取り組み

平成27年度に全北大学看護学部への学生派遣を実施

・実施時期：平成27年8月

・派遣人数：10～15人

（参　考）

国立全北大学について

1951年設立の韓国西南部地域における中心的な役割を担う総合大学

学生数：約32,000人　　　教員数：約2,700人

8　大学施設の開放

実施年月日	内　　容	主　催　者	参加人数
			名
26.11～27.3 金曜	フットサル練習	ＦＦＡ（フットサルクラブ）	15
26.8～27.3 土・日曜	野球練習	石川ボーイズ/ウィングス	30
26.8～27.3	バレーボール練習	二ツ屋病院	15
26.5～26.12	介護職員等によるたんの吸引等の実施のための研修（指導者養成講習及び基礎研修）	社会福祉法人石川県社会福祉協議会福祉総合研修センター	100
26.4.20	学園台自治会総会	学園台自治会	50
26.4.27	サッカー練習	高松フットボールサポーター	200
26.5.17	教育研究集会発足集会	石川県教職員組合河北支部	300
26.6.7	音楽コンサート	いこいの会（山本伸子ピアノ教室）	20
26.6.28・29	第20回石川県紙ひこうき大会 in かほく	石川県紙ひこうき大会 in かほく実行委員会	350
26.7.16・17	地域包括支援センター職員研修（基礎研修）	石川県健康福祉部長寿社会課	80
26.8.3	介護と医療連携強化研修	石川県健康福祉部長寿社会課	300
26.8.10	新体操の練習	パレットＲＧ（新体操クラブ）	6
26.8.19	食品衛生責任者研修会	河北食品衛生協会	200
26.8.21	教育研究集会総括集会	石川県教職員組合河北支部	200
26.9.6	ダンス練習	近江　沙也佳（卒業生）	7
26.9.14・15	定期演奏会・リハーサル	かほく市立高松中学校	450
26.9.21.28	サッカー練習	高松フットボールサポータ	150
26.10.12	コーラス練習	コーラスグループチェリーブロッサム	50
26.10.18	認知症高齢者サポートを考える会講演会	エーザイ株式会社	300
26.10.19	吹奏楽部定期演奏会	石川県立宝達高等学校	300
26.10.30	認知症看護研修	石川県立高松病院	250
26.11.1～3	原子力防災訓練	石川県危機管理監室危機対策課	500
26.11.9	石川県保育士会のと地区研修会	宝達志水町保育士会	450
26.12.4～6	幼稚園発表会・リハーサル	うのけ幼稚園	500
26.12.6	河北医療介護ネットワーク勉強会	河北郡市介護支援専門員等による事例検討会	50
26.12.13	クリスマス会	学園台子ども会	50
26.12.14	ピアノ教室発表会	桶作安希子ピアノ教室	40
26.12.23	コンサート	くらたに音楽教室	30
27.2.22	CKD（慢性腎臓病）事例検討会	石川腎不全看護研究会	35
27.3.1	理容師美容師国家試験	理容師美容師試験研修センター東海ブロック事務所	350
27.3.7	院内学会	石川県立高松病院	100
27.3.29	ピアノの発表会	くらたに音楽教室	100
27.3.31	ドッヂビー教室	エトセトラ・ワークス	20

９．附属図書館

9.1　図書館運営委員会

委 員 長：大木秀一　教授（附属図書館長）

委　　員：丸岡教授、小林教授、中田隆博准教授、岩城准教授、織田准教授、金谷講師、
　　　　　青山総務課長

事 務 局：山本主幹

活動内容：

１．図書館の事業活動、業務改善について審議および実施

１）「石川県立看護大学学術リポジトリ」の運用開始

石川県立看護大学学術リポジトリの運用を平成27年4月3日から開始する。（石川県立看護大学学術リポジトリのアクセス　https://ipnu.repo.nii.ac.jp/）

２）図書等整備状況

4月、8月に教職員の推薦による図書1,540冊、視聴覚資料9点を選定し整理した。

３）外国雑誌購入の見直し

外国雑誌購入見直しのアンケートを実施し、購入誌数の調整を行った。

４）企画展示

「レポート・論文の書き方　ノートのとり方展」「あなたのスタート新生活応援！図書展」開学記念「特別講演会：放射線と健康」「闘病記展」「看護の歴史展」を実施した。

５）わく・ワーク（work）体験事業について

かほく市立高松中学校生徒３名を２日間受け入れて、図書の装備、文献複写業務等の図書館業務を体験する「わくワーク（work）体験」事業を行った。

６）館内のリニューアルについて

3月16日～20日の図書整理期間中に、雑誌棚の配置換え、看護図書専門コーナーに書架を増設した。空いたスペースに机・椅子8脚を増設し、座席数を増やした。

9.1.1　石川看護雑誌編集専門部会

部 会 長：小林宏光　教授

部　　員：大木教授（附属図書館長）、長谷川教授、川島教授、山岸准教授、北山准教授、
　　　　　阿部准教授

事 務 局：山本主幹

活動内容：

1．プロセスの電子化を進め，合理化・スピードアップを図った。またこれに伴い発行規定・投稿規定の見直しを行った。

2．第12巻を2015年3月に発行した。総説1編，原著論文4編，研究報告4編，資料3編，特別報告4編の全16編を掲載した。

9.2　今年度の主な活動概況

9.2.1　図書館業務の改善

１．閲覧室内のリニューアル

3月16日～20日の図書整理期間中に、雑誌棚の配置換え、看護図書専門コーナーに書架を増設した。さらに、机・椅子8脚を増設し、座席数を増やした。

２．洋雑誌購入の見直し実施

洋雑誌高騰による図書館資料費の見直しのため、雑誌購入を39誌から31誌に見直しした。

３．視聴覚資料の貸出

視聴覚資料約2,200点のデータ登録を完了、学生、教員に図書館システムによる貸出を開始した。

４．雑誌の貸出実施

平成25年4月から入力作業を行っていた、雑誌のバーコード貼付、データ入力作業が完了したので、4月から雑誌の貸出を開始した。

５．「県・市町関係統計資料コーナー」の新設

「県・市町関係統計資料コーナー」を図書館2階に設置した。

６．「石川県立看護大学関係資料コーナー」の新設

大学発行の「紀要」「年報」等の資料やパンフレット、チラシを過去に遡って収集し、「石川県立看護大学関係資料コーナー」に配架し、閲覧、貸出を開始した。

７．「洋書コーナー」の設置

和書と混配してあった洋書を「洋書コーナー」に一括して配架した。

８．新着雑誌著作権遵守の徹底

新着雑誌の雑誌カバーに「貸出禁止」「複写禁止」のシールを貼り、著作権遵守を徹底した。

9.2.2　図書館事業の実施

１．「石川県立看護大学学術リポジトリ」運用開始

「石川県立看護大学学術リポジトリ」の運用を平成27年4月3日から開始する。

（石川県立看護大学学術リポジトリのアクセス　https://ipnu.repo.nii.ac.jp/）

２．リユース図書の実施（年2回）

図書館が複本で所蔵する図書と、学生、教員から寄贈を受けた、リユース用図書を7月夏のオープンキャンパスと、10月秋のオープンキャンパスに学生と見学者に無料で提供した。

３．わく・ワーク（work）体験事業

かほく市立高松中学校2年生3名が、7月24日（木）～25日（金）の2日間「わく・ワーク（work）体験事業」に参加、図書の移動、配架、図書装備、カウンター業務等、図書館業務を体験した。

４．企画展示の実施

テーマ別に図書を選定し展示する企画展示を行った。（カッコ内展示期間　冊数）

１）「レポート・論文の書き方　ノートのとり方展」（3/10～4/28　21冊）

2）「あなたのスタート新生活応援！図書展」（3/26～4/28・学び始める編　24冊・暮らし始める編　22冊）

3）「絵本でみる親の心・子どもの心～いのち・からだ編～展」（5/1～31　12冊）

4）開学記念「特別講演会：放射線と健康」（5/7～31　12冊）

5）「闘病記展」（7/14～31　71冊）

6）「看護の歴史展」（10/1～31　30冊）

9.3　資料整備状況

資料整備状況（平成 27 年 3 月 31 日現在）（　　）内平成 26 年度受入れ数

図書	和書	48,323 冊（1,982 冊）	購入：1,508 冊 寄贈：474 冊	合計　54,302 冊 （2,014 冊）
	洋書	5,979 冊（32 冊）	購入：　45 冊	
雑誌タイトル数	和雑誌	453 誌	継続購入 99 誌	合計　622 誌 （内購入 139 誌）
	洋雑誌	169 誌	継続購入 40 誌	
新聞	日本紙	6 紙	―	―
	英字紙	1 紙	―	
視聴覚資料	CD-ROM	161 点（1 点）	購入：1 点	計　2,160 点 （14 点）
	ビデオ	1,376 点	―	
	ＤＶＤ	623 点（13 点）	購入：13 点	

9.3.1　分野別蔵書構成（平成27年3月31日現在）

○総冊数：54,302 冊

分類	0	1	2	3	4-480	49	N	5	6	7	8	9
標目	総記	哲学宗教	歴史	社会科学	自然科学	医学	看護学	技術・工学	産業	技術	言語	文学
冊数	4,353	2,765	649	7,746	1,585	18,141	12,998	1,126	226	1,291	1,197	2,225

9.3.2　医学分類蔵書構成（平成27年3月31日現在）

○医学書（看護学を除く）の総冊数：18,141 冊

490	491	492	493	494	495	496	497	498	499
医学総記	基礎医学	臨床医学	内科学	外科学	周産期医学	耳鼻咽喉科	歯学	公衆衛生学	薬学
1,487	2,700	1,325	5,790	1,888	927	228	158	3,391	247

9.3.3　看護系資料分類別構成（平成27年3月31日現在）

○看護学関係図書総冊数：12,998 冊

N0	N1	N2	N3	N4	N5	N6	N7	N8	N9
看護総記	看護理論	看護実践	母性看護	小児看護	成人看護	老年看護	精神看護	地域家族看護	状態別看護
2,090	1,095	3,367	526	444	1,701	487	566	1,805	917

9.4　利用統計

9.4.1　開館日数・入館者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
開館日数	25	24	25	26	20	23	27	22	22	21	22	18	275
入館者数	5,718	5,734	6,010	10,134	5,909	4,119	8,268	5,134	3,846	4,773	5,711	1,723	67,079
1日平均	229	239	240	390	295	179	306	233	175	227	260	96	244

9.4.2　館外利用者数及び冊数

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
学生	人数	367	392	501	432	289	265	436	325	266	351	187	86	3,897
	冊数	677	852	949	837	656	575	1,134	801	691	949	395	203	8,719
院生	人数	68	43	44	49	55	58	71	44	42	21	9	26	530
	冊数	188	111	141	126	134	142	208	141	96	147	80	57	1,571
教職員	人数	57	57	50	57	54	50	52	39	44	35	34	32	561
	冊数	155	133	121	133	169	162	132	123	155	90	96	96	1,565
一般	人数	85	70	75	102	83	80	100	79	54	56	59	38	881
	冊数	203	172	180	229	162	195	251	149	127	146	162	98	2,074
計	人数	577	562	670	640	481	453	659	487	406	463	289	182	5,869
	冊数	1,223	1,268	1,391	1,325	1,121	1,074	1,725	1,214	1,069	1,332	733	454	13,929

9.4.3　他大学・国立国会図書館・公共図書館への文献複写依頼件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
教員	38	32	72	26	41	67	15	9	33	72	14	12	431
学生	74	185	107	67	33	50	7	32	26	16	11	33	641
計	112	217	179	93	74	117	22	41	59	88	25	45	1,072

9.4.4　他大学・公共図書館・個人からの文献複写受付件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
教員	23	14	9	9	18	14	9	10	11	11	15	3	146
学生	75	66	80	57	73	56	62	45	45	49	26	38	672
一般	1	13	13	5	2	8	14	14	6	4	2	0	82
計	99	93	102	71	93	78	85	69	62	64	43	41	900

9.4.5　館内設置コピー機による複写件数・枚数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
件数	107	151	99	235	154	120	195	102	72	70	58	58	1,424
枚数	2,225	1,978	1,406	2,899	1,714	1,648	2,591	1,881	936	978	806	902	19,964

9.4.6　相互貸借貸出冊数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
公共	3	8	9	6	18	7	7	8	7	9	12	6	100
大学	4	1	0	5	1	0	7	3	3	1	4	0	29
合計	7	9	9	11	19	7	14	11	10	10	16	6	129

9.4.7　相互貸借借受冊数

	４月	５月	６月	７月	８月	９月	１０月	１１月	１２月	１月	２月	３月	合計
公共	22	16	29	29	21	25	37	12	22	24	15	23	275
大学	1	4	0	0	5	1	0	1	1	1	1	4	19
合計	23	20	29	29	26	26	37	13	23	25	16	27	294

9.4.8　データベースアクセス状況

○洋雑誌：CINAHL　(EBSCO社)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
件数	577	738	1,080	843	249	883	546	296	324	474	478	393	6,881

○和雑誌：メディカルオンライン（メテオゲート社）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
件数	1,879	1,384	1,092	2,275	2,091	774	1,337	995	707	513	312	864	14,223

9.5　利用者サービス

9.5.1　学内向図書館サービス

新入生、新任教職員等を対象に、図書館の利用方法等について説明した。

実施時期	対象者	対象・参加人数	内容
4月2日（水）	新教職員	約10名	図書館の使い方 図書館の概要説明
4月4日（金）	新入生ガイダンス 保護者説明会 編入生 新旧大学院生	約80名 約80名 編入生：約10名 約40名	図書館の使い方 図書館の概要説明
7月17日（木）	感染管理認定看護師教育課程ｵﾘｴﾝﾃｰｼｮﾝ	受講生　約30名	図書館の利用方法とオンラインデータベース講習

9.5.2 学外向図書館サービス

県政バス、県内の中高生等を対象に、図書館の概要説明や、図書館の利用方法とオンラインデータベース講習会等を実施した。

日　　時	名　　　称	対象・参加人数	内　　　容
6月19日（木）	金沢北陵高等学校	生徒45名	図書館の概要説明
7月19日（土）	オープンキャンパス	高校生、父兄	図書館の開放、施設説明　図書リユースコーナー設置
7月24-25日（木-金）	かほく市立高松中学校「わく・ワーク（work）体験事業」	生徒3名	図書装備体験 カウンター業務体験 資料の複写業務体験
8月11日（月）	田鶴浜高等学校	生徒　35名	図書館の利用方法とデータベースの講習
10月7日（火）	小松市立高等学校	生徒　40名	図書館の概要説明
10月16日（木）	金沢伏見高等学校	生徒　40名	図書館の概要説明
10月17日（金）	星稜高等学校	生徒　30名	図書館の概要説明
10月25-26日（土-日）	大学祭 秋のオープンキャンパス	一般	図書館の開放　リユースコーナーの設置
5月14日（水） ～10月31日(水)	県政バス（津幡町他） 計8回	約300名	図書館の概要説明

9.5.3　学内で利用できるデータベース

	内　　　容	同時使用
最新看護索引 web	看護分野に限定した雑誌文献情報データベース。「日本看護学会論文集」平成 23 年度（第 42 回）より、電子版を掲載。全 10 領域の「論文集（電子版）」を閲覧・ダウンロードできる。 収録件数、約 20 万件、収録誌数 812 誌。更新頻度月 1 回。	3
PubMed	医学分野の代表的文献情報ﾃﾞｰﾀﾍﾞｰｽ。米国ＮＬＭ作成。医学・歯学・生命科学関係の 4,800 誌以上の雑誌から収録。 収録データ数約 1,600 万件。	ﾌﾘｰｱｸｾｽ
メディカルオンライン	医学文献の検索をはじめ、医薬品・医療機器・医療関連サービスの情報を幅ひろく提供。	ﾌﾘｰｱｸｾｽ
CINAHL	看護学・保健学分野の文献情報データベース。約 3,000 誌の専門誌が対象。データ数約 42 万件。（EBSCO 社）	4
PsycoINFO	心理学、行動科学、精神医学分野の文献情報データベース。29 カ国、20 以上の言語で出版されている 2,400 点の心理学関連資料から収録。	ﾌﾘｰｱｸｾｽ
医学中央雑誌	日本国内の医学・歯学・薬学及び関連分野の文献を網羅した文献情報データベース。収録誌数約 5,000 誌。収録件数約 630 万件。	8
Nii、CiNii （国立情報学研究所）	国立情報学研究所主宰の資料検索、学術雑誌文献検索、研究成果論文検索等を収録した総合検索システム。 （主宰：国立情報学研究所）	ﾌﾘｰｱｸｾｽ
JDreamⅢ	日本国内の科学関連分野の文献を網羅した総合抄録誌のインターネット版。医学・薬学領域予稿集全文ＤＢ。 収録約 5,200 万件。	10
ELSEVIER Science Direct	購読タイトル（9 誌）の 2007 年以降に出版された論文全て。購読誌「Applied Nursing Research 」他 8 誌 ｻﾌﾞｼﾞｪｸﾄ・ｺﾚｸｼｮﾝの論文すべて 対象ｻﾌﾞｼﾞｪｸﾄ：Nursing and Health Professions	4

9.6　職員研修

9.6.1　附属図書館職員の研修

日　　時	場　所	名　　　称	内　　　容	参加者名
4 月 11 日(金)	金沢市	第 1 回図書館協力業務・ネットワーク担当者会議 主催：石川県公共図書館協議会	県立図書館との相互協力について	東　加奈子
5 月 20 日(火)	金沢市	平成 25 年度第 1 回図書館実務講習会（初任者研修) 主催：石川県公共図書館協議会	図書館サービス等について研修	山田　志歩
6 月 5-6 日（木-金)	横浜市	公立大学協会図書館協議会事務長会・同総会、東海・北陸地区会議 主催：公立大学協会図書館協議会	・公立大学図書館の活動について ・中部地区幹事館として会議の開催	山本　晃暢
8 月 19 日(火)	小松市	石川県大学図書館協議会定例会議及び講演会 主催：石川県大学図書館協議会	県内大学図書館の活動について	山本　晃暢
9 月 10-12 日（水-金)	京都市	平成 26 年度図書館等職員等著作権実務講習会受講のため 主催：文化庁	図書館の実務に必要な著作権に関する知識の習得	山本　晃暢
9 月 25 日(木)	金沢市	大学間連携共同教育推進事業「図書館機能強化プログラム」講演会 主催：金沢大学附属図書館	大学職員のためのレポート作成指導法講座	山本　晃暢
10 月 3 日(金)	金沢市	第 2 回図書館協力業務・ネットワーク担当者会議 主催：石川県公共図書館協議会	県立、県内公共図書館との相互協力について	東　加奈子
10 月 21-22 日（木ー金)	東京都	「国立情報学研究所オープンアクセス・サミット 2014」 主催：国立情報学研究所	機関リポジトリによるオープンアクセスの新展開	山本　晃暢
11 月 5 日(水)	鹿島町	平成 26 年度石川県図書館大会 主催：石川県公共図書館協議会	生涯学習の拠点としての図書館の役割を研究討議・地域とつながる図書館	山田　志歩
11 月 5 日(水)	小松市	平成 26 年度石川県大学図書館協議会特別研修会 主催：石川県大学図書館協議会	「発達障害のある学生と大学図書館とのかかわり」について	山本　晃暢
11月21日(金)	横浜市	公立大学協会図書館協議会第 2 回（拡大）役員会 主催：公立大学協会図書館協議会	平成 27 年度総会日程、役員等について	山本　晃暢
12 月 9～12 日(火～金)	金沢市	平成 26 年度東海･北陸地区図書館地区別研修 主催：文部科学省 石川県教育委員会	図書館業務の専門的な知識・技術の習得を図る。	山本　晃暢 山田　志歩 東　加奈子
2 月 28 日-3 月 1 日（土-日)	京都市	2014年度第20回FDフォーラム「学修支援を問う　～何のために、何をどこまでやるべきか～」 主催：公益財団法人大学コンソーシアム京都	学修支援について事例を概観し、学びをどのように支援していくかについて議論する	山本　晃暢

１０．附属地域ケア総合センター

10.1 地域ケア総合センター運営委員会

委 員 長：長谷川昇　教授（地域ケア総合センター長）

委　　員：武山教授、川島教授、高山教授、林教授、山岸准教授、塚田准教授、中道講師、
中嶋助手、大西助手、金子助手、井上助手

事 務 局：岸事務員

活動内容：

人材育成事業、地域連携・貢献事業、国際貢献事業の企画・立案と事業実施を行う。

平成 25、26 年度の具体的な実績、次年度の企画については以下に記す。

10.1.1 人材育成事業

10.1.1.1 主催事業

平成 25 年度、地域ケア総合センターが主催した公開講座「放射線と看護」においては、ホームページやちらし、がんプロ事業との共催により広報の充実を図った。その結果、北陸 3 県から 80 名を上回る参加者があった。終了後のアンケートでは「とても満足」「満足」が 90%近くを占めた。平成 26 年度は、さらに広報活動を積極的に行った結果、『て・あーて「手を用いたケアの力」』の講演（川島みどり氏）では 100 名を越え、広報活動の効果がみられた。次年度は、事業テーマ設定について再検討を行うと同時に、ホームページの更新と広報の効果について評価する方法も検討する。

10.1.1.2　本学教員主催の研究会・事例検討会

平成25、26年度は、「ジェネラリストのための事例検討」、「ペリネイタルグリーフケア」、「子育て支援・虐待予防に関する勉強会」、「高齢者ケア事例検討会」、「がん看護事例検討会」などの事例検討会を開催した。次年度も同様に開催する予定である。

10.1.1.3　講師派遣事業

平成 25、26 年度は、病院からの研究指導の要望が 10 件ほどあり、教員の派遣を実施し、現場の看護指導ニーズを把握した。また、学会発表等の支援も行っている。次年度も医療機関からのニーズを的確に把握し、講師派遣を継続的に行う予定である。

10.1.2　地域連携・貢献事業

10.1.2.1　地域連携事業

平成25年度は、能登町の来人喜人里創りプロジェクトやかほく市の健康づくりを支援する取り組み等、地域住民との連携事業を引き続き実施した。宝達志水町の限界集落を支援する取り組みや被災地ボランティア経験を生かして地元かほく市の防災事業への協力も開始された。

平成26年度は、かほく市から提案された1人暮らし高齢者に対する学生の訪問事業や、宝達志

水町から要望された教員･学生の限界集落への継続的支援などを行い、地域の方々に喜ばれた。次年度は、かほく市との包括協定による健康データの見える化事業や認知症予防事業などを通して、本学の施設、人的・知的資源を地域社会へと還元する。

10.1.2.2　生涯学習講座

平成 25 年度は、一般市民向けの公開フォーラム（著名な真打落語家による「笑いと医療」）を有料講座として実施した。平成 26 年度は、「震災後を生きる人々からもらったプレゼント」、「がん体験者とその家族への支援」、「がん患者の就労・雇用支援を考えよう」、「死生観とケア」などの公開講演会を開催した。3 月には、アクティブシニア講演会「長寿社会に生きる」、専門家向けに「長寿社会における医療関係者への期待」を開催した。次年度は、かほく市との共催で、「子育てしやすい街づくり」フォーラムを予定している。

10.1.3　国際貢献事業

平成 25 年度は、独立行政法人国際協力機構（JICA）からの委託事業「高齢者福祉におけるケアシステムと人材育成」について、パラグアイ共和国から日系研修生２名を受け入れた。平成 26 年度は、ブラジル連邦共和国から１名、バラグアイ共和国から２名の研修生を受け入れ、25 日間の研修プログラムを実施した。次年度も引き続き、日系研修と青年研修事業、『中央アジアからの「保健医療システム」』に関する研修員受け入れ事業に応募する予定である。さらに、研修修了者の地域を対象とした研修成果の確認のためのフォローアップ研修事業（現地へ出向いた現状の調査）に応募する予定である。

10.1.4　かほく市との包括的連携

平成 25 年度は、かほく市との包括連携協定締結に係る協議会の開催とさらなる事業の充実をはかる情報交換・意見交換を継続した。かほく市が実施した体力測定では、本学の学生 40 名あまりが協力した。また、市職員を対象とした健康づくりのために「毎日健康倶楽部」を構築し、IT を活用したメタボリックシンドロームの改善を支援した。認知症にやさしいまちづくりでは、教員が継続的に支援を行い、かほく市保健福祉計画策定委員として市の認知症対策に参画した。平成 26 年度は、かほく市民体力テストに、3 日間で延べ 9 名の学生と 4 名の教員が参加した。かほく市との包括協定に基づく協議会を 10 月 23 日に開催し、本学からの提案である、「歩いて健康ポイント事業」が、新たにかほく市の来年度予算に組み込まれることになった。次年度は、一般市民を対象とした共同事業（「子育てしやすい街づくり」フォーラム）を実施する予定である。

１１．附属看護キャリア支援センター

11.1 看護キャリア支援センター運営委員会

委 員 長：丸岡直子　教授（看護キャリア支援センター長）

委　　員：林一美教授、石川准教授、北山准教授、木森講師、清水助教、

　　　　　浅見美千江特任准教授、竹村特任講師、小清水臨時講師

事 務 局：細川専門員、片山嘱託

活動内容：

平成26年度の活動目標として、北陸初となる感染管理認定看護師教育課程の開設と運営、公開講座の実施、および石川県高度・専門医療人材育成事業の後援を行った。

１．看護キャリア支援センターのホームページを作成し、事業案内を掲載した。

２．感染管理認定看護師教育課程に関して

　１）入学試験の実施

　　　平成26年5月10日（土）（平成26年度入学生）

　　　平成27年3月　1日（日）（平成27年度入学生）

　２）入試説明会の実施

　　　第1回　平成26年　7月19日（土）14:00～16:00　参加者18名

　　　第2回　平成26年11月15日（土）14:00～16:00　参加者24名

　３）公開講座の実施

　　　日　時：平成26年6月7日（土）

　　　講　師：橘幸子先生（福井大学医学部附属病院 副病院長・看護部長）

　　　内　容：パートナーシップ・ナーシング・システム新たな看護提供システムについて

　　　参加者：169名

11.2　感染管理認定看護師教育課程

11.2.1 受講生の応募・受講・修了状況

	定員	応募者数	入学者数	修了者数
平成26年度	30	35	30	30

11.2.2 感染管理部会（入試委員会）

部 会 長：丸岡直子　教授看護キャリア支援センター長）

部　　員：今井教授、石川准教授、浅見美千江特任准教授、竹村特任講師

　　　　　北川洋子（富山大学附属病院看護師長）

　　　　　室井洋子（福井大学医学部附属病院看護師長）

　　　　　野田洋子（金沢医科大学感染制御室課長）

越野まゆみ（石川県立中央病院看護師長）

活動内容：

１．募集要項の検討（日程、入学資格要件、試験科目等）

２．入学者の決定

11.2.3 感染管理教務委員会（教員会）

委 員 長：丸岡直子　教授看護キャリア支援センター長）

委　　員：川島教授、石川准教授、浅見美千江特任准教授、竹村特任講師

飯沼由嗣（金沢医科大学教授）

吉野幸枝（石川県看護協会会長）

青木きみ代（国立病院機構金沢医療センター）

近藤祐子（石川県立中央病院技師）

活動内容：

１．教育課程の内容、教育環境整備に関する検討

２．受講生の修了判定

１２．大学として取り組んでいる連携事業

12.1　北陸高度がんプロチーム養成基盤形成プラン

実施団体名

がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン(大学改革推進事業)

：金沢大学、金沢医科大学、福井大学、富山大学、石川県立看護大学

概要：

高度ながん医療、がん研究等を実践できる優れたがん専門医療人を育成し、わが国のがん医療の向上を推進することを目的とし、北陸では金沢大学、石川県立看護大学、金沢医科大学、富山大学、福井大学が申請し「北陸高度がんプロチーム養成基盤形成プラン」として採択された。全国で１５拠点が採択されている。本事業の特徴は、北陸地区における医科系４大学（金沢大学、富山大学、福井大学、金沢医科大学）と、看護系１大学（石川県立看護大学）より構成され、スキームは、①がん教育改革（本科８コース)、②地域がん医療（インテンシブ１１コース)、③がん研究者養成（本科２コース）より構成されている。①教育改革については、ＩＰＥによるチームマインド養成カリキュラム、多職種連携によるチーム医療のリーダー養成カリキュラム、医科系大学連携による単位互換制度を特徴としている。②地域がん医療については、能登北部地区等の医療過疎地域を拠点とした地域がん医療研修、インテンシブコースによる地域がん医療の指導者養成、がん専門医の地域定着を狙いとするコースを設けている。地域がん医療に貢献できる看護師養成コースを設け、地域看護の活性化、休職中看護職復帰へ繋げている。③研究者養成については、国際機関連携教育、卒前・卒後一貫教育、MD-PhD による学部・大学院一貫教育による高度な研究能力を有するがん研究者養成を図ることである。

12.1.1　がんプロ企画委員会

委 員 長：牧野智恵　教授

委　　員：石垣教授（学長)、吉田教授(研究科長)、今井教授、松原教授、彦准教授、
岩城准教授、原子特任助手、入道教務学生課長、松田課長補佐

活動内容：

１．本科生（がん看護専門看護師）の育成の検討

１）今年度から、これまで以上に専門的ながん看護専門看護師の育成を目指し、共通科目Ｂ（３Ｐ）6 単位と「がん看護学実習Ⅲ」4 単位を追加し、38 単位履修による教育を開始した。それに伴い、臨床薬理学、フィジカルアセスメント、病態生理学の強化、実習内容の強化（医師とのカンファレンスの実施による診断技術の強化）を行った。今年は、3 名の大学院生が入学した。

２）がん看護専門看護師として、国際的知識・技術の習得のため、イギリス緩和ケア視察・研修に参加し、北陸３県でのテレビ会議システムを通じて、研修報告を行った。

２．北陸３県の看護師へのがん看護に関する知識・技術の普及

１）インテンシブコースによる育成内容の検討・評価の実施

以下の４つのコースへの募集および成績判定を行った。

＜インテンシブＡコース＞

本科生を修了した者へのがん看護専門看護師受験をサポートするために、インテンシブＡコースを実施している。本コースには２名の申込みがあった。

＜地域がん看護師養成コースⅠ＞

大学院での科目履修を目的とするもので、今年度は、4名の申請があり、「臨床薬理学」「病態生理学」「フィジカルアセスメント」の科目を履修した。

＜地域がん看護師養成コースⅡ＞

テレビ会議システムによって北陸３県の15の病院と５つの大学間で、がん看護に関する事例を検討している。事例検討の後には、がん看護専門看護師によるミニレクチャーを実施している。各自の施設にいながらにして、事例の検討に参加し、他施設のがん看護の実践の様子を知ることができ、がん看護実践における知識や思考を支援している。今年度は、13名の看護師が参加した。

＜地域がん看護活性化コース＞

何らかの事情で現在休職あるいは退職している看護師を対象にしたコースで、がんプロ主催の公開講座や事例検討会などに参加することを通して、現在臨床で行われている様々な問題を聞き、再就業へのバリアを解消し、再就業しやすい環境を整えることを目的としたもの。今年度は、３名の看護師が申請した。

2）「リンパ浮腫ケア症状マネージメントを学ぶ」研修の企画・評価

今年度は、京都大学医学部附属病院のがん看護専門看護師を講師として招き、8月23日、24日両日、本学成人看護学実習室にて実施した。およそ40名の看護師が参加した。概ね満足の評価が多かった。

３）臨床倫理セミナーの企画・評価

今年度は、進藤喜予氏（市立芦屋病院　緩和ケア内科部長)、石垣靖子氏（北海道医療大学客員教授)、清水哲郎氏（東京大学特任教授）を招き、9月5日にホテル金沢にて実施した。およそ60名の看護師の参加があった。内容は概ね満足の評価が多かった。

４）市民公開講座によるがん看護に関する知識の普及

6月14日（土）ホテル金沢にて、「がん体験者とその家族への支援」と題して、市民公開講座を実施した。第1部では、HOPE Treeの代表者の東京共済病院がん相談支援センターの大沢かおり氏による「がん体験者とその子どもへの支援」の講演と、乳がん患者会「スマイルリボン」の小池真実子氏が「ここからまた始める～私らしい生き方～」というテーマで講演した。第2部では、女性クリニックWe富山の江嵐充治院長による「最新の乳がん治療」の講演を実施した。当日はおよそ75名の医師、看護師、がん体験者が集まった。概ね満足の評価であった。

３．各企画のアンケート内容の検討・評価

上記各コースおよび企画を実施後は、参加者からのアンケート集計を行い、次年度に向け評価を行った。リンパ浮腫ケア研修は、がんプロ事業によって知識・技術の普及も高まっていることから参加者が減ってきている。来年は1日実施とすることを決めた。また、倫理事例検討会については、来年度はがん看護と老年看護、そして精神看護専門看護師との企画を検討し、老年のがん患者の事例を手がかりにリベート方式で実施することを検討した。また次年度は、国からの補助金の削減に伴い、各企画を本学で実施することを検討。また、本科生の海外研修の補助費の見直しを行った。

12.1.1.1　がんプロ運営委員会

委 員 長：岩城直子　准教授
委　　員：金谷講師、子吉助教、寺井助教、川端助教、松本助教、原子特任助手
事 務 局：松田課長補佐
活動内容：
１．本学「北陸高度がんプロチーム養成基盤形成プラン」内容の実施

１）「リンパ浮腫ケアの症状マネージメントを学ぶ」の準備・実施・アンケート集計

平成 26 年 8 月 23 日(土)・24 日(日) 開催に向け準備、実施、アンケート集計を行った。参加者は 39 名で、北陸 3 県全てから参加があった。参加者の多くは、リンパ浮腫患者と接する機会が多い病院勤務や訪問看護ステーションに在籍する看護師、作業療法士であった。セミナーの内容に関するアンケート結果から、受講者にとって「わかりやすい」内容であり、満足度も高く、受講後のリンパ浮腫ケアに関する自己評価も上昇する傾向であった。

２）「がん看護における臨床倫理事例検討会」の準備・実施・アンケート集計

平成 26 年 10 月 4 日（土）開催に向け準備、実施、アンケート集計を行った。「セミナー後の問題解決への自信」について、「どちらかといえば自信がない」の回答が多い傾向にあったが、セミナー受講後の臨床倫理の事例検討に関する自己評価はセミナー受講前より有意に上がっていた。

３）「がん患者とその家族への支援」の公開講座の実施、アンケート集計

平成 26 年 6 月 14 日(土)の開催に向けて準備、実施、アンケート集計を行った。参加者は 75 名であり、医療職以外の参加が 3 割であった。講演の満足度は高かった。

４）「がん患者の就労・雇用支援を考えよう」の公開講座の実施、アンケート集計

平成 26 年 12 月 7 日（日）開催に向け準備、実施、アンケート集計を行った。講義内容について「参考になった」と答える人が 85～95%以上で、パネルディスカッションに関しても同様の結果であった。

12.2　大学間連携共同教育推進事業－ヒューマンヘルスケア人材育成プロジェクト－

実施団体名

大学間連携共同教育推進事業「学都いしかわ課題解決型グローカル人材育成システムの構築」
石川県における高等教育機関 19 の大学・短期大学・高専（大学コンソーシアム石川加盟校）

概要

平成 26 年度、石川県立看護大学は、大学間連携共同教育推進事業の本格稼動の初年度として民泊型フィールド実習に取り組んだ。前年度の準備を踏まえ能登町教育委員会との協議に基づき、能登町の柳田地区（柳田公民館）、宇出津地区（高倉公民館）、内浦地区（白丸公民館）3 地区において民泊型フィールド実習を展開することになった。

活動内容

1．フィールド実習オリエンテーション

フィールド実習の目的や方法についてオリエンテーションを実施、学生はオリエンテーション内容を聞き、希望する実習先を選択する。その結果、能登町における民泊型フィールド実習を 33 名の学生が選択した。

２．能登町町政概要等を知る

日　時：平成 26 年 4 月 24 日（金）16:20～17:50
講　師：能登町長　持木一茂氏
内　容：地域を学ぶ「世界農業遺産を活用した能登町の町づくり」質疑応答・意見交換　他
参加者：1 年次学生約 70 名、その他の学年の学生 3 名、教職員約 10 名

能登町の町政概要をパワーポイントならびに DVD を用いて持木町長から講義を受けた。能登町の人口、高齢化率をはじめとした人口動態に加え、産業、観光、伝統文化などの講義を受けた。学生は能登町に関する理解を深め、地元でありながら、知らない多くの能登町のことについて学びを得た。

３．能登町の視察

日　時：平成 26 年 4 月 25 日（土）8:00～17:00
場　所：能登町柳田教養文化館（能登町柳田礼部８－１）まで大型バスにて移動
内　容：①能登町の文化遺産を活かした公民館活動について：教育委員会職員からの講義
②能登町 3 地区のフィールドワークと公民館長等の講義
参加者：民泊型フィールド実習に参加する 1 年次学生 33 名、引率教員 6 名

能登町教育委員会職員 2 名から能登町の公民館活動について具体的に学ぶことができた。地域の生涯教育の拠点として公民館が果たす役割や各地域の特長についてフィールドワークを通して理解を深めた。この日の体験に基づいて 6 月のフィールド実習の活動計画の立案に生かすことになった。

４．3 地区における民泊型フィールド実習の実施

日　時：平成 26 年 6 月 18 日～20 日の 2 泊 3 日

場　所：①柳田公民館と地域の住民宅（民泊）

②高倉公民館と姫交流センター

③白丸公民館と地域の住民宅（民泊）

参加者：学生 1 年次 33 名、引率教員 6 名

3 地区に分かれて、「地域を知る」取り組みを各公民館の協力・支援を得て実施した。

５．成果報告会

日　時：平成 26 年 7 月 24 日（木）9:00～12:00

場　所：石川県立看護大学大講義室

内　容：各地区で実施した民泊型フィールド実習の報告のテーマは以下の通り

①柳田地区：「柳田地区住民の健康課題と提案」

②倉地区：「漁業、祭り、方言を通して、能登町高倉地区の理解を深める」

③白丸地区：「能登町白丸地区における住民同士のつながり」

参加者：1 年次学生 82 名、教職員約 20 名

６．各地区との交流継続

地域の祭礼に参加したり、老人会行事にスタッフとして参加したりすることになった。また、グラウンドゴルフの交流を継続していきたいとの要望がでるなど地域交流の継続できる基盤を築くことができた。

外部報告

大学間連携共同教育推進事業　平成 26 年度事業報告書

外部資金

大学間連携共同教育推進事業「学都いしかわ課題解決型グローカル人材育成システムの構築」連携大学の分担金　80 万円

12.3　大学コンソーシアム石川関連事業

12.3.1　いしかわシティカレッジ「地域と災害（基礎および実践）」

講師

武山雅志（学生等災害ボランティアリーダー育成事業研究会会員）

概要

平成 26 年度シティカレッジ前期科目として「地域と災害（基礎）」と「地域と災害（実践）」を開講した。「地域と災害（基礎）」には 17 名の受講生があり、７回の講義を実施した。「地域

と災害（実践)」には 15 名の受講生があり、宮城県石巻市における実践活動を実施するとともに最終回には「きずなフォーラム」を開催し、実践活動の振り返りを兼ねて発表を行った。

外部報告：

「地域と災害（基礎)」と「地域と災害（実践)」の活動内容については当研究会の他事業と併せて「平成 26 年度学生等災害ボランティアリーダー育成事業活動報告書」としてまとめた。

外部資金：

本講座の非常勤講師謝金は石川県公立大学法人と大学コンソーシアム石川および公益財団法人石川県県民ボランティアセンターの間の委託契約に基づいている。

12.4　能登キャンパス構想事業

実施団体名

能登キャンパス構想推進協議会：

石川県、金沢大学、石川県立大学、石川県立看護大学、金沢星稜大学、珠洲市、輪島市、能登町、穴水町

概要

高等教育機関のない奥能登地区をキャンパスと捉え学びの場とすることで能登の活性化（交流人口の拡大や若者の移住・定着等）を目的とした能登キャンパス構想推進協議会に本学が正式加盟して 3 年目である。本協議会は、石川県(能登半島地震復興基金)、上記４大学、奥能登 2 市 2 町が出資して運営している。

活動内容

１．理事会・幹事会への出席：

理事会は年 1 回（副学長、副市長)、幹事会は年 8 回開催

理事会で能登キャンパス構想推進協議会の翌年度の運営方針を審議・決定し、幹事会が実施する。

２．能登キャンパス学生教育・活動支援事業の採択・実施：

能登町提案「『美と癒し』をテーマとした活性化プロジェクト」に採択され、長谷川ゼミによる学生達が『ぽかぽか薬膳』を提案した。実際に能登町に出かけ、『ラブロ恋路』の料理長や支配人と話し合い、自分達の作ったレシピ（紙上のメニュー）をどう具体化（料理）していくかについて、意見交換しながら、料理のできる過程を体験した。能登の食材をふんだんに用いた薬膳料理を新たなメニューとして採用された。取り組みの経過を平成 27 年 3 月 21 日に、能登空港会議室において開催された能登キャンパス構想推進協議会成果報告会で発表した。

３．祭りの輪への参加：

石川県立大学と石川県立看護大学、金沢大学合同で珠洲のデカ曳山祭り（平成 26 年 10 月 11・12 日）に総勢 24 名の学生が参加した。引率教員は 2 名、看護師 1 名である。奥能登珠

洲に再興した祭りにおいて、デカ曳山の由来を学ぶと共に地域住民と一緒にデカ曳山を引く体験をした。

４．地域大学連携サミット in 穴水の参加（平成 26 年 10 月 18 日）:

奥能登をキャンパスとして活用している医療系学生の事例として『民泊型フィールド実習』の学びを 1 年次学生が発表した。他大学の学生の発表も聴講し、多様な取り組みの可能性について学んだ。

外部報告

１．地域大学連携サミット in 穴水において『民泊型フィールド実習』の報告　1 年次学生 3 名
２．能登キャンパス構想推進協議会成果報告会にて『ぽかぽか薬膳』についてメニューを創作し、発表した。２年次学生１名

外部資金

能登キャンパス学生教育・活動支援事業　30 万円

編集後記

石川県立看護大学 平成 26 年度年報は、本学の教育・研究・地域貢献の実績を学外により一層わかりやすく提示するために、従来の年報の内容構成等を少し変えて作成しました。例えば、看護学部看護学科と大学院・看護学研究科を別々に項目立てして記載したり、平成23 年度から導入されている公立大学法人としての中期計画・年度計画について、平成26 年度計画と実績の重点項目を中心に紹介したり、学内の委員会活動をこの中期計画に沿う形で「実績、自己評価、次年度以降の方向性・計画」という流れで記載するようにしました。また、外部から資金を受けて大学として取り組んでいる事業や、教員が外部から受けている研究助成金、国際交流活動等の分類を吟味し、諸活動を再区分しました。皆様が年報を見て「本学の活動や本学の特徴がよくわかる」と思っていただけるようなものになるよう今後も工夫していきたいと考えています。

平成26 年度の特徴としては、入学時からの社会人基礎力の養成や異学年交流の推進をめざして設けられた、ボランティア活動等を単位化した科目「ヒューマンヘルスケア」を開設したこと、大学院において専門看護師の実践力向上をめざした新たな専門看護師教育課程(26 単位から38 単位に増加、臨床現場での実習等を充実)を開始したこと、生涯学習支援の充実として「感染管理認定看護師教育課程」を開設し、現場のリーダーとなる看護職者を育成したこと、国際交流の推進として韓国全北大学看護学部と新たに覚書を締結したこと等が挙げられます。他にも、教職員の学内外での役割や活動を報告しています。

本誌の編集にあたり各委員会、附属地域ケア総合センター、附属図書館、附属看護キャリア支援センターの皆様から多大なご協力を頂きましたことにお礼を申し上げます。また、実質的な作業を担った田村幸恵委員、山崎正志主任主事、田淵幸幾主事の労をねぎらいたいと思います。皆様のご協力に感謝申し上げます。

2015 年 9 月吉日　自己点検・評価委員会　西村真実子

平成26年度　石川県立看護大学年報　第15巻
2015 年 9 月 30 日　発行

編集：石川県立看護大学　自己点検・評価委員会

発行：石川県公立大学法人　石川県立看護大学
〒929-1210　石川県かほく市学園台 1 丁目 1 番地
tel.076-281-8300　　fax.076-281-8319

「版権は石川県公立大学法人に帰属する。」

（この冊子は、印刷用の紙へリサイクルできます。）